

2076/24

例言

一本書ハ刑事訴訟法ノ原理ヲ説明シタルモノナリ
一本書總則ヲ解スル密ニシテ各條ヲ解スルノ粗ナル
ハ總則ハ之ヲ了解スル困難ナルモ各條ハ然ラサル
カ故ナリ

一本書ハ余カ著日本警務全書上卷附錄第四刑事訴訟
法撮要ヲ割テ別冊トシタルモノニ過キサルカ故ニ
往々解釋説明ノ足ラサルモノアルハシ讀者是ヲ諒
セヨ

明治二十四年八月

著者謹識



25/10/01

刑事訴訟法要義目次

刑法下刑事訴訟法下ノ關係	一
刑事訴訟法ノ目的	一
刑事訴訟法ノ二大主義	二
第一篇 總則	三
第一章 裁判所	一一六
第二章 裁判所ノ管轄	一一六
第三章 裁判所職員ノ除斥及ヒ	一三三
第四章 忌避、回避	一三七
第二章 犯罪ノ搜查起訴及ヒ豫審	一三七
第三章 搜查	一三七
第一章 搜查	一四二
第一節 告訴及ヒ告發	一

第二章	現行犯罪	一五二
第二章	起訴	一六〇
第三章	豫審	一六八
第一節	令狀	一七〇
第二節	密室監禁	一九一
第三節	證據	一九三
第四節	被告人ノ訊問及ヒ對質	一九六
第五節	檢證搜索及ヒ物件差押	二〇〇
第六節	證人訊問	二〇七
第七節	鑑定	二二二
第八節	現行犯ノ豫審	二二六
第九節	保釋	二三三

二

第十節	豫審終結	二三九
第四篇	公判	二四六
第一章	通則	二四六
第二章	區裁判所公判	二六五
第三章	地方裁判所公判	二七四
第五篇	上訴	二七八
第一章	通則	二七八
第二章	控訴	二八三
第三章	上告	二九三
第四章	抗告	三〇五
第六篇	再審	三〇八
第七篇	大審院ノ特別權限ニ屬ス	

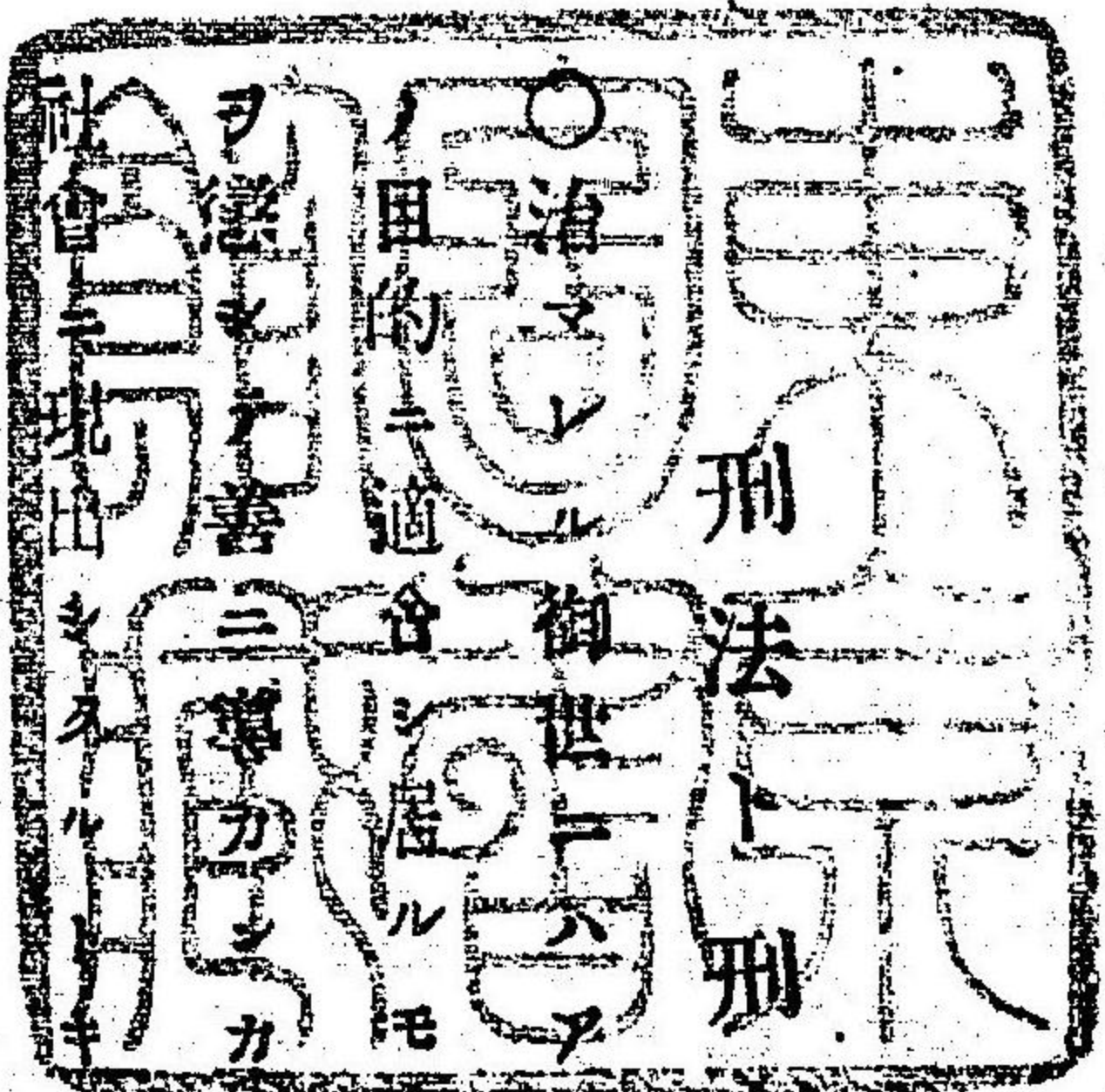
三

ル訴訟手續	四
第八篇 裁判執行復權及ヒ特赦	三一三
第一章 裁判執行	三一六
第二章 復權	三一九
第三章 特赦	三二一
附則	

刑事訴訟法要義目次終

刑事訴訟法要義

山田正賢 著述



刑法ト刑事訴訟法トノ關係

治之レル御世ニハアレト悲ヒ哉年々歳々惡漢絶ヘスシテ人生究竟目的ニ適合シ居ルモノ稀レナリ國家之ヲ患ヒテ刑罰ヲ設ク蓋シ惡ヲ懲ル善ニ導カシカ爲ナリ而シテ不幸ニシテ刑罰ヲ加フヘキモノ社會ニ此出キタルモノハ社會ハ之ヲ罰シテ決シテ法網ヲ脱ヒレメサルコトヲ要ス刑法ハ刑罰ヲ科スヘキ所爲及ヒ之レニ適用スヘキ刑ヲ定メタルモノニシテ刑事訴訟法ハ刑罰ヲ實行スルノ機關并ニ方式ヲ定メタルモノニシテ二者相待テ始メテ其効用ヲ現ハスモノナリ

刑事訴訟法ノ目的

刑事訴訟法、刑法ト刑事訴訟法トノ關係、刑事訴訟法ノ目的

○破法者ニ正當ノ手續ヲ以テ刑罰ヲ適用シ之ヲ實行スルハ刑事訴訟法ノ目的ナリ故ニ一方ニ於テハ破法者ヲ漏レナク罰シテ國家ノ利益ヲ保護スヘク一方ニ於テハ罪ナキ臣民ノ權利ヲ保護スヘキモノトス

刑事訴訟法ノ二大主義

○刑事訴訟ノ目的ヲ達センカ爲ニ採ル所ノ主義ニ二アリ一ヲ彈劾主義ト云ヒ一ヲ糾問主義ト云フ

糾問主義ニ在テハ審査彈劾判決ノ諸務ヲ裁判官ノ一身ニ聚メ彈劾主義ニ在テハ求刑辨護ヲ各々獨立ノ機關トシ同一ノ地位ニ立タシメ裁判官ハ原被告兩造ノ主張スル所ヲ審査シテ之カ判定ヲ與フルナリ此二主義各々長所アリト雖モ然レトモ彈劾主義ヲ以テ勝レルモノトス我カ國ノ刑事訴訟法ハ右二大主義ノ就レヲ採リシモノナルヤ或ル學者ハ公訴ハ檢事ノ行フヘキモノト定メタルカ故ニ糾問主義ニ據リレ

モノナリト云ヘルモコハ公訴ヲ行フモノ、官吏タルト私人タルトニヨリテ糾問ト彈劾トヲ區別スルノ標準トセル陳腐ノ說ヲ主張スルモノニ過キス

第一編 總則

○本編ハ第一條ニ始マリ第二十四條ニ終ル凡テ二十四ヶ條此法全體ニ關スル法則ヲ定メタルモノナリ

第一條

公訴ハ犯罪ヲ證明シ刑ヲ適用スルコトヲ目的トスルモノニシテ法律ニ定メタル區別ニ從ヒ檢事之ヲ行フ

一 本條ノ要旨

○本條ハ公訴ノ目的ト公訴ヲ行フ人トヲ定メタルモノナリ

二 公訴ノ定義

○公訴ハ破法者ニ對シ相當ノ刑罰ヲ科セラレシコトヲ要ムルノ訴ナリ故ニ其定義ハ公訴ハ刑ノ適用ヲ要ムルノ訴ナリト云フヲ以テ充分ナリトス

三 公訴ノ發生

○公訴ハ刑ノ適用ヲ要求スルノ訴ナルカ故ニ茲ニ公訴權發生セリト云ハシニハ必スシモ犯罪ナカルヘカラス然ラサレハ刑ヲ適用スヘキ事物ナシ刑ヲ適用スヘキ事物ナクシテ而シテ刑ノ適用ヲ要求スルハ理ノ許サ、ル所ナリ公訴權ハ犯罪ト共ニ發生スルモノニシテ犯罪以前ニ生スルモノニアラス

四 公訴ノ目的

○公訴ハ刑ノ適用ヲ要求スルヲ以テ其目的トナス
公訴ノ目的ニ關シ尙ホ二箇ノ注意ヲ要スルモノアリ

イ 犯罪ノ證明ハ公訴ノ目的ニアラス

○犯罪ヲ證明スルヲ以テ公訴ノ目的トスル學者アリ曰ク公訴ノ第一ノ目的ハ罪ノ證明ニシテ罪證明セラレサルトキハ之ニ刑罰ヲ適用スルコトヲ得ス罪ノ證明ハ本ニシテ刑ノ適用ハ末ナリト非ナリ公訴ノ直接ノ目的ハ刑ノ適用ニシテ之ヲ除テ他アルニアラス
公訴ハ破法者ニ制裁ヲ加ヘシメンカ爲メニ行フモノナリ犯罪ノ證明ハ刑罰適用ノ手續上必要ナルニハ相違ナケレトモ證明ノミニテハ制裁ヲ加ヘ得タリト謂フコトヲ得ス犯罪ノ證明ハ公訴ノ目的ニアラスルコト疑フヘカラス若シ或ル學者ノ說ノ如ク犯罪ヲ證明セサレハ刑罰ヲ加フルコトヲ得サルカ故ニ犯罪ノ證明ハ公訴ノ第一ノ目的ナリトナサバ論理上令狀執行モ家宅搜索モ身体検査モ犯人逮捕モ未決拘留モ皆公訴ノ目的ナリト論定セサルヘカラス何トナレハ之レ等ノコ

トハ刑罰ヲ適用センカ爲ニ必要ナレハナリ蓋シ或ル學者ノ説ハ目的ト手續トヲ混同シタルノ淺見ニ過キス

ロ 公訴ノ目的ト刑事訴訟法ノ目的トノ差異

○公訟ノ目的ト刑事訴訟法ノ目的トハ彼此相同シキカ如ク見ユルニヨリ之ヲ混同シツ、アル學者澤山アレトモ決シテ二者ノ目的相同シキモノト誤解スヘカラス即チ刑罰ノ適用ト實行トハ刑事訴訟法ノ目的ニシテ刑罰ノ適用ヲ要求スルハ公訴ノ目的ナリトス

五 「法律ニ定メタル區別」ノ解

○法律ニ定メタル區別トハ檢事其執務ノ管轄ニヨリ生スル區別ヲ謂フモノニシテコハ裁判所構成法ノ定ムル所ナリ

六 「檢事之ヲ行フ」ノ解

○檢事之ヲ行フトハ公訴ハ檢事ニ於テ行フヘキモノナリトノ謂ヒナ

公訴權ハ國家ニ屬スルモノ(人生ノ目的上並ニ國家ヲ治スルニ必要ナルカ故ニ)ナレトモ國家ハ無形人ナルカ故ニ國家自ラ之ヲ行フコトヲ得ス故ニ國家ハ公訴權實行ヲ檢事ニ委任シタリ

公訴ハ檢事ニ於テ行フヘキモノナレトモ敢テ檢事ニ屬スルモノニアラス從テ之ヲ左右スルノ權ナシ何トナレハ刑罰權ハ國家ニ屬スルモノニシテ之ヲ實行スル公訴權ノ獨リ檢事ニ屬スルノ理ナケレハナリサレハ檢事ニ於テ公訴ヲ行フハ國家、委任ヲ受ケタルカ故ニシテ敢テ檢事ニ屬スルモノニアラスト知ルベシ

七 本條ノ批難

○本條公訴ノ目的ハ刑ノ適用ナリト云ヒテ公訴ノ目的ト刑事訴訟法ノ目的トヲ混同シタルヤノ嫌ヒアリ且ツ公訴ノ目的ノミヲ云ヒテ公

訴ノ何者タルコトヲ示サス又公訴ノ目的ニ關係ナキ犯罪證明ノ語ヲ用ヒタルニヨリ頗ル批難ナキニアラス故ニ本條ヲ左ノ如ク改メテ其意ノアル所ヲ解スヘシ

公訴ハ刑ノ適用ヲ要求スルノ訴ニシテ法律ニ定メタル區別ニ從ヒ檢事之ヲ行フモノトス

第二條

私訴ハ犯罪ニ因リ生シタル損害ノ賠償贓物ノ返還ヲ目的トスルモノニシテ民法ニ從ヒ被害者ニ屬ス

一 本條ノ要旨

○本條ハ私訴ノ目的ト私訴權ヲ有スル人トヲ定メタルモノナリ

二 私訴ノ定義

○私訴ハ公訴ノ原因タル事實ニヨリ受ケタル損害ノ回復ヲ要求スル

ノ訴ナリ

三 私訴ノ發生

○私訴權ハ其源ヲ犯罪ニ汲ムモノニシテ犯罪ナケレハ私訴權アルノ理ナキモノナリ然レトモ茲ニ所謂犯罪トハ私人ニ損害ヲ加フルノ犯罪ニシテ公益ノミヲ害スル犯罪ニアラサルコトヲ了解セサルヘカラス又公益ト私益トヲ害スル犯罪ト雖モ必スシモ私訴權發生ノ原因トナルモノニアラサルコトヲ了解セサルヘカラス

凡ソ犯罪ニハ公益ヲノミ害スル犯罪例令ハ私人ニ何等ノ損害ヲ加ヘサル單純ノ未遂犯ノ如キ又ハ單純ノ國事犯ノ如キモノト公益ト私益トヲ併セ害スル犯罪例令ハ強盜盜犯ノ如キ又ハ謀故殺犯ノ如キモノトノニアリ而シテ公益ト私益トヲ害スル犯罪ハ即チ私訴權發生ノ原因ナリ何トナレハ或ル特定ノ一人ニ於テ損害ヲ受ケタレハナリ之

ト反シテ公益ヲノミ害スル犯罪ヨリハ私訴權發生スルコトナシ何トナレハ爲ニ損害ヲ受ケタル特定ノ私人之ナキカ故ナリ然レトモコ、ニ注意スヘキハ公益ト私益トヲ併セ害スル犯罪ト雖モ必スシモ私訴權發生ノ原因トナルモノニアラサルコトナリ即チコノ犯罪ト雖モ寸毫モ私人ニ損害ヲ加ヘサルコトアルヘキカ故アリ例令ハ窃盜罪ハ公益ト私益トヲ併セ害スル犯罪ナレトモ盜奪者自ラ悔ヒテ直チニ其贓物ヲ被害者ニ還附シタルカ爲ニ被害者ニ毫モ損害ヲ生ヒサル場合ノ如シ要スルコ私訴權ハ其源ヲ犯罪ニ汲ムモノナレトモ凡テノ犯罪ハ私訴權發生ノ原因ナリト解スヘカラス又公益ト私益トヲ害スル犯罪ト雖モ必スシモ私訴權之ニ伴フモノト解スヘカラス私訴權ハ私權利ヲ毀損セル事實ト其發生ヲ共ニスルモノニ過キ

四 私訴權發生ノ要素並ニ犯罪ニ因リノ解

○私訴權發生ノ要素三アリ左ノ如シ

- 一 公訴ノ原因タル事實アルコト
- 二 其事實ヨリ現ニ損害ヲ受ケタルコト
- 三 其損害ハ直接ノモノナルコト

第一第二ノ要素ハ前段既ニ之ヲ説キ盡セリ

本條ハ私訴ハ犯罪ニ因リ生シタル云々トアリ淺見ヲ以テスレハ犯罪ニ起因シタル損害ニ就テハ凡テ私訴權アルカ如ク解セラレトモ決シテ然ラス「犯罪ニ因リ」トハ「犯罪其者ニ因リ」トノ意ナリ故ニ犯罪アリシカ爲ニ受ケタル損害ト雖モ直接ノモノニアラサレハ私訴權發生セサルモノトス例令ハ檢事甲者ヲ或ル犯罪事件ノ本犯ナリト誤認シテ公訴權實行ノ手續ヲナシ豫審判事之ヲ拘留シタリ然ルニ後ニ至リ其

本犯ハ乙者ナルコトヲ覺知シ甲者ヲ放免シタルトキノ如キ甲者ハ乙者ノ犯罪アリシ爲ニ損害ヲ受ケタルニハ相違ナケレトモ犯罪其者ニヨリ直接ニ損害ヲ被リタルニアラスシテ檢事ノ誤認ニ基クモノナルカ故ニ私訴權發生セサルモノトス

損害ノ直接ナルト間接ナルトヲ識別スルハ容易ナリト雖モ初學ノ人ノ爲ニ左ニ例ヲ設ケテ説明スベシ

甲者乙者ヨリ歐打創傷セラレタルカ故ニ一ヶ月間疾病休業ノ身トナレリ

爲ニ醫師ヘノ藥禮並ニ養生費等若干ノ金圓ヲ費消シ且之カ爲ニ某ニ借用セシ金圓ヲ返済スルコト能ハズシテ尙ホ一ヶ月分ノ利息ヲ支拂フコト、ナレリ

又一ヶ月間休業シタルカ故ニ平常得ル所ノ營業上ノ利得ヲ失ヒ爲

ニ利益アル事業ニ之ヲ利用スルコトヲ得ザリシ

右ノ例ヲ尙ホ左ニ

歐打創傷……傷

一ヶ月間休業……得ヘキ利益ヲ失ヘリ……利益アル事業ニ利用スルコトヲ得

藥禮養生費……借用ノ金ヲ債主ニ返済スルコト能ハザリシヨリ一ヶ月ノ利息ヲ支拂フコト、ナレリ

右ノ場合ニ於テ歐打創傷罪ヨリ直接ニ受ケタル損害ハ傷ナリ加害者乙ハ其傷ヲ償ハサルヘカラス然レトモ理論上傷其者ヲ償フコトヲ得サルカ故ニ傷ヨリ直チニ生シタル損失即チ藥禮及ヒ養生ノ爲ニ費消シタル金圓及ヒ一ヶ月間ノ休業ヲ償フヘキナリ又コノ一ヶ月間ノ休業モ休業其者ヲ償フコトヲ得サルカ故ニ休業ヨリ直チニ生シタル損失即チ營業上一ヶ月間ニ得ヘキ利得ノ喪失ヲ償フヘキナリ尙ホ詳シク云ハ、藥禮及ヒ養生ノ爲ニ費消シタル金圓并ニ一ヶ月間ノ休業ハ

歐打創傷トイフ一ノ所爲ト直接ノ關係アルモノニアラスシテ傷トイ
 フ一ノ事實ト直接ノ關係アルモノナリ又一ヶ月間ノ利得ノ喪失ハ一
 ケ月間休業トイフ事實ノ結果ニシテ傷并ニ歐打創傷トハ間接ノ關係
 ヲ有スルニ過キサルモノナリ而モ加害者ニ於テ之ヲ償ハサルヘカラ
 サルハ何ソヤ他ナシ歐打創傷ノ直接ノ結果即チ傷共者ヲ償フコトヲ
 得サルカ故ニ傷ノ爲ニ受ケタル損失並ニ妨ケラレタル利得ヲ賠償セ
 サルヘカラサル道理ナレハナリ藥禮及ヒ養生ノ爲ニ不時ノ金圓ヲ費
 消シタルカ故ニ借用金ヲ返濟スルコト能ハスシテ支拂タル利足并ニ
 利得ヲ妨ケラレタルカ爲ニ有利ノ事業ニ資本ヲ投スルコト能ハサリ
 シ損害ノ如キハ負傷共者ヨリ直チニ生シタル損害ニアラサルガ故ニ
 加害者ハ之ヲ償フノ義務ナキモノトス
 甲者乙者ヨリ時計ヲ奪取セラレタリ

爲ニ大ナル不便ヲ來メ止ムナクシテ新タニ時計ヲ購求セリ
 右ノ例ヲ尙ホ左ニ

時計奪取……時計紛失……不便……購求

右ノ場合ニ於テ奪取ヨリ直接ニ受ケタル損害ハ時計ノ紛失シタルコ
 トナリ加害者ハ其紛失ヲ償ハサルヘカラス然レトモ理論上紛失トイ
 フコトヲ償フコト能ハサルカ故ニ紛失ヨリ直チニ生シタル結果ヲ償
 フベキモノナリ即チ時計依然存スルトキハ時計ヲ返還スヘク若シ又
 毀損其他ノコトニ依リ返還スルコト能ハサルニ至リタルハ其代價
 ヲ償フヘク又時計ノ紛失中來メシタル不便ヲ金錢ニ見積リテ賠償ス
 ヘキナリ新タニ時計ヲ購求シタル費用ノ如キハ奪取ヨリ直接ニ生シ
 タル結果即チ避クヘカラサル結果ニアラスシテ甲者ノ自由ニ購求シ
 タルモノナルカ故ニ加害者ハ之ヲ償フノ義務ナキモノトス

要スルニ犯罪ニ因リ直チニ生シタル損害ハ之ヲ賠償セシムルノ權アレトモ間接ノ損害ハ犯者ノ所爲ヨリ生シタルモノニアラスシテ只之カ機會ヲ與ヘタルニ過キサレハ爲ニ私訴權發生スルモノニアラストス

最モ純理ヨリスレハベリム氏ノ言テ云ヘルカ如ク直接ノ損害ト間接ノ損害トヲ問ハス對手人其人ノ所爲ニ起因スルノ證據充分ナリト認ムルコトヲ得ル場合ニ於テハ賠償ノ責ニ任スヘキモノナレトモ實際如斯スルトキハ損害ニ損害ヲ生セシメテ停止スル所ナク其弊ヤ云フニ忍ビザルモノアルニ至ラン故ニ法律ハ直接ノ損害ノ外ハ賠償ノ責ナキモノト定メタリ
尙ホ損害ノ直接ナルト否トノコトニ關シテ後段被害者ノ何者タルヲ解スルニ際シ一言スルコトアルベシ

五 私訴ト民事上私權利ノ回復トノ別

○私訴權ハ民事上ノ訴權ナレモ其源ヲ犯罪ニ汲ムモノナルカ故ニ純粹ノ民事上ノ訴權ト異ナリ其異ナル點左ノ如シ

- 一 私訴ハ公訴權ノ原因タル事實ニヨリ毀損セラレタル私權利ノ回復ヲ要求スルモノナレモ純粹ノ民事上ノ訴權ハ然ラズ
- 二 私訴ハ刑事裁判所ニ之ヲナスコトヲ得レモ民事ノ訴ハ然ラズ
- 三 私訴ノ期滿免除ハ刑事訴訟法ニ定メタル期滿免除ノ法ニ從フベキモノナレモ民事ノ訴ハ然ラズ

六 私訴ノ目的

○私訴ノ目的ハ侵害セラレタル私權利ノ回復ヲ要ムルニアリ私權利ノ回復ヲ要ムル方法ニニアリ一ハ損害ノ賠償ニシテ一ハ贖物ノ返還ナリ

七 損害賠償

○損害賠償トハ加ヘタル損失若クハ妨グタル利得ヲ償フコトヲ云フ

イ 損害賠償ノ方法

○損害ニニアリ一ハ有形ノ損害ニシテ一ハ無形ノ損害ナリ人ノ名譽ヲ侵害スルカ如キハ無形ノ損害ニシテ身体若クハ財産ニ關スル權利ヲ毀損スルカ如キハ有形ノ損害ナリ凡テ損害ハ有形ト無形トヲ問ハス通用貨幣ヲ以テ賠償スルハ通例ナレトモ貨幣以外ノモノヲ以テ賠償セシムルコトアリ即チ無形ノ損害ノ場合ニ於テ被害者ノ請求ニヨリ加害者ノ費用ヲ以テ裁判宣告書ヲ新聞紙ニ公告スヘキコトヲ命スルカ如キ然リ又加害者ニ資力ナク且ツ其承諾アルトキハ被害者ノ請求ニヨリ理論上勞力技藝等ヲ以テ賠償ノ手段ト爲スコトヲモ得ヘキナリ要スルニ損害ハ貨幣ヲ以テ賠償セシムルヲ通例トスレトモ場合

ニヨリテハ必スシモ貨幣ノミニ限ルモノニアラスト知ルベシ

ロ 賠償額

○貨幣ヲ以テ損害ヲ賠償スル場合ニ於テ其金額ヲ定ムルハ裁判官ノ任ナリ裁判官ハ能ク其事實ヲ審査シ損害額ト賠償額トニ過不及ナカラシメンコトヲ勉ムベキナリ

然レトモ茲ニ注意スヘキハ金錢ノ害ノコトナリ金錢ニ係ル損害賠償額ハ法定ノ利子以上ニ及ブコトヲ得サルモノトス(元金ヲ返却セシムルハ固ヨリナリ)

又利子ハ私訴ヲ起シタル日ヨリニアラズシテ犯罪ニヨリ損害ノ生ジタル日ヨリ計算シテ之ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス(參考○民法財産篇第三百八十四條第二項ニ於テ不作爲ノ義務ニ於テハ債務者ハ常に當然遲滞ニ在リト定メ其第三項ニ犯罪(民事上ノ犯罪ヲ云フ)ニ因リテ他人ニ關スル金錢其他有價物ヲ返還スル責ニ任スル者モ亦同シト定メタリ)

喪失トハ 有意犯ト無意犯トニヨリテ損害賠償ノ責ヲ異ニスルモノ
ニアラス

○或ル學者曰ク民法財産篇第三百八十五條第二項ニ曰ク然レトモ債
務者ノ惡意ナク懈怠ノミニ出テタル不履行又ハ遲延ニ付テハ損害賠
償ハ當事者カ合意ノ時ニ豫見シ又ハ豫見スルヲ得ヘカリシ損失ト利
益ノ喪失トノミヲ包含スト同第三項ニ曰ク惡意ノ場合ニ於テハ豫見
スルヲ得サリシ損害ト雖モ不履行ヨリ生スル結果ニシテ避クヘカラ
サルモノタルトキハ債務者其賠償ヲ負擔スト此法則ハ私訴權ニモ亦
適用スヘキモノナリ即チ有意犯者ハ豫見スルヲ得サリシ損害ト雖モ
其行爲ヨリ生シタル損害ニシテ避クヘカラサル結果ナルトキハ之ヲ
賠償セサルヘカラス又無意犯者ハ其當時豫見シ又ハ豫見スルヲ得ヘ
カリシ損害ノ賠償ヲ爲スノ責アルノミニナリト余思フニ此說誤レリ民

法ニ定メタルハ義務ノ不履行及ヒ遲延ノコトニシテ刑事上ノ犯罪ト
何等ノ關係ヲ有セスサレハ直チニ彼ノ法條ヲ私訴ニ適用セントスル
ハ誤レルモノト云フヘシ若シ又理論上ヨリスルトキハ有意犯ト無意
犯トヲ問ハス爲ニ損害ヲ被ラシメタルトキハ凡テ之ヲ賠償セサルヘ
カラス苟モ犯罪ヨリ直接ニ生シタル損害ナランニハ之ヲ賠償スルニ
於テ何ソ有意犯ト無意犯トヲ區別スルノ要アラシヤ何ソ豫知シ得ヘ
キ損害ト否トヲ區別スルヲ要センヤ余ハ或ル學者ノ說ニ服スル能ハ
サルナリ

ニ 謝罪書ヲ公示スルハ非理ニアラス

○或ル學者曰ク我カ國ニ於テ損害ノ名譽ニ係ル場合ニ於テ謝罪書ヲ
新聞紙ニ掲ケシムルコトアリ然レトモ余ハ此賠償法ヲ是認セス何ト
ナレハ加害者ニ強テ謝罪書ヲ公告セシムルトキハ被害者總テ加害者

ノ名譽ヲ毀損シ却テ反訴ヲ爲スヲ得ルニ至ルベケレハナリ然ラハ即チ謝罪書ノ公告ヲ強ユルハ之ヲ誹毀スルニ同ク暴ヲ以テ暴ニ代ユルモノト云フヘシ且ツ夫レ加害者既ニ刑法上ノ制裁ヲ受ク尙ホ之ヲシテ其罪ヲ公衆ニ謝セシムルハ二重ノ刑罰ヲ加フルモノニアラスシテ何ツヤ此賠償法ノ非理ナル知ルヘキナリト余カ見ヲ以テスレハ然ラス

抑モ名譽トハ人生究竟ノ目的ニ適合スル行爲ヨリ生スルモノニシテ善事ニ與フルノ賞辭ナリ人生ノ本分ニ適合スルモノニアラサレハ其事如何ニ利アリトモ世人ノ賞賛如何ニ喧クトモ以テ名譽ト稱スヘカラス今ノ世ノ人徳義ノ思想ナクシテ利之レ事トシ口ニハ正義ヲ唱ヘナカラ共行ハトイヘハ不徳不義ノコトノミ之レガ故ニヤ何ニカ花々シキ活劇ヲ演スルモノ若クハ一攫千金ノ富ヲ倖僥スルモノアレハ世

人之ヲ賞賛シテ舍カス而シテ其事ノ人生ノ目的ヲ増進スルノ行爲ナルト否トヲ問ハスア、悲ヒ哉人心ノ腐敗歎スベキ哉名譽ノ濫用余カ見ヲ以テスレハ或ル學者モ亦名譽濫用ノ一人ナリ加害者被害者ノ名譽ヲ毀損シタルカ故ニ其事實ヲ新聞紙ニ掲ケテ之ヲ公衆ニ告ケ以テ己レガ不徳ノ行爲ヲ謝スヘキヲ強ニ此事何ツ加害者ノ名譽ヲ毀損シタリト云ハンヤアリモセヌ事實若クハ加害者ヲ誹毀罵詈スルノ語ヲ強テ公告セシムルハ格別苛モ其事ノ事實ニシテ而シテ單ニ不義ノ行爲ヲ謝スルヲ強ユルノミナランニハ豈加害者ノ名譽ヲ毀損シタリト云ハンヤ却テ過ヲ改メタルカ爲ニ本心ニ愉快ヲ覺ヘン而モ謝罪其者ヲ目シテ誹毀ト同一ナリトスルハ何事ソヤ且夫レ其罪ヲ公衆ニ謝セシムルハ二重ノ刑罰ヲ加フルト同一ナリト云フニ至テハ言語同斷淺見ノ尤モ甚シキモノニシテ別ニ辨駁ヲ與フル程ノ必要ヲ感セサ

ルナリ蓋シ或者ノ説ハ謝罪ト誹毀ト併行シテ分離セサルモノト推斷シタルノ淺見ニ過キス

要スルニ加害者ヲ罵詈誶毀スルノ語ヲ強テ新聞紙ニ掲載セシムルハ固ヨリ不可ナレトモ單ニ罪ヲ謝スルノ書ヲ掲載シテ天下公衆ニ廣示スルハ決シテ非理ニアラサルナリ

然ラハ即チ強テ謝罪書ヲ新聞紙ニ掲載セシムルハ法理ノ許容スヘキ所ナルヤ曰ク否此事タル敢テ非理ニアラスト雖モ法理上ヨリスレハ決シテ是認スヘキモノニアラス其然ル所以ハ他ナシ己レノ罪ヲ謝スルト否トハ其人ノ良心ニアルモノニシテ其事ヤ道義ノ支配内ニ屬シ法律ノ干渉スヘキ所ニアラサルカ故ナリ故ニ裁判官強テ其罪ヲ謝スルコトヲ命スレハ即チ法律部内ヨリ飛出シテ足チ道義部内ニ入ル、モノナリ法理ノ許容セサル所ニアラスシテ何ソヤ只裁判宣告書ヲ加

害者ノ費用ヲ以テ新聞紙ニ廣告スルコトヲ命スルハ固ヨリ不可ナキモノトス

八 贓物返還

○贓物ノ返還トハ横奪シタル物件ヲ返還スルコトヲ云フ加害者ハ横奪シタル物件ヲ返還スルノ義務アルモノトス

イ 贓物返還ノ損害賠償ト變スル場合

○加害者ハ横奪シタル物件ヲ返還スルノ義務アルモノナレトモ其物件ニシテ毀損消滅其他ノ事柄ニヨリ之ヲ返還スルコト能ハサル場合多々之レアリ如ストキハ即チ損害賠償ト變シ金錢ヲ以テ之ヲ償フヘキモノトス

贓物若シ輾轉シテ第三者ノ手ニ存スルトキハ損害賠償ト變スヘキモノナルヤ曰ク或ル例外第三者時効ヲ得タルトキヲ除クノ外然ラス只

タ公商人ヨリ買取リタルト非公商人ヨリ買取リタルトニヨリテ返還ノ手續ニ區別アリ刑法附則第五十五條ヲ參看スヘシ

ロ 金錢ト雖モ贓物トシテ之レカ返還ヲ請求スルヲ得ル場合アリ

○或ル學者曰ク犯罪ニ依リテ横奪セラレタル物件ニシテ金錢ノ如キ不確物ニ係ルトキハ贓物トシテ直チニ其返還ヲ請求スルコトヲ得ス就中數人ノ被害者ナルトキニ金錢ヲ以テ直ニ贓物ト看做シテ之ヲ一人ノ被害者ニ還付スルカ如キコトアラハ他ノ被害者ヲ損シテ一人ヲ利スルモノト云ハサルコトヲ得ス故ニ此等ノ場合ニ於テハ必ス之ヲ損害ノ賠償トナシ數人ノ被害者ヲシテ等一ノ賠償ヲ得セシメサルヘカラスト余ハ此說ニ反對スルモノナリ
金錢ノ如キ不確物ニ係ルトキハ何故ニ贓物トシテ直チニ其返還ヲ請

求スルコトヲ得サルヤ横奪シタル金錢ナリトノコト分明ナラザルトキハ格別苟モ然ラス横奪シタル金錢其者ナルコトノ明カナル以上ハ贓物トシテ之カ返還ヲ請求スルヲ得ヘキハ當然ナリ何ソ金錢ナルカ故ニ贓物トスルコトヲ得ストノ理アラシヤ或者若シ此論理ヲ貫カントスレハ例令ハ竊盜者人ノ家宅ニ入り金錢ヲ奪取シテ將ニ去ラントスル時ニ公吏ヨリ逮捕セラレタル場合ニ於テモ其横奪シタル金錢ハ贓物トシテ之カ返還ヲ請求スルヲ得スト論定セサルヘカラス又金錢ノ如キ不確定物ハ受寄罪ノ目的物タルコトヲ得スト論定セサルヘカラス豈怪ナラスヤ
或者尙ホ例ヲ設ケテ曰ク數人ノ被害者ナルトキニ金錢ヲ以テ直チニ贓物ト看做シテ之ヲ一人ノ被害者ニ還付スルカ如キコトアラハ他ノ被害者ヲ損シテ一人ヲ利スルモノト云ハサルコトヲ得ストコハ其金

錢ノ一人ノ被害者ノ有ナリシコトノ判然セサル場合ニ然カ云フヘキ
 ノミ苟モ一人ノ被害者ノ横奪セラレタル金錢ナルコトノ明カナル場
 合ナランニハ之ヲ贓物トシテ被害者ニ還付スルニ何ノ不可カララン
 若シ夫レ如斯明瞭ナル場合ニ於テ數人ノ被害者ヲシテ等一ノ賠償ヲ
 得セシメハ一人ニハ不正ニ損失ヲ與ヘ他ノ被害者ニハ不正ノ利得ヲ
 得セシムルモノト云フヘキノミ蓋シ或者ノ説ハ横奪セラレタル金錢
 共者ナルコトノ不分明ナル場合ニ適用スヘキモノニシテ一般ノ原則
 トナスヘキモノニアラス

以上要スルニ横奪セラレタル物件ニシテ金錢ノ如キ不確定物ニ係ル
 トキハ横奪セラレタル金錢共者ナルコトノ明瞭ナルト否トニ從ヒ或
 ハ贓物トシテ之カ返還ヲ請求シ或ハ損害トシテ之カ賠償ヲ請求スヘ
 キモノナリ

九 贓物返還ト損害賠償ト併行スルコトアリ

○贓物返還ト損害賠償ト併行スルコトアリ即チ贓物ノ返還ヲ受クル
 ノミニテハ未タ全ク損害ヲ填補スルニ足ラサルトキハ贓物ノ返還ト
 損害ノ賠償ト併セ請求スルコトヲ得ルモノナリ

十 損害賠償ト贓物返還トノ差異

○損害賠償ト贓物返還トハ前段ニ於テ論述シタル外尙ホ二ヶノ差異
 アリ左ノ如シ

- 一 損害ノ賠償ヲ要求スルノ權利ハ人權ニシテ贓物ノ返還ヲ要求
 スルノ權利ハ物權ナリ
- 二 損害ノ賠償ハ被害者ノ請求ナキトキハ裁判官之ヲ命スルコト
 ヲ得スト雖モ贓物ノ返還ハ被害者ノ請求ナシト雖モ現ニ加害者
 ノ手ニ在ルトキハ裁判官之ヲ還付スヘキコトヲ命スヘキモノナ

十一 「民法ニ從ヒ」ノ解

○本條ニ所謂民法ニ從ヒトハ何如ナル場合ニ賠償若クハ返還ヲ請求スルノ權アルカ又如何ナル人ヲ以テ其被害者トスルカト云フカ如キハ民法ノ規則ニ從フベキヲ云フモノナリ其民法ノ規則ニ從フ所以ハ私訴權ハ固民事上ノ權利ナルカ故ナリ

十二 私訴權ノ屬スル人

○私訴權ハ本條ノ明示スルカ如ク被害者ニ屬スルモノナリ而シテ公訴權ノ如ク社會ニ屬セスシテ被害者ニ屬スル所以ハ社會ノ公益ヲ害スルヨリ生スル權利ニアラスシテ私權利ヲ毀損シタルヨリ生スル訴權ナレハナリ

十三 被害者ノ解

○本條ニ所謂被害者トハ犯罪ニ因リ直接ニ私權利ノ毀損ヲ受ケタルモノヲ云フ

然レトモ茲ニ注意スヘキ大切ノ一事アリ即チ直接トハ損害ノ直接ニシテ犯罪ノ物体ノ直接ニアラス尙ホ云ハニ犯罪タル所爲ヲ直接ニ加ヘラレタルモノ、コトニアラスシテ損害ヲ直接ニ加ヘラレタルモノヲ云フナリ左ニ例ヲ設ケテ説明セン

甲乙チ創傷シタリ

甲雇人チ欺罔シテ主人ノ金圓ヲ騙取シタリ

右第一ノ場合ニ於テハ犯罪タル所爲并ニ損害ヲ直接ニ加ヘラレタリ而シテ民事上ノ被害者タル所以即チ私訴權アル所以ハ犯罪タル所爲チ直接ニ加ヘラレタルニアラスシテ(コレハ刑事上)損害ヲ加ヘラレタルカ故ナリ

右第二ノ場合ニ於テノ主人ハ直接ニ犯罪ノ所爲ヲ加ヘラレタルニアラス(犯罪ノ物体ナリ)而モ被害者ナル所以ハ直接ニ損害ヲ加ヘラレタルカ故ナリ

右説述シタル所ヲ記臆シテ本條ノ所謂被害者トハ刑事上ノ被害者ニアラスシテ民事上ノ被害者即チ私權利ヲ毀損セラレタルモノ、謂ヒナルコトヲ忘ルヘカラス

イ 有夫ノ婦ニ對スル罪ニヨリ夫之レカ被害者トナルコトアリ又夫ニ對スル罪ニヨリ婦之レカ被害者トナルコトアリ

○余ハ先ツ左ニ二個ノ例ヲ設クヘシ某ノ妻ハ惡人ナリ何トナレハ惡人ナル夫ト心ヲ合セテ不正ノコトヲ働キツ、アレハナリ

或ル人有夫ノ婦ヲ欺罔シテ其夫ノ財物ヲ騙取シタリ

右二個ノ場合ニ於テ婦ニ私訴權アルハ固ヨリ夫ニモ亦私訴權アリ然

レトモ夫ニ私訴權アルハ夫タル身分アルニヨリテ害ヲ被ムリタルカ爲ニアラス即チ第一ノ場合ニ於テ夫ハ刑事上ノ被害者ナリ(婦ヲ誹毀シタルノミニアラズ夫ヲ誹毀シタリ)第二ノ場合ニ於テ夫ハ民事上ノ被害者ナリ(夫ノ財産權ヲ直接ニ毀損シタルカ故ニ)二者共ニ夫タル身分ニ關係セサルナリ

尙ホ左ニ例ヲ設ケン

某ノ妻ハ嘗テ野合セルコトアル不貞不義ノ人ナリ

某女ノ夫ハ姦淫野合ヲノミ事トセル不義ノ人ナリ

或ル人某ノ妻ヲ強姦シタリ

尙ホ右ノ例ヲ

妻ヲ誹毀シタリ……妻ノ名譽毀損……子ノ名譽毀損

夫ヲ誹毀シタリ……夫ノ名譽毀損……子ノ名譽毀損

妻ヲ強姦シタリ……妻ノ節操穢ラ破レタリ……夫ノ名譽毀損……子ノ名譽毀損
 夫若クハ妻ヲ誹毀シタルトキハ夫若クハ妻ハ刑事上ノ被害者ナレトモ誹毀セラレタルニ因リテ直接ニ生シタル損害ハ夫及ヒ妻ノ名譽毀損ナリ何トナレハ夫妻ハ倫理上分身一体ニシテ毀譽褒貶ヲ共ニスルモノナレハナリ故ニ夫ハ直接ニ誹毀セラレタルニアラサルモ誹毀ヨリ(夫ト云フ身分アルカ故ニ)直接ニ損害ヲ被ムリタルカ故ニ私訴權アルモノトス妻ヲ強姦シタルトキ夫ニ私訴權アルモ同一理ナリ又夫若クハ妻ノ名譽ヲ毀損シタルトキハ從テ其子ノ名譽ヲ毀損スルノ結果ヲ生スレトモ誹毀若クハ強姦トハ直接ノ關係アルモノニアラサレハ子ニ私訴權ナキモノトス
 世ノ學者妻ニ對スル罪夫ヲ害スルコトアルヘシト説ケトモ夫ニ對スル罪妻ヲ害スルコトアルヘシトハ云ハス蓋シ男尊女卑ノ念尙ホ腦裡ニ存スルニヨルナルヘシ

ロ 子ニ對スル罪ニヨリ親之レカ被害者トナルコトアリ親ニ對スル罪ニヨリ子之レカ被害者トナルコトアリ

○例ヘハ子創傷セラレタル時ノ如キハ親之レカ被害者ナルヤ世ノ學者多クハ然リト云ヘルモ余ハ之レト反ス此場合ニ於テ父ノ財産ヲ費消スルコトアルヘキモコハ罪ヨリ直接ニ生シタル損害ニアラサルカ故ニ父之レカ被害者トナルノ理ナシ此理尙ホ創傷ヲ受ケタル者治療ヲ加フルノ費用ナキカ爲ニ其親屬代テ凡テノ費用ヲ支辨シタルトキト雖モ親屬ニ私訴權ナキト同一ナリ
 然ラハ右ノ場合ニ於テ父ハ私訴ヲ起スコトヲ得サルカ曰ク然ラス父ハ子ノ爲ニ賠償ヲ請求スルコトヲ得ヘシ然レトモ賠償ヲ請求スルコトヲ得ル所以ハ民法ニ從ヒ父其子ノ權利ヲ行フコトヲ得ルカ故ニシ

テ父カ被害者ナルカ故ニア、ヲサルナリ

子ニ對スル罪ニヨリ親之レカ被害者トナルコトアリ親ニ對スル罪ニ

ヨリ子之レカ被害者トナルコトアル場合ハ左ノ如シ

某ハ父母ノ教育其宜キヲ得サルカ爲ニヤ放蕩無賴ノ徒トナレリ

某ノ父母ハ大惡人ナリ

雇人ニ對スル罪ニヨリ主人之レカ被害者トナルコトアルカ社員ニ對
スル罪ニヨリ社之レカ被害者トナルコトアルカ等ノ問題ハ前項イノ
部及ヒ本項ロノ部ニ論述シタル所ニヨリ讀者自ラ推定論斷スルコト
ヲ得ヘケレハ余ハ之ヲ説カス

十四 私訴權ハ被害者ノ相續人ニ移轉スルヤ否

○私訴權ハ被害者ノ相屬人ニ移轉スルヤ否此問題ハ之ヲ區別シテ研
究セサルヘカラス

イ 被害者ノ死去前ニ犯罪ノ生シタル場合

○被害者ノ財産身體健康自由等ニ害ヲ被ムリタルトキハ相續人ハ私
訴ヲ起スコトヲ得ヘレ何トナレハ私訴權ハ一ノ財産ナルカ故ニ之ヲ
相續スルコトヲ得ヘキハ當然ナレハナリ然レモ被害者ナルカ故ニ然
ルニアラス相續人ナルカ故ニ然ルナリ
又被害者告訴ヲ待テ受理スヘキ罪ニ付キ名譽ヲ毀損セラレタルトキ
ハ私訴ヲ起シタル後死去シタルト私訴ヲ起サスシテ死去シタルトニ
依テ異ナリ前ノ場合ニ於テハ相續人之ヲ繼續スルコトヲ得ヘク後ノ
場合ニ於テハ起訴スルコトヲ得ス其起訴スルコトヲ得サル所以ハ被
害者告訴及ヒ私訴ヲ起サスシテ死去シタルトキハ告訴權及ヒ私訴權
ヲ拋棄シタルモノト看做セハナリ

ロ 被害者犯罪ノ爲ニ死去シタル場合

○被害者犯罪ノ爲ニ死去シタル場合ニ於テハ相續人ニ私訴權アリ例
 ヘハ子犯罪ノ爲ニ死去シタル時ハ親ニ私訴權アルモノトス然レトモ
 此場合ニ於テ親ニ私訴權アルハ親トイフ身分アルカ爲ニ然ルニアラ
 ス又被害者ナルカ故ニ然ルニアラス親ハ民法ニ從ヒ子ノ權利ヲ相續
 スルノ權アルカ故ニ然ルナリ

又相續人ニアラスト雖モ被害者ノ死去シタルカ爲メ直接ニ損害ヲ被
 ムリタルモノハ亦私訴ヲ起スコトヲ得ヘシ例令ハ夫ノ勞力ニヨリテ
 生活シツ、アル婦ハ夫ノ死去ニヨリ或者ヨリ養料ヲ受クル親屬ハ其
 或者ノ死去ニヨリ婦ノ生存中婦ノ父ヨリ年金ヲ受クル夫ハ婦ノ死去
 ニヨリ直接ニ損害ヲ受ケタルニヨリ私訴權アルモノトス

ハ 被害者ノ死後ニ犯罪ノ生シタル場合
 ○被害者ノ死後ニ犯罪ノ生シタル場合ニ於テハ相續ノ際ニ私訴權發

生セサリシカ故ニ相續人之ヲ相續スルコトヲ得ス然レトモ死者ニ對
 スル犯罪其相續人ニ損害ヲ加フルトキハ相續人ニ私訴權アルモノト
 ス

十六 損害賠償ヲ負擔スル人

○損害賠償ハ何人ニ於テ之ヲ負擔スルカ犯罪ニヨリ損害ヲ加ヘタル
 モノハ正犯ト從犯トノ別ナク又有意ナルト無意ナルトヲ問ハス之ヲ
 賠償スヘキハ當然ナレトモ之レニハ例外アリ幼者癡癲者白痴等ノ如
 キハ即チ賠償ノ責ニ任セサルモノトス又加害者ニアラサルモ賠償ノ
 責ニ任スヘキモノアリ幼者癡癲者等ノ監督人ノ如キ即チ然リ而シテ
 監督人ノ其監督ノ下ニアル幼者白痴癡癲者等ノ所爲ニ付テ其責ニ任
 スル所以ハ自己ニ注意監督ヲ怠リタル過失アルニヨルモノナリ

十六 私訴權ノ讓渡

○前キニモ一言シタルカ如ク私訴權ハ被害者ニ屬スルモノニシテ而シテ一ノ財産ナルカ故ニ被害者ノ自由内ニアリ故ニ之ヲ他人ニ贈與シ讓渡スルコトヲ得ルモノナリ

第三條

公訴ハ被害者ノ告訴ヲ待テ起ルモノニ非ス又告訴私訴ノ拋棄ニ因テ消滅スルモノニ非ス但法律ニ於テ特ニ定メタル場合ハ此限ニ在ラス

一 本條ノ要旨

○本條ハ公訴權ノ不羈獨立ナルコト及ヒ之カ例外アルコトヲ定メタルモノナリ

二 公訴ノ獨立

○公訴權ハ不羈獨立ニシテ之ヲ行フニ付テハ何人ノ干涉ヲモ受クルモノニアラス

右ノ原則ヲ尙ホ左ニ分拆解義セン

イ 公訴ハ被害者ノ告訴ヲ待テ起ルモノニ非ス

○公訴權ハ社會ニ屬スルモノニシテ一私人ノ左右スルヲ得サルモノトス故ニ被害者ノ告訴ナシト雖モ檢事ニ於テ犯罪アルコトヲ認知シタルトキハ直チニ公訴權實行ノ手續ヲナスヘキモノナリ何故ニ然ルカ他ナシ破法者ニ相當ノ刑罰ヲ科スルハ惡事ヲ悔悟シテ善良ノ人トナラシメ以テ社會ノ無事平穩ヲ圖ルニアルモノニシテ敢テ被害者ノ爲ニ其仇ヲ報セントスルモノニアラサレハナリ
又被害者ノ告訴アルトキト雖モ必スシモ公訴ヲ起スヘキモノニアラス即チ檢事ニ於テ起訴スヘカラサルモノト認メタルトキハ之ヲ爲ササルヘキカ當然ナリ

ロ 公訴ハ告訴私訴ノ拋棄ニ因テ消滅スルモノニ非ス

○公訴ハ告訴若クハ私訴ト其運命ヲ共ニスルモノニアラス故ニ檢事犯罪アルコトヲ認知シテ公訴權實行ノ手續ヲ爲シタルトキハ縱令ハ被害者其既ニ爲シタル告訴ヲ願下ケ若クハ私訴ノ棄權ヲ爲スト雖モ公訴權依然トシテ消滅セサルモノナリ

三 公訴獨立ノ例外

○公訴ハ被害者ノ告訴ヲ待テ起ルモノニ非サレトモ之レニ例外アリ又公訴ハ告訴私訴ノ拋棄ニ因テ消滅スルモノニアラサレトモ之レニモ亦例外アリ本條但法律ニ於テ特ニ定メタル場合ハ此限ニ在ラストハ即チ例外アルコトヲ示シタルモノナリ
其例外ノ場合ハ左ノ如シ

- 第一 脅迫ノ罪 (刑法第三百二十六條以下)
- 第二 零取誘拐ノ罪 (刑法第三百四十一條以下)

第三 猥褻姦淫ノ罪 (刑法第三百四十六條以下)

第四 有夫姦ノ罪 (刑法第三百五十三條)

第五 誹毀ノ罪 (刑法第三百五十八條以下)

第六 牛馬以外ノ家畜ヲ殺ス罪 (刑法第四百二十三條)

第七 公然人ヲ罵詈嘲弄スルノ罪 (刑法第四百二十六條第十二)

右ノ外版權商標新聞紙等ニ關スル罪ニシテ此類ノモノ數多クレトモ茲ニ略ス

以上列記シタル罪ニ付テハ被害者若クハ親族ノ告訴アルニアラサレハ公訴ヲ起スコトヲ得ヌ又一旦告訴ノ申立アリタルトキト雖モ後之ヲ拋棄シタルトキハ公訴ヲ實行スルコトヲ得サルモノトス
何故ニ然ルヤ

凡ソ犯罪ハ社會ノ秩序安寧ヲ妨害スルモノナリト雖モ然レトモ犯罪

ノ害惡專ラ被害者ノ一身ニ係ルモノアルカ故ニ社會ノ利益ヨリモ被害者ノ利益ノ爲ニ之ヲ罰スルモノアリ又被害者ノ告訴ヲ待タズシテ之ヲ罰スルトキハ却テ被害者ヲ害スルニ至ルモノアリ又被害者ノ告訴アルニアラサレハ犯罪ノ成否ヲ知ル能ハサルモノアリ之レ公訴獨立ノ例外アル所以ナリトス

尙ホ左ニ一二ノ罪ニ付キ告訴ヲ要スル所以ヲ述ヘン

イ 脅迫罪ニ付キ告訴ヲ要スル所以

○脅迫罪ハ被害者又ハ親族ノ告訴アルニアラサレハ之ヲ罰スルコトヲ得ス其然ル所以ハ何ソヤ或ル學者ハ曰ク脅迫ノ罪スヘキハ其人チシテ悲憂悸懼ノ念ヲ生セシムルニ由ル然ルニ人ハ其精神ニ剛柔アリ其氣質ニ勇怯アルヲ以テ脅迫ニヨリ悲憂長懼ノ情ヲ感セシメタルト否トハ被脅迫者其人ニアラサレハ之ヲ知ルコトヲ得ス之レ其親告ヲ要

スル所以ナリト余ハ他ノ學者ト共ニ此說ニ反對スルモノナリ

脅迫ハ害惡ヲ加ヘントノ通知ニ過キサルカ故ニ被害者ハ其通知ヲ理解スル丈ノ能力ヲ要ス而シテ其親告ヲ要スル所以ハ親告ヲ待タサレハ害惡ノ通知ヲ受ケテ之ヲ理解シタルヤ否ヲ知ルコト能ハサレハナリ若シ夫レ或ル學者ノ說ニ從ヘハ畏懼ノ念ノ生シタルコトヲ必要トスルカ故ニ畏懼ノ念ノ生シタリトノ確カナル證據ヲ提出セサルヘカラサルニ至ラン蓋シ法律ハ脅迫ノ通知ヲ了知シタルトキハ常ニ其人ノ安意ヲ妨ケタルモノト推測スルナリ

ロ 有夫姦猥姦姦淫畧取誘拐等ノ罪ノ親告ヲ要スル所以

○有夫姦猥姦姦淫畧取誘拐等ノ罪ノ親告ヲ要スル所以ハ若シ告訴ヲ待タズシテ之ヲ罰スルトキハ其事件ヲ社會公衆ニ聞知セシムルカ故ニ被害者ノ名譽ヲ害シ一家ノ秩序ヲ亂リ或ハ子孫ノ教養ヲ妨ケ其將

來ヲ誤ラシムルコトアレハナリ故ニ法律ハ被害者若クハ親族ノ告訴ヲ待テ罰スヘキモノト定メタリ

立法ノ主旨如斯然レトモ余カ見ヲ以テスレハ大ニ批難スヘキモノアリ抑モ零取誘拐ノ罪ハ社會ヲ害スルヨリモ果シテ一個人ヲ害スルコト多キカ猥姦姦淫ノ罪有夫姦ノ罪ハ一個人ヲ害スルヨリモ社會ヲ害スルコトノ果シテ少キカ之レ等ノ所爲公然道路ニ横ハルモ以テ社會ノ秩序風俗ヲ害スルコト甚シカラストスルカ不徳不義ノ所爲ヲ喜フモノニアラサルヨリハ決シテ然リト云ハサルヘシ尤モ告訴ヲ待タスシテ之レ等ノ罪ヲ罰スヘントナサハ從テ一家ノ不徳不義ノ行爲ヲ發クニ至ルヘシト雖モ然レトモ社會ノ風俗ヲ紊亂スルト孰レゾ余ハ決シテ親告ヲ要スルコトヲ是認スル能ハサルナリ

四 注意スヘキ要項

○本條「被害者」ノ下ニ「又ハ親族」ノ四字ヲ加ヘテ讀ムベシ何トナレハ親族ト雖モ告訴ヲ爲シ得ル場合アレハナリ

五 本條ノ批難

○告訴中私訴ヲ包含スルモノニアラス又私訴中必スシモ告訴ヲ包含スルモノニアラサルカ故ニ告訴ト私訴トハ全ク別物ナリト雖モ私訴ハ公訴ノ發動ニ何等ノ關係ヲ有スルコトナシ即チ前段公訴獨立ノ例外ヲ説クニ當リ列記シタル數種ノ罪ハ告訴ノ拋棄ニ因テ公訴消滅スルモノナレトモ私訴ノ拋棄ニ因テ公訴消滅スルコトナシサレハ本條私訴ノ二字ハ全ク無用ナリト論評セサルヲ得サルナリ

第四條

私訴ハ其金額ノ多寡ニ拘ハラズ公訴ニ付キ第二審ノ判決アルマテ何時ニテモ其公訴ニ附帶シテ之ヲ爲スコトヲ得

第三者ハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ公訴附帶ノ私訴ニ參加スルコトヲ得

一 本條ノ要旨

○本條ハ私訴ハ公訴ニ附帶シテ之ヲ爲スコトヲ得ルコト及ヒ第三者私訴ニ參加スルコトヲ得ルコトヲ定メタルモノナリ

二 公訴ニ附帶シテ爲スコトヲ得ル所以

○私訴ハ私權利ノ回復ヲ請求スルノ訴ナルカ故ニ民事裁判所ニ提起スルヲ以テ其道ヲ得タルモノトス然ルニ本條ニ於テ公訴ニ附帶シテ刑事裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得ト定メタル所以ハ被害者ニ權利伸暢ノ便宜ヲ與ヘントシタルモノニ外ナラス

私訴ヲ刑事裁判所ニ爲スコトヲ得ルトキハ被害者ニ如何ナル利益アルカ訴訟ノ進行迅速ナルカ故ニ費用ト時日トヲ減省スルコトヲ得ル

其一ナリ檢事犯罪舉証ノ任ニ當ルカ故ニ被害者ハ民事裁判所ニ於テスルカ如ク舉証ノ勞ヲ執ラスシテ權利ヲ伸暢スルコトヲ得ル其二ナリ加之裁判官審理上ノ便益モ亦少カラサルモノアルナリ之レ本條ニ於テ私訴ヲ公訴ニ附帶シ刑事裁判所ニ爲スコトヲ得ル旨ヲ定メタル所以ナリ

上陳ノ如ク本條ハ便宜ノ爲メニ定メタルモノナリト雖モ私訴ハ必ズシモ刑事裁判所ニ爲スヘキモノニシテ民事裁判所ニ爲スヘカラサルモノト定メタルニアラス蓋シ私訴ノ本然ノ管轄ハ民事裁判所ヲ除テ他ナキカ故ナリ只私訴ハ犯罪タル事實ニ其源ヲ汲ムモノナルカ故ニ便宜上本源ナル犯罪審判ヲ判スル裁判所ニ爲スコトヲ得ベシト定メタルモノニ過キス

三 金額ノ多寡ヲ問ハサル所以

○民事訴訟法ノ規定ニ從ヘハ金額ノ多寡ニ依リテ裁判管轄ヲ異ニス
 即チ百圓未滿ノ訴訟ハ區裁判所ニ之ヲ爲シ百圓以上ノ訴訟ハ地方裁
 判所ニ之ヲ爲スベキモノトス今若シ刑事裁判所ニ提起スル私訴ヲシ
 テ此制限ニ依ルベキモノトナサハ私訴ノ原因タル犯罪タル犯罪ハ重
 罪ナルモ私訴ハ區裁判所ニ爲サミルヘカラサルコトアリ又犯罪違警
 罪ナルモ私訴ハ地方裁判所ニ爲サミルヘカラサルコトアルベシ審理
 上並ニ被害者ノ不便甚タシト云フベシ且ツ夫レ主タル公訴ヲ審判ス
 ル權アリナガラ從タル私訴ヲ審判スル權ナシトスルモ其當ヲ失スル
 ノ感アリ故ニ本條金額ノ多寡ニ拘ルコトナキ旨ヲ定メタルナリ

四・第二審ノ判決アルマテノ解

○私訴ハ第一審ノ際ノミナラス第二審ノ際ニモ之ヲ爲スコトヲ得ル
 ナリ蓋シ公訴未タ其管轄ヲ離レサルカ故ナリ然レトモ第二審ノ判決

アリタル後ハ私訴ハ獨立シテ刑事裁判所ニ爲スコトヲ得サルナリ
 第二審ノ判決アルマテトナルガ故ニ第一審ノ判決ヲ受ケテ未タ第二
 審ノ判決ヲ求メサル間ニモ私訴ヲ爲スコトヲ得ルカ如ク解セラルレト
 モ然ラス即チ第一審ノ判決ヲ受ケテ被告人及ヒ檢事之ニ服シ敢テ第
 二審ノ判決ヲ求メサルトキハ如何私訴ハ獨立シテ之ヲ爲スコトヲ得
 サルカ故ニ此場合ニ於テハ私訴ハ最早刑事裁判所ニ爲スコトヲ得サ
 ルモノトス要スルニ第二審ノ判決アルマテトハ第二審ノ判決ヲ求メ
 タル場合ニ於テ其判決アルマテト解スヘキナリ

五 第二項ノ解

○本條第二項ハ第三者ハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ公訴附帶ノ私訴ニ
 參加スルコトヲ得ル旨ヲ定メタルモノナリ
 民事訴訟法ノ規定トハ同法第五十一條乃至第六十二條ノ規定ヲ云フ

モノナリ

第三者私訴ニ參加スルコトヲ得ト定メタル所以ハ第三者ノ權利伸暢ニ利益ヲ與ヘンカ爲ナリ例ヘハ被害者被告人ニ對シ千圓ノ賠償ヲ要求スル場合ニ於テ其被害者ノ債權者ナル某即チ第三者カ私訴ニ參加シテ被害者ノ權利ヲ主張スルハ第三者ニ於テ大ニ利益アルナリ何トナレ被害者ニ於テ其請求セシ賠償ヲ得タルトキハ從テ第三者ノ債權ニ満足ヲ與フルコトヲ得ルカ故ナリ

第二項ニ公訴附帶ノ私訴トアリ故ニ第三者ハ被害者未タ私訴ヲ爲サザルニ已レ之ニ代テ私訴ヲ申立ルコトヲ得サルナリ蓋シ私訴權ハ被害者ニ屬スルモノナレハナリ

第五條

被告人免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ民法ニ從ヒ被害者ヨリ

賠償返還ヲ要ムル妨礙ト爲ルコトナカル可シ

一 本條ノ要旨

○本條ハ被告人免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ民事上ノ責任ハ必ズシモ免レタルモノニアラサル旨ヲ定メタルモノナリ

二 免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタルモ尙ホ且ツ民事上ノ責任アルコトアルヘキ理如何

○權利ナクシテ人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ當然民事上ノ責任ヲ生スヘキモ刑事上ノ責任ハ然ラス即チ犯罪構成ノ原素具備セサレハ罪成立セサルモノナリ私權利ヲ毀損スルモ其所爲必ズシモ罪トナルニアラサルナリ斯ク云ハミ免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタルモ尙ホ且ツ民事上ノ責任アルコトアルベキ理由自ラ明カナラン即チ其所爲ニシテ罪ヲ構成セスト雖モ私權利ニ毀損ヲ加ヘタルトキハ民事上ノ責任ア

ルベキハ當然ナリ例ヘハ刑事上無責任ノ幼者他人ノ所有物ヲ奪取シタルトキノ如キ刑事上ノ責任ナシト雖モ其物品ヲ返還スルノ責任即チ民事上ノ責任アルカ如シ

免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタルトキト雖モ民事上ノ責任アルコアルベキハ上陳ノ如シ然レトモ此場合ニ於テハ私訴ノ名義ヲ以テ刑事裁判所ニ訴フルコトヲ得ス又民事裁判所ニ於テ犯罪ノ爲ニ損害ヲ蒙リタルコトヲ主張スルコトヲ得ス何トナレハ犯罪成立セサルモノナレハナリ之レ本條民法ニ從ヒ云々ト定メタル所以ナリ

三 免訴ト無罪ノ別

○免訴ト無罪トハ公訴ノ成立前ニ其責ヲ免カル、ト成立後ニ其責ヲ免ル、トニ依テ異ナルモノナリ即チ成立前ニ免カル、モノハ免訴ニシテ成立後ニ免カル、モノハ無罪ナリ又豫審ニ於テノ免訴ハ後日充分ナル證據ヲ發見シタルトモ再

分ナル證據ヲ發見シタルトキハ再ヒ之ヲ訴フルコトヲ得ベシト雖モ公判庭ニ於テノ無罪ノ言渡ハ後日充分ナル證據ヲ發見シタルトモ再ヒ之ヲ訴フルコトヲ得サルモノトス

第六條

公訴ヲ爲ス權ハ左ノ事項ニ因テ消滅ス

- 第一 被告人ノ死去
- 第二 告訴ヲ待テ受理スヘキ事件ニ付テハ告訴ノ拋棄
- 第三 確定判決
- 第四 犯罪ノ後頒布シタル法律ニ因リ其刑ノ廢止
- 第五 大赦
- 第六 時效

一 本條ノ要旨

○本條ハ公訴消滅ノ原由ニ六個アル旨ヲ定メタルモノナリ

二 被告人ノ死去

○刑罰ヲ行フハ惡ヲ懲ラシテ善ニ導カントノ主旨ニ過キサルカ故ニ宜シク破法者一身ニ止ムルヲ要ス若シ夫レ犯人死去センカ刑罰ヲ行フノ目的何レニカアル本條被告人ノ死去ヲ以テ公訴權消滅ノ原因ト定メタルハヨク其當ヲ得タルモノトス

往昔未開ノ時代ニ於テハ屍骸若クハ名譽ニ對シテ刑罰ヲ執行シ甚キハ其家族又ハ最近ノ親屬ニマテ及ホシタリト雖モ人文ノ進歩スルニ從ヒ是等痛歎スヘキノ制度ハ全ク史上ノ一事跡トナルニ至レリ實ニ被告人死去シテ自ラ辯護スルコト能ハサルニ至リタルニモ拘ハラフス之ヲ裁判スルハ不正不義ノ甚シキモノト云ハサルヘカラサルナリ被告人死去シタルトキハ公訴權從テ消滅スヘシト雖モ共犯者ニ對ス

ル公訴權ハ依然存在スルモノナリ然ラハ姦通罪ノ如キ場合ハ如何請フ別ニ項ヲ設ケテ之ヲ論セン

三 姦通罪ノ場合ニ於テ一人死去シタルトキハ他ノ共犯者ニ對スル公訴權消滅スルヤ否

○姦通罪ノ場合ニ於テ一人死去シタルトキハ他ノ共犯者ニ對スル公訴權消滅スルモノナルヤ否姦夫死去シタルトキト雖モ姦婦ニ對スル公訴權依然存在スルモノナリトハ一般學者ノ是認スル所ニシテ寸毫モ異論ナシ然レトモ姦婦死去シタルトキハ姦夫ニ對スル公訴權消滅スルヤ否ノ點ニ就テハ大ニ異論アリ而シテ其異論ハ有名ノ學者間ニ行ハル、ナリ

此問題ニ對シテハ余ハ公訴權消滅セストノ論者ノ一人ナリサレハ先ツ公訴權消滅スルト唱フル反對論者ノ說ヲ掲ケテ之ヲ辨駁セン

姦婦死去シタルトキハ姦夫ニ對スル公訴權消滅スルモノナリト主張スル論者ノ說ニ曰ク犯姦罪ハ有夫ノ婦ト本夫ニアラサル男トノ不正ノ媾合ニ成ルモノナルカ故ニ姦婦ノ有罪定マリテ姦夫ノ責罰存スルモノナリ然ルニ姦婦既ニ死去シタルトキハ姦婦ニ對スル公訴消滅セシテ以テ其婦ヲ有罪視スルコトヲ得ス故ニ隨テ姦夫ニノミ姦通罪ノ刑罰ヲ科スルコトヲ得サルナリ若シ夫レ有夫ノ婦既ニ死去シタルニモ拘ハラズ其共犯者ヲ罰スヘントナサバ最早期ヲ辨護スル能ハサルノ地位ニ在ル婦女ニ對シテ姦通ヲ爲シタルモノトシ其名譽ヲ毀ケ耻辱ヲ加フルニ至ルヘシ之レ是レヲ罰セサル所以ナリト余ハ以テ失當トナス

論者ハ姦夫ヲ罰スルニ於テハ辯護權ナキ婦女ニ姦通罪アルモノト判斷セサルヲ得サルカ故ニ罪名ヲ地下ニ與ヘ以テ其名譽ヲ毀損シ耻辱ヲ加フルモノナリト云フモ誤レリ其然ル所以ハ他ナシ姦夫ヲ罰スルモ婦ニ對シテ罪名ヲ與フルモノニアラザレハナリ何ヲ以テカ云爾婦ハ本夫ナリト信シテ即チ犯意ナクシテ他ノ男子ト通シタルヤモ知ルヘカラサルカ故ニ直チニ辨護スルコトヲ得サル婦女ニ姦通罪アリト判斷スルコトヲ得スヨシ姦通ノ證據充分ナルモ死者ニ對シテ公訴權アルノ理ナキカ故ニ婦ハ無罪ノ身ヲ以テ死去シタルモノト見做サミルヘカラス之レニ反シテ生存セル姦夫ニ對シテハ姦通罪アリト判決スルヲ得ヘキ證據充分ナルトキハ抑モ何ノ理アリテ之ヲ不問ニ附スヘキモノナルカ姦夫ヲ有罪ナリトスルモ姦婦ヲ有罪ナリトシテ刑ノ言渡ヲナスニアラサルナリ然ルニ何ノ理アリテカ姦婦ニ罪名ヲ與フルモノトスルカ某甲某乙某ノ亡妻竹子ト云々ノ旨ヲ裁判言渡書ニ記載スルモ竹子ヲ以テ刑法上ノ犯者トナスニアラサルナリ若シ夫レ姓名

ヲ記載スルヲ以テ罪名ヲ與フルモノトナサハ姦通罪ニアラサル他ノ
 共犯ノ場合ニ於テ其一名死去シタルトキハ死去者ノ氏名ヲ裁判言渡
 書ニ記載スルコトヲ得スト云ハザルヘカラス豈怪ナラスヤ人或ハ云
 ハン某ノ亡妻竹子ト云々ノ旨ヲ記載シタランニハ隨テ名譽ヲ損スル
 ニアラスヤ家族ノ感情ヲ害スルニアラスヤト非ナリ其郷黨ノ感觸ハ
 法律ノ關スル所ニアラサルナリ

以上要スルニ姦婦ノ死去シタル場合ニ於テ姦夫ニ對スル公訴權消滅
 セストスルモ敢テ姦婦ニ罪名ヲ與フルモノニアラサルカ故ニ反對論
 者ノ說誤レリト云フニアリ

又姦婦死去シタルトキハ姦夫ニ對シ刑ヲ加フルコトヲ得ストセハ本
 夫其妻ノ姦通ヲ覺知シ姦所ニ於テ直チニ姦婦ヲ殺害シタル場合ニ於
 テモ姦夫ヲ不問ニ附セサルヘカラス果シテ然ラハ奇怪ナル結果ヲ現

出スルニ至ルヘシ抑モ本夫姦所ニ於テ直チニ姦婦ヲ殺傷シタルトキ
 ハ刑法第三百十三條ニ從ヒ二等又ハ三等ノ宥恕減輕ヲ與ヘラル、モ
 ノナリ而シテ此宥恕減輕ヲ與フルヲ許シタルモノハ取モ直サス其
 ノ妻ノ姦通ヲ死後ニ証明スルコトヲ許シタルモノナリ其ノ然ル所以
 ハ姦婦ノ姦通ヲ証明スルニアラサレハ宥恕減輕ヲ得ル能ハサレハナ
 リ既ニ法律ハ姦婦ノ姦通ヲ死後ニ証明スルコトヲ許シタルモノトセ
 ンカ豈何ノ理アリテカ姦夫自己ノ妻ト姦通シタルヲ証明シテ告訴
 スルヲ得サルノ理アラシヤ法律豈何ノ理アリテカ之ヲ不問ニ附スヘ
 ントセンヤ反對論者ノ說奇怪極マルモノト云フヘシ

四 告訴ヲ待テ受理スヘキ事件ニ付テハ告訴ノ拋棄

○告訴ヲ待テ受理スヘキ事件即チ脅迫、略取、誘拐、猥褻、姦淫、罵詈、嘲弄等
 ノ罪ニ付テハ告訴ノ拋棄アルトキハ公訴權消滅スルモノナリ其斯ク

定メタル所以ハ之等ノ罪ハ社會ノ利益ヨリモ寧ロ一私人ノ利益ノ爲ニ罰スルモノニシテ而シテ被害者ノ告訴ナキニモ拘ラス公訴ヲ起ストキハ一私人ノ利益ヲ害スルコト甚キモノナルカ故ニ告訴ヲ待テ之ヲ論スルモノト定メタルナリ既ニ告訴ヲ待テ之ヲ論スルモノトスレハ告訴ノ拋棄アルトキニ公訴ノ消滅スルヤ當然ナリ只タ余ハ之等ノ罪ト雖モ告訴ノ有無如何ニ關セス之ヲ論スルヲ當然ナリト信スルナリ何トナレハ一私人ノ利益ヲ害スルコト社會ノ利益ヲ害スルヨリ大ナリト云フモ實際然ラサレハナリ

五 拋棄ノ解

○告訴ノ拋棄ノ有效ナルニハ公訴ノ提起後ナルト否トヲ問ハストスルハ一般學者ノ說ナレトモ余ハ或ル小數ノ學者ト共ニ公訴ノ提起前ニアラサレハ公訴權ノ消滅スルコトナキモノトスル說ヲ主張セントス

其所以ハ左ノ如シ

告訴ノ目的ハ何ソヤト問ハ、公訴ノ提起ナリト答ヘサルヘカラス誰某ハ或ル罪ヲ犯シタルモノナリトテ告訴スルハ檢事ニ公訴ヲ提起セラルコトヲ要ムルニ外ナラス故ニ檢事ニ於テ告訴ヲ受理シ刑ノ適用ヲ求メンカ爲ニ公訴ヲ提起シタルトキハ告訴ノ目的既ニ遂ケタルモノナリ既ニ其目的ヲ遂ケタリトセンカ其事件ニ付テノ告訴權ハ最早消滅シタルモノナリ消滅シタル告訴權ヲ拋棄セントスルモ豈ヨク得ンヤ且ツ夫レ公訴權實行中ト雖モ告訴ヲ拋棄スルコトヲ得ヘク隨テ公訴權消滅スルモノナリトノ論理ヲ貫カントスレハ告訴シテ檢事ニ公訴ヲ提起セシメ後ニ之ヲ拋棄シ又再ヒ告訴シ又再ヒ拋棄シ再三再四スルコトヲ得ヘシト云ハサルヘカラス豈怪ナラスヤ蓋シ告訴權ハ公訴ノ提起アルト同時ニ消滅ニ屬スルモノナルヤ疑フヘカラサレハ

本條告訴ノ拋棄トアルハ公訴提起以前ノコト、解スヘキナリ

六 確定判定

○人智限リアルカ故ニ世間絶テ過失誤謬ノ判決ナシト云フベカラス
 法律ハ之ヲ匡救センカ爲ニ上訴ヲナスコトヲ許シ付スルニ相當ノ期
 限ヲ以テセリサレハ被告人若クハ檢事ニ於テ其裁判ニ過誤アリト信
 認スルトキハ上訴スルコトヲ得ルナリ然レトモ裁判確定ノ期ヲ定メ
 サレハ争議底止スル所ナクシテ爲メニ被告人及ヒ社會ノ公益ヲ害ス
 ルコト少小ナラサルナリ於茲乎法律ハ上訴ノ期限經過シタルカ若ク
 ハ上訴ノ途窮盡シタルトキハ以テ裁判確定シタリトナシ之ヲ認メテ
 正當ノモノトナセリ故ニ確定判決ニ對シテハ被告人ヲ利スル或ル場
 合(三百一條以下)ニアラサルヨリハ何人ト雖モ争議スルヲ許サハルナ
 リ而シテ確定判決ニシテ公訴ヲ消滅セシムルニハ三个ノ條件ヲ具備
 スルコトヲ要ス左ニ別ニ項ヲ設ケテ三个ノ條件ヲ解クベシ

イ 訴訟ノ原因同一ナル事

○訴訟ノ原因同一ナル事トハ前後ノ訴訟ノ原由トナリタル被告人ノ
 所爲即チ犯罪事件ノ同一ナルコトヲ云フナリ
 設例ハ強盜罪ニ付キ確定判決アリタルトキハ縱令罪名ヲ變更シテ竊
 盜罪ナリトスルモ其原因同一ナルカ故ニ確定判決ノ効力ヲ及ボスヘ
 キモノナリ之レト反シテ竊盜罪ニ付キ確定判決ヲ受ケタリト云フナ
 以テ後ノ強姦罪ヲ排斥スルコトヲ得ス何トナレハ其原因タル事實各
 ヤ異ナルカ故ナリ要スルニ其事實同一ナルトキハ縱令罪名ヲ變更ス
 ルモ再理スルコトヲ得サルベク又事實同一ナラサルトキハ縱令罪名
 同シキ時ト雖モ之ヲ再理スヘキナリ又前後ノ事件各々密接シ目的上
 之ヲ別箇ノモノトスルコトヲ得サルトキ例令ハ繼續犯慣行犯等ノ如

キハ確定判決ノ効力ヲ及ボスヘク又事件如何ニ密着スルトモ目的上別箇ノモノトスルヲ得ルトキハ確定判決ノ効ヲ及ボスヘキモノニアラス

ロ 訴訟ノ目的同一ナル事

○刑事ニ在テハ訴訟ノ目的常ニ同一ナリ即チ其目的ハ刑罰ヲ科スルニ在リ故ニ此件ニ就テハ別ニ説明ヲ要セス

ハ 訴訟人ノ同一ナル事

○前後ノ訴訟ノ原告ハ檢事ナルカ故ニ常ニ同一ナリト雖モ被告人ハ然ラス始メニ甲者ヲ訴ヘ後チニ乙者ヲ訴フルコトアルベシ故ニ縱令同一事件ナリト雖モ其被告人ヲ異ニスルトキハ確定判決ノ効力ヲ及ボスヘキ者ニアラス共犯ノ場合ニ於テモ然リ即チ共犯者ノ一人ニ對シ無罪ノ判決ヲ與ヘタルトキト雖モ他ノ共犯人ハ前ノ被告人ニ對ス

ル確定判決ヲ以テ己レニ對スル公訴ヲ棄却セシムルコトヲ得サルモノトス

犯姦罪ノ場合ニ於テ姦婦無罪ノ判決ヲ受ケ其判決確定シタルトキハ姦夫ニ對スル公訴權消滅スヘキヤ否彼ノ奇怪ノ説ヲ唱フル反對論者ハ曰ク犯姦罪ハ有罪ノ姦婦アルニアラサレハ成立スヘキモノニアラサルカ故ニ姦婦カ既ニ無罪ノ言渡ヲ受ケタルトキハ姦夫ノ罪ノミ獨リ成立スヘキノ道理ナシ故ニ此場合ニ於テ姦夫ニ對スル公訴權モ消滅ニ屬シタルモノトスト非ナリ縱令事件全一ナリト雖モ訴訟人異ナル以上ハ確定判決ノ効力ヲ及ボスヘカラザルナリ且ツ夫レ論者ノ説ニ從ヒ姦通罪ハ有罪ノ婦アルニアラサレハ成立セサルモノトスレハ姦婦犯姦ノ當時酒ニ酔ヒ精神喪失シテ是非ノ辨別ナキカ爲ニ無罪ノ言渡ヲ受ケタルトキハ姦夫モ亦無罪ナリト論定セサルヘカラス怪モ

亦甚

七 犯罪ノ後頒布シタル法律ニ因リ其刑ノ廢止

○或ル所爲ヲ爲スノ當時法律ニ刑名アリシモ後ノ法律ヲ以テ之ヲ廢止シタルトキハ社會ハ最早其所爲ヲ罰スルコトヲ得サレモノトス

八 大赦

○大赦トハ犯罪事件ニ對シ其事件ノ嘗テナカリシモノ、如ク全ク之ヲ消滅セシムル主權ノ作用ヲ云フ故ニ其犯罪ニ參與シタル者ハ正犯ト否トヲ問ハサルモノナリ如斯大赦ハ罪跡其モノヲ遺忘シ曾テ之レナカリシモノト看做スモノナルカ故ニ公訴權消滅ノ一原由タルヤ當然ナリ

九 時效

○時效モ亦公訴權消滅ノ原由ナリ即チ第八條ニ規定シタル年限ヲ經過シタルトキハ公訴ハ當然消滅スルモノナリ時效ノ法理ハ第八條ノ下ニ於テ詳述スベシ

第七條

私訴ヲ爲ス權ハ左ノ事項ニ因テ消滅ス

第一 放棄又ハ和解

第二 確定判決

第三 時效

一 本條ノ要旨

○本條ハ私訴權消滅ノ三個ノ原由ヲ定メタルモノナリ
確定判決及ヒ時效ノコトハ前條ノ解釋ヲ參看スレハ自ラ了解スヘキ
カ故ニコ、ニハ放棄及ヒ和解ノコトヲ一言スルニ止ムベシ

二 放棄又ハ和解

○放棄トハ被害者任意ニ私訴ヲ起サズシテ止ミ又ハ起シテ取下ケタル場合ヲ云ヒ和解トハ被害者加害者ト契約シテ私訴ヲ起サミルカ又ハ起シテ取下ケタル場合ヲ云フ其二者ノ異ナル所ハ被害者ノ任意ナルト加害者ト協議ノ上ナルトノ點ニアリ

放棄又ハ和解アルトキハ何故ニ私訴權消滅スルヤ請フ之ヲ説クヘシ私訴ヲ起スト否トハ被害者ノ權内ニアルモノニシテ法律ノ干涉スヘキモノニアラス何トナレハ私訴權ハ社會ニ屬スルモノニアラスシテ被害者ニ屬スルモノナレハナリ故ニ被害者ニ於テ私訴ヲ起サントスレハ即チ起リ止メントスレハ即チ止ム果シテ然ラハ被害者私訴權ヲ放棄スレハ私訴權消滅シ和解スレハ亦同シク消滅スルヤ當然ナリト云フヘシ

三 被告人死去スルモ私訴權消滅セサル所以

○被告人死去シタルトキハ公訴權消滅スルモ私訴權消滅セズ其然ル所以ハ他ナシ刑罰ハ犯人ヲ懲戒センカ爲ニ科スルモノナルカ故ニ被告人死去シタルトキハ之ヲ科スルノ要ナク又科スルコトヲ得スト雖モ私訴ハ私權利ノ回復ヲ目的トスルモノナルカ故ニ被告人死亡スルモ私訴權ニ満足ヲ與フル財産ハ依然存在スルカ故ナリサレハ被告人死亡スルモ其財産ヲ承繼スル相續人ニ對シテ之レヲ要求スルコトヲ得ルモノトス之レ被告人死去ノ爲ニ私訴消滅スルコトナキ所以ナリ

四 刑ノ廢止ニヨリ私訴權消滅セサル所以

○犯罪ノ後頒布シタル法律ニ因リ其刑ノ廢止アルトキハ何故ニ私訴ハ消滅セサルヤ他ナシ刑ノ廢止アルモ私權利ノ満足ヲ得サルカ故ナリ即チ民事上ノ責任ハ犯罪ト共成滅ヲ共ニスヘキモノニアラサルナ

五 大赦ニヨリ私訴權消滅セサル所以

○大赦ハ犯罪事件ヲ消滅スルモノナリト雖モ其事件ノ曾テナカリシモノ、如ク看做ストハ刑事上ノコトニシテ民事上ノコトニアラス民法ニヨレハ如何ナル場合ト雖モ人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ之ヲ償ハサルヲ得サルナリ今若シ大赦ニ依テ私訴權消滅スルモノトナサハ大赦ハ私人ノ權利ヲ害スルモノト云フベシ如斯ナルカ故ニ縱令大赦アリト雖モ爲ニ私訴權ヲ害スルノニアラサルナリ

第八條

公訴ノ時効ハ左ノ期間ヲ經過スルニ因テ成就ス

第一 違警罪ハ六月

第二 輕罪ハ三年

第三 重罪ハ十年

一 本條ノ要旨

○本條ハ時効ノ期間ヲ定メタルモノナリ即チ違警罪ハ六ヶ月輕罪ハ三ヶ年重罪ハ十ヶ年ヲ經過シタル時ハ公訴權消滅スルモノナリ但其期間中斷セラレサルヲ要ス若シ中斷セラレタルトキハ犯罪當日ヨリ受刑ノ日マテ六ヶ月若クハ三ヶ年十ヶ年ヲ經過シタルトキト雖モ公訴權消滅スルモノニアラスシテ中斷ノ手續ヲ止メタル日ヨリ新タニ其期間ヲ計算スルモノナリコトハ第十一條ノ下ニ於テ詳述スヘシ

二 時効ノ解

○時効トハ法律ニ定メタル一定ノ期間ヲ經過シタルトキハ時ノ効ニヨリ權利又ハ義務ノ消滅スルヲ云フ舊治罪法ニ在テハ之ヲ期滿免除

ト名ケシモ穩當ナラサルモノアルニヨリ時効ト改メタルナリ

三 公訴時効ノ原理

○刑事上ノ時効ハ之ヲ二个ニ區別スルコトヲ得ヘシ即チ刑ノ時効公
 訴ノ時効之レナリ刑ノ時効ハ刑法ニ定メアレハコ、ニ之ヲ説クベキ
 ニアラズ故ニコ、ニハ公訴ノ時効ノコトノミヲ一言セン
 或ル期間ヲ經過スルトキハ何故ニ公訴權消滅スルカ純理ヨリスレハ
 如斯ノ理天下絶テ存セス其然ル所以ハ他ナシ或ル犯罪タルベキ所爲
 ヲ行ヒシモノハ縱令幾百千年ヲ經過スルモ嘗テ或ル所爲ヲ行ヒシコ
 トナキモノトスルコトヲ得ザレハナリ源義經カ靜ヲ愛シ新田義貞カ
 勾當内侍ヲ愛シタリト云フ事實ハ今日ニ於テモ存在スルト全シク誰
 某カ十年前人ヲ殺傷シタルコトアル以上ハ今日ニ至テ殺傷ト云フ事
 實ノ消滅スルノ理ナシ夫レ然リ然ルカ故ニ既ニ發生シタル公訴權ノ

年月ノ經過ノ爲ニ消滅スヘキ理ナキヤ明カナリ

然ラハ何カ故ニ時効ニ依テ公訴權消滅スルモノト定メタルカ他ナシ
 左ノ三个ノ理由アルガ故ナリ

- 一、犯罪後幾多ノ年月ヲ經過スルトキハ罪アル或ハ罪ナキヲ証明スル
 證據徵憑湮滅シ爲ニ判決ノ正鵠ヲ得ル能ハザルガ故ナリ
 - 二、又幾多ノ年月ヲ經過スルトキハ社會公衆其罪ヲ遺忘シ犯人自ラモ
 不良ノ感ヲ腦裏外ニ放去スルモノナルカ故ニ之レヲ罰スルモ刑ノ目
 的上無要無効ナルガ故ナリ
 - 三、又幾多ノ年月ヲ經過スルモ之ニ對スル他ノ公訴起ラサルヲ以テ見
 レハ犯人自ラ過ヲ悔ヒ改メテ善良ノ民トナリシモノト推測スルニ足
 ルカ故ニ之レ又刑ノ目的上刑罰ヲ科スルノ要ナキモノトス
- 以上一二ノ理由ハ一般學者ノ是認スル所ニシテ三ノ理由ハ或ハ是ト

スルモノアリ非トスルモノアリ

原理ノ原理ヨリスレハ余ハ大ニ意見ナキニアラスト雖モ此書ハ單ニ警察執行官ノ爲ニスルモノナルカ故ニ條文ノ精神ヲ解スル丈ノ解ヲ與フレハ足レリサレハ余ハ敢テ高尙ナル意見ヲ述ヘサルベシ

四 罪ノ種類ニヨリ期間ヲ異ニスル所以并ニ刑名ニヨリ期間ヲ區別セサル所以

○罪ノ種類ニヨリ期間ヲ設ケ違警罪ハ六月輕罪ハ三年重罪ハ十年ト定メタル所以ハ罪ノ輕キモノハ證據湮滅スルコトモ世人ノ之ヲ遺忘スルコトモ早ク罪ノ重キモノハ之レト反スルガ故ナリ又公訴時効ヲ刑法第五十九條ニ掲グル如ク死刑ハ三十年無期徒刑ハ二十五年有期徒刑ハ二十年重懲役重禁獄ハ十五年輕懲役輕禁獄ハ十年禁錮罰金ハ七年拘留科料ハ一年ト定メサル所以ハ公訴時効ハ刑ノ確定後ニアル

モノニアラザルカ故ニ其犯罪果シテ何レノ刑ニ該當スルヤラ確知スルコト能ハザレバナリ又刑ノ時効ハ概シテ其期間長ク公訴ノ時効ハ之レト比シテ其期間短キハ刑ノ時効ハ裁判確定シタル有罪者ニ向テ成就スルモノナレトモ公訴ノ時効ハ之レト反シテ果シテ有罪者ナルヤ否ヤ豫メ知ルベカラザル未確定者ニ向テ成就スルモノナルニヨル

第九條

私訴ノ時効ハ被害者無能力ナルトキ又ハ公訴ニ附帶セスシテ其訴ヲ爲シタルトキト雖モ公訴ノ時効ト其期間ヲ同クス
公訴ニ付キ既ニ刑ノ言渡アリタルトキハ民法ニ定メタル時効ノ例ニ從フ

一 本條ノ要旨

○本條ハ私訴ノ時効ノコトヲ定メタルモノナリ即チ私訴ノ時効ハ公

訴ノ時効ト其期間ヲ同フスルモノトス但シ公訴ニ付キ既ニ刑ノ言渡アリタルトキハ民法ニ定メタル時効ノ例ニ從フヘキナリ

二 私訴時効ノ原理

○私訴ハ民事上ノ訴ナルカ故ニ私訴ノ時効ノコトヲ知ラント欲セハ民事上ノ時効ノコトヲ知ラサルヘカラス即チ民法証據篇第八十九條以下ニ於テ時効ヲ規定シタル所以ハ左ノ如シ

一、幾年月ヲ經過スルトキハ權義ヲ證明スルノ証據滅失シテ爲メニ確實ナル裁判ヲ與フルコトヲ得ス

二、幾年月ヲ經過スルモ權利者其權利ヲ利用セサルトキハ實際權利アルニアラサル者若シクハ其權利ヲ拋棄シタルモノト看做ササルヘカラス

右二個ノ理由アルガ爲ニ民法上時効ヲ認メタルナリ實ニ幾十年前ノ

事實ニテモ之ヲ訴フルコトヲ得ベシトナサハ吾人ハ何時何人ニ訴訟セラル、ヤ知ルヘカラス尙ホ極端ニ云ヘバ源平又ハ足利時代ニ汝ノ祖先ニ物品ヲ貸與シタリトカ又ハ賣渡シテ未タ代金ヲ領收セストカ云フヲ以テ訴ヘラル、コトアルベシ果シテ如斯シハ吾人ハ谷川ノ丸木橋ヲ渡ルカ如ク寸分モ心ヲ安ニスルコト能ハサルヘク社會從テ紊亂セン且ツ夫レ証據既ニ滅失シテ爲ニ正確ノ裁判ヲ得ルコト殆ント無之ニ於テオヤ又普通一般ノ社會ノ有様ヨリ見ルモ所有權若シクハ債權アリナガラ數十年ノ久シキ之レハ已レノ所有物ナルカ故ニ占有スルヲ止メヨトモ債權ニ満足ヲ與ヘヨトモ請求セザランニハ元來權利ヲ有セザリシカ債務者既ニ辨濟シタルカ或ハ其証書ハ偽造ナルカ等ノ推定ヲ下スヘキハ當然ナリト云フベシ民法ニ免責及ヒ取得ノ時効ヲ設ケタル故アル哉

然レトモ時効ハ免責ト取得トヲ問ハス無能力者ニ對シテハ進行セサルモノトス何トナレハ無能力者ハ其字義ノ示スカ如ク法律上能力ナキモノト看做スカ故ニ權利ヲ執行スルコトヲ得メクシテ而レテ之ヲ等閑ニ付シタルモノト推定スルコトヲ得サルカ故ナリ

三 私訴時効ノ期間公訴時効ノ時間ト同一ナリト定メタル所以

○私訴ハ民事上ノ訴ナルニヨリ民法ニ定メタル時効ノ時間ニヨルベキヲ當然トス而モ公訴ノ時効ト其期間ヲ同フスル所以ハ何ツヤ他ナシ公訴權時効ニヨリテ消滅シタルトキハ即チ犯罪成立セサルモノトス今夫レ私訴ハ犯罪ニ因リテ生ジタル損害ノ賠償贖物ノ返還ヲ請求スルコトヲ目的トスルモノナリ然ルニ犯罪ナキトキハコトニ私訴權即チ犯罪ノ爲ニ損失ヲ受ケタルヲ理由トシテ之カ回復ヲ求ムル權利アルノ理トシ犯罪アリテ始メテ私訴權アレ犯罪ナクシテ私訴權アル

ノ理ナキハ猶ホ海アリテ松島アリ海ナクシテ松島アルノ理ナキカ如シ之レ公訴私訴共ニ其時効ノ期間同シキ所以ニシテ又無能力者ナルト公訴ニ附帶セスシテ訴ヘタルトキ分タサル所以ナリ

四 私訴權消滅シタルトキハ受ケタル損害ヲ償ハシムルコトヲ得サルカ

○私訴權ハ前陳ノ如ク公訴權ト時効ノ期間ヲ同フスルモノナリサレハ公訴ノ時効成就シタルトキハ私訴ノ時効モ亦成就スルカ故ニカ、ル場合ニ於テハ私權利ノ毀損ヲ回復セシムルコトヲ得サルカ若シ夫レ然リト云ハシ奇怪ニシテ痛歎スヘキ結果ヲ生スルニ至ルベシ即チ金錢貸借ノ場合ニ於テハ三十年ヲ經過スルニアラザレハ時効ニカ、ラス、雖モ強盜ノ場合ニ於テノ盜奪品ハ十年ヲ經過スルヲ以テ時効成就シタルモノトスルニ至ル之レ豈ニ奇ナラズヤ然レトモ本條私訴

時効ノ期間ハ公訴時効ノ期間ト同シト定メタルハ犯罪ヲ原因トスル私訴ノ名義ノ訴ヲ云フモノニシテ民事上純粹ノ訴ヲ云フニアラス故ニ強奪物ノ如キモ公訴ノ時効成就シタルトキハ強盜セラレタル贓品ナリトテ私訴ノ名義ヲ以テ訴フルコトハ出來サレトモ故ナク他人ノ所有物ヲ占有スルコトヲ得サルハ民法ノ原則ナルカ故ニ純粹ノ民事上ノ訴ヲ以テ之カ返還ヲ要求スルコトヲ得ルナリ

要スルニ私訴ノ時効成就シタルトキハ私訴ノ名義ヲ以テ私權利ノ回復ヲ要求スルコトヲ得サレトモ故ナク損失ヲ加ヘラレタルヲ理由トシテ純粹ノ民事上ノ訴ヲナスコトヲ得ルカ故ニ私訴時効ノ期間ヲ公訴時効ノ期間ト同一ナラシムルモ奇怪ナル結果ヲ生スルコトナキモノナリ

五 第二項ノ解

○公訴ニ付キ刑ノ言渡アリタルトキハ私訴ノ時効ハ民法證據篇ニ定メタル例ニヨルモノナリ

第二項ニ所謂刑ノ言渡トハ刑ノ言渡ヲ受ケテ刑ニ處セラレタルモノニミテ云フニアラス罪アレトモ其刑ヲ全免スル旨ヲ言渡サレタルトキノ如キモ包含スルモノナリ

公訴ニ付キ刑ノ言渡アリタルトキハ私訴ノ時効ハ何故ニ民法ノ例ニヨルカ其理外ナラス刑ノ言渡アレハ即チ犯罪ノ事實明瞭ナルカ故ニ民法ニ定メタル期間内ニハ證據湮滅ノ恐レモナク又犯罪ヲ理由トシテ私訴ノ名義ヲ以テ訴フルモ何ノ妨ケナケレハナリ

第十條

公訴私訴ノ時効ハ犯罪ノ日ヨリ其期間ヲ起算ス但繼續犯罪ニ付テハ其最終ノ日ヨリ起算ス

一 本條ノ要旨

○本條ハ公訴私訴ノ時効ノ起算點ヲ定メタルモノナリ即チ公訴私訴ノ時効ハ犯罪ノ日ヨリ其期間ヲ起算スヘク繼續犯罪ニ付テハ其最終ノ日ヨリ起算スルモノナリ

二 犯罪ノ日ヨリ起算スル所以

○公訴私訴ノ時効ハ犯罪ノ日ヨリ其期間ヲ起算スト定メタルモノハ犯罪ノ日ヨリ訴權發生スルモノナルカ故ナリ犯罪ノ日ヨリ訴權發生ストセハ證據湮滅遺忘等ノコトモ犯罪ノ日ヨリ漸次ニ來スベキハ當然ナリト云フベシ

三 繼續犯ニ付テハ最終ノ日ヨリ起算スル所以

○繼續犯ニ付テハ最終ノ日ヨリ起算スルモノト定メタル所以ハ如何他ナシ繼續犯ナルモノハ或ル時日間犯意事實共ニ寸毫モ間斷ナク繼

續スルモノナルガ故ニ最終ノ日ガ即チ犯罪ヲ終リタルノ日ナルガ故ナリ若シ夫レ犯罪ノ當時ヨリ時効進行スルモノトセバ繼續犯ノ一ナル監禁罪ノ如キ場合ニ於テ十數年間繼續シタルトキハ犯罪未タ終ラザルニ時効既ニ成就スルカ如キ奇怪ナル結果ヲ生スルニ至ルベシ之レ本條繼續犯ニ付テハ最終ノ日ヨリ起算スト定メタル所以ナリ

四 本條ハ原則ト例外トヲ定メタルモノナルカ

○本條ハ原則ト例外トヲ定メタルモノナルカ尙ホ云ハキ犯罪ノ日ヨリ起算ストアルガ原則ニシテ最終ノ日ヨリ起算ストアルガ例外ナルカ如何或ル學者ハ曰ク然リト余カ見テ以テスレハ然ラス本條ハ原則ト應用トヲ定メタルモノナルニ過キス

犯罪ノ日ヨリ其期間ヲ起算ストハ犯罪着手ノ時ヨリ起算スルノ云ヒニアラズンテ犯罪ヲ終リタルトキヨリ起算スルノ云ヒナリ設例ハ某

者人ヲ謀殺セントシ午後十一時ニ着手シ翌日ノ午前一時ニ終リタリトセンカ時効ハ十一時ヨリ進行スルモノニアラス何トナレハ十一時ハ犯罪ニ着手シタルノ時ナレハナリ又十二時或ハ午前〇時三十分ヨリ時効進行スルモノニアラス之レ犯罪ヲ行ヒツ、アル間ナレハナリ何故ニ犯罪中ニ時効進行セサルカ之レ前ニ述ベタル所ニシテ而シテ若シ然リトナサバ監禁罪ノ如キ場合ニ於テ奇怪ナル結果ヲ生スルコトアルベキモ亦前陳ノ如シサレハ右ノ場合ニ於テノ時効ハ午前一時即チ着手ノ翌日ヨリ進行スヘキモノナリ如斯ク法理ナルカ故ニ本條犯罪ノ日ヨリ其起算ヲ起算ストハ犯罪ヲ終リタル日ヨリ起算スト云フト異ナル所ナキナリ然ラハ繼續犯罪ニ付テハ其最終日ヨリ起算スト定メタルハ敢テ例外ニアラザルヤ明カナリト云フベシ故ニ曰ク本條ハ原則ト例外トヲ定メタルモノニアラズシテ原則ト應用トヲ定

メタルモノナリト

五 本條ヲ改メテ疑問ノ路ヲ塞クベシ

○本條ノ法文其宜キヲ得サルカ故ニ連續犯ニ付テ時効起算ノ點如何慣行犯ニ付テ時効進行ノ時期如何等其他種々ノ疑問ヲ生スベシサレハ宜ク本條ヲ左ノ如ク改メテ疑ヲ入ル、ノ餘地ナカラシムベシ

公訴私訴ノ時効ハ犯罪ヲ終リタル日ヨリ其期間ヲ起算ス

單ニ右ノ如クスレハ完全ナルモノト云フベシ今試ミニ之ヲ云ンカ右ノ如クスレハ繼續犯ニ付テノ疑問起ラサルヘシ即チ犯罪ヲ終リタル日ヨリ起算スルガ故ナリ又連續犯ニ付テモ疑問起ラザルヘシ即チ一所爲毎ニ時効ヲ起算スヘキガ故ナリ

繼續犯ト連續犯トノ區別ハ刑法撮要中ニ詳述スヘキモ尋テナレハコト一言スベシ繼續犯トハ或ル時日間毫モ間斷ナク續行スルモノニ

シテ連續犯ハ犯意ハ繼續シテ間斷ナキモ事實ハ繼續セサルモノナリ
 監禁ノ罪偽造變造ノ度量衡ヲ所持スルノ罪ノ如キハ即チ繼續犯ナリ
 何トナレハ人ヲ監禁スル間度量衡ヲ所持スル間ハ繼續シテ間斷ナキ
 モノナレハナリ右ノ度量衡ヲ使用スル罪有夫ノ婦ト數回姦通スル者
 等ノ罪ハ即チ連續犯ナリ何トナレハ度量衡ヲ今日一回使用シ明日亦
 一回使用スルカ如キ有夫ノ婦ト日毎ニ姦通スルカ如キハ其犯意ニハ
 間斷ナカルヘキモ所爲ハ決シテ繼續スルモノニアラザレハナリ故ニ
 繼續犯ハ一罪ナレトモ連續犯ハ數罪俱發ナリ
 余カ前ニ掲ケタルカ如ク法文ヲ改ムレハ繼續犯連續犯ニ付テハ何ノ
 疑問モ起ラサルナリ即チ前述フレカ如ク連續犯ハ一所爲ノ終リシ毎
 ニ繼續犯ハ所爲ノ終リタル日ニ時効進行スルモノナリサレバ連續犯
 ノ場合ニ於テハ例ヘハ今日ナセシ姦通罪ノ時効成就シ明日ノ姦通罪

ノ時効成就セサルコトアルヘシ之レ法理ノ當然ナリ
 要スルニ本條但以下ハ全ク無用ノモノニ過キズ

第十一條

時効ハ起訴豫審又ハ公判ノ手續アリタルニ因リ其期間ノ經過ヲ中斷
 ス其未タ發覺セサル正犯從犯及ヒ民事擔當人ニ付テモ亦同シ
 時効ノ經過ヲ中斷シタルトキハ起訴豫審又ハ公判ノ手續ヲ止メタル
 日ヨリ更ニ其期間ヲ起算ス

一 本條ノ要旨

○本條ハ時効ノ中斷并ニ更ニ進行スル期間ノ起算點ヲ定メタルモノ
 ナリ

- 二 起訴豫審又ハ公判ノ手續アリタルニ因リ時効ノ經過ヲ中斷
 スル所以并ニ正犯從犯及ヒ民事擔當人ニ付テモ亦同シト定

メタル所以

○時效ハ犯罪遺忘證據湮滅等ニ起因スルモノナルコトヲ知ラバ之等ノ理由ハ了解セラルベシ即チ起訴豫審又ハ公判ノ手續アレハ社會ハ犯罪ヲ遺忘セザルコト明カニシテ又證據ヲ採保スレハ湮滅セサルコト固ヨリナレバ之レ等ノ手續アルトキハ時效ノ進行期間ヲ中斷スルハ當然ナリト云フベシ

又正犯從犯及ヒ民事擔當人ニ付テモ同シキ所以ハ時效ハ人ニ付テ進行スルモノニアラスシテ犯罪事件ニ付テ進行スルモノナルガ故ナリ故ニ正犯從犯及ヒ民事擔當人ノ誰レタルコト明カナラサル場合ト雖モ起訴豫審等ノ手續アルトキハ中斷セラル、モノナリ

中斷トハ既ニ經過シタル日月ヲ無効ニスルヲ云フ

三 時效ノ經過ヲ中斷シタルトキハ起訴豫審又ハ公判ノ手續ヲ

止メタル日ヨリ更ニ其期間ヲ起算スル所以

○之レ亦時效ハ遺忘湮滅ニ基クモノナルヲ知ラバ自カラ了解スベシ即チ起訴豫審公判等ノ手續アル間ハ犯罪ヲ遺忘セス證據湮滅セズト雖モ之レ等ノ手續ヲ止メタル時ハ日ヲ追フテ遺忘湮滅スルハ當然ナリ之レ第二項ノ法文アル所以

四 舊法トノ比較

○舊治罪法ニヨレハ時效ノ經過ヲ中斷シタルトキト雖モ前後ノ日數ヲ通算シテ時效期限ノ二倍ヲ超過スルコトヲ得サルモノトス新法此制ナシ其故如何

時效ハ屢々述フルカ如ク犯罪ノ遺忘ト證據ノ湮滅トニ基ク故ニ犯罪ヲ遺忘セス證據湮滅セサルトキハ縱令數十年ヲ經過スルモ時效ニヨリ公訴權消滅スヘキ理ナシ今夫レ時效成就前ニ在テ中斷ノ手續アラ

シカ犯罪遺忘シタリト云フヘカラス證據湮滅シタリト云フヘカラス
且夫レ漸次ニ證據ヲ得ヘキノ見込アルニ關ハラヌ舊法ノ如ク期限ノ
二倍ヲ經過スルコトヲ得ストノ制限アラシムニハ故ナク有罪ヲ不問ニ
付スルモノニシテ治罪上宜シキヲ得タルモノニアラズ之レ即チ舊法
ヲ改メテ新法ノ本條アル所以ナリ

本條ノ精神如斯然レトモ一方ヨリ見レハ司法官ニ怠慢ノ路ヲ與ヘタ
ルカ如ク公益ヲ害スルカ如ク然リ數回中斷シテ證據ヲ採保スルト云
フト雖モ被告人ニ利益ナル證據ハ盡ク採保シタリト信スルコト能ハ
ス故ニ數十年前ノ罪ヲ斷セントスレハ被告人ハ既ニ早ク辨護ノ材料
遺忘シ湮滅シテ充分ニ權利ヲ保護スルヲ能ハス爲ニ無罪ノ身ヲ獄裏
ニ悲歎スルコトナシト云フヘカラス且ツ夫レ司法官ハ時効成就ニ垂
ントシテ其手續ヲ行ヘハ經過シタル期限ヲ無効ニ屬ヒシムルコトヲ

得ルカ故ニ從テ職務ニ怠慢ナシト云フコトヲ得ンヤ夫レ然リ然ルカ
故ニ舊法ノ制度又一理アリ

前陳ノ如クナルカ故ニ余ハ舊新兩法共ニ利アリ害アリ直チニ其是非
ヲ斷スルコト能ハズ

第十二條

起訴豫審又ハ公判ノ手續其規定ニ背キタルニ因リ無効ニ屬スルトキ
ハ時効ノ經過ヲ中斷スル效ナカルヘシ但裁判所ノ管轄違ナルニ因リ
其手續ノ無効ニ屬スルトキハ此限ニ在ラス

本條ノ解

○違法不當ナル手續ヨリシテ正當ナル效果ノ生スヘキ理ナシ之レ本
條起訴豫審又ハ公判ノ手續其規定ニ背キタルニ因リ無効ニ屬スルト
キハ時効ノ經過ヲ中斷スルノ效ナカルヘシト定メタル所以ナリ

又裁判所ノ管轄違ナルニ因リ其手續ノ無効ニ屬スルトキハ此限ニ在
ラスト定メタルモノハ期限中斷ノ效ヲ生スルモノハ手續ニシテ之レ
ヲ受理スル裁判官ニアラサルニヨル

第十三條

被告人免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタル場合ニ於テ其訴訟ノ原由告訴
人告發人又ハ民事原告人ノ惡意若クハ重過失ニ出テタルトキハ是等
ノ者ニ對シ損害ノ償ヲ求ムルコトヲ得
被告人刑ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ告訴人告發人又ハ民事原告人ヨリ
惡意若クハ重過失ニ因リ其犯罪ニ付キ過實ノ申立ヲ爲シタルトキモ
亦同シ

民事原告人上訴ヲ爲シ敗訴シタルトキハ被告人其上訴ニ因リ生シタ
ル損害ノ償ヲ要ムルコトヲ得

要償ノ訴ハ本案ノ判決アルマテ何時ニテモ其裁判所ニ之ヲ爲スコト
ヲ得

一 本條ノ要旨

○本條ハ被告人カ告訴告發人等ニ對シテ損害ノ償ヲ要ムルコトヲ得
ル場合ヲ定メタルモノナリ

二 第一項ノ解

○被告人免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタル場合ニ於テ其訴訟ノ原由告
訴人告發人又ハ民事原告人ノ惡意若クハ重過失ニ出テタルトキハ是
等ノ者ニ對シ損害ノ償ヲ求ムルコトヲ得ルモノナリ何トナレハ不正
ナル所爲ノ爲メニ損害ヲ加ヘラレタルトキハ之ヲ償ハシムルコトヲ
得ルハ民法ノ原則ナレハナリ

惡意トハ被告人ニ損害ヲ加ヘントスル不正ナル意思ヲ云フ例令ハ被

告人ヲ刑ニ陥レントシテ無實ノコトヲ有實トシテ告訴告發スルカ如キ即チ然リ

重過失トハ過失ノ尤モ重キモノヲ云フ過失トハ注意スヘキ所ニ注意セサルヨリ生スル過誤ヲ云フ如何ナル之ヲ輕過失トナスヘキカ如何ナルヲ是レ重過失トナスヘキカハ一定ノ文例ヲ以テ示スコトヲ得ス其事實ニ依テ判定スヘキナリ
人ニ損害ヲ加フレハ之ヲ賠償スヘキハ民法ノ命スル所ナリ然ルニ本條第一項ニヨレハ被告人ハ惡意若クハ重過失ニヨリテ損害ヲ受ケタルトキニ限り賠償ヲ要ムルコトヲ得レトモ輕過失ノ爲ニ損害ヲ蒙リタルトキハ之カ賠償ヲ要ムルコトヲ得ズ之レ明カニ民法ノ原則ニ背反スルモノナリ然ラハ本項其當ヲ得スト云フベキカ否決シテ然ラス請フ左ニ其所以ヲ説クヘシ

罪人ヲ漏レナク罰スルハ社會ノ公益ナリ故ニ吾人ニ告訴告發ノ權利ヲ附與セリ一方ヨリミレハ告訴告發ハ吾人ノ權利ナレトモ一方ヨリミレハ社會ニ對スルノ本分即チ義務ナリ然ルニ今若シ最輕過失ニテモ告訴告發又ハ民事原告人其責ニ任スヘキモノトナサバ何人カ進ンテ告訴告發スルモノアラシヤ現行犯ヲ目撃スルモ之ヲ不問ニ附スルヤ必セリ若シ夫レ如斯ンハ社會ノ安寧如何之レ輕過失ノ場合ニ於テハ被告人ニ要償權ナシト定メタル所以ナリ

三 第二項ノ解

○本條第二項ニ於テハ被告人刑ノ言渡ヲ受ケタルトキト雖モ告訴人告發人又ハ民事原告人ヨリ惡意若クハ重過失ニ因リ其犯罪ニ付キ過實ノ申立ヲ爲シタルトキハ損害ノ償ヲ要ムルコトヲ許セリ蓋シ惡意若クハ重過失ニヨリ過實ノ申立ヲ受ケ爲ニ損害ヲ蒙リタルトキ例令

ハ爲ニ拘留日時ノ久シキニ彌リタルカ或ハ相當ノ刑ヨリ重キ刑ニ處
 セラレタル時ノ如キ場合ニ於テハ刑ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ之ヲ償
 ハシムルコトヲ得ルハ當然ナリ

過實ノ申立トハ事實ヨリモ過キタル申立ヲ云フモノニシテ例令ハ脅
 迫若クハ竊盜ヲ謀殺或ハ強盜ト申立タルトキノ如キ然リ

過實ノ申立ナキトキハ何故ニ損害ノ償ヲ要ムルコトヲ得サルカ他ナ
 シ強盜ヲ強盜ト申立謀殺ヲ謀殺ト申立タルトキノ如キハ惡意若ク重
 過失ナルモノアラス爲ニ被告人ニ於テ損害ヲ蒙ルコトナケレハナリ

四 第三項ノ解

○本條第三項ニ於テハ民事原告人上訴ヲ爲シ敗訴シタルトキハ被告
 人其上訴ニ因リ生シタル損害ノ償ヲ要ムルコトヲ得ルモノトセリ之
 レ亦當然ノコトハ云フヘシ

此場合ニ於テハ惡意アルコトヲ要スルカ或ル學者ハ惡意若クハ重過
 失アルコトヲ要スト主張スルモ余カ見ヲ以テスレハ然ラサルナリ且
 ヲ法文ニモ惡意アルコトヲ要スル旨ヲ掲載セサルカ故ニ特ニ或者ノ
 誤リヲ辨駁スルノ要ナシ

第三項ニハ民事原告人トアリテ告訴人告發人ノコトナクハサレハ告訴
 告發人ハ訴訟關係人ニ非サルカ故ニ上訴スルコトナケレハナリ

五 第四項ノ解

○第四項ニ於テハ要償ノ訴ハ本案ノ判決アルマテ何時ニテモ其裁判
 所ニ之ヲ爲スコトヲ得ト定メタリ蓋シ被告人ニ便宜ヲ與ヘンカ爲メナ
 リ

第十四條

本案ノ判決既ニアリタルトキハ民事裁判所ニ訴フヘキモノナリ

被告人無罪ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ判事、檢事、裁判所書記、執達吏、司法警察官又ハ巡查、憲兵卒ニ對シ要償ノ訴ヲ爲スコヲ得ス。但是等ノ官吏被告人ニ對シ故意ヲ以テ損害ヲ加ヘ又ハ刑法ニ定メタル罪ヲ犯シタル場合ハ此限ニ在ラス。

一 被告人無罪ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ判事、檢事、其他ノ官吏ニ對シ要償ノ訴權ナシト定メタル理由。

○前條ニヨレハ被告人ハ告訴人、告發人又ハ民事原告人等ノ重過失ニ因リ損害ヲ受ケタルトキハ之ヲ賠償セシムルノ權アリ。然ルニ本條ニヨレハ被告人ハ假令無罪ノ言渡ヲ受ケタルトキト雖モ判事、檢事、裁判所書記、執達吏、司法警察官又ハ巡查、憲兵卒ニ對シ要償ノ訴ヲ爲スコヲ得ス。之レ前條規定ノ精神ト相反スルカ如ク然ルニアラズヤ被告人無罪ノ言渡ヲ受ケタル時ハ即チ司法警察官、檢事、判事等搜查、起訴、審理ノ

諸手續ヲ爲スヘカラサルニ誤テ之ヲ爲シタルモノナリ。然ラハ之レヨリ生スル損害ノ責ニ任スル當然ナルニアラスヤ。而モ本條ノ規定アルハ如何蓋シ故アルナリ。

本條ニ定メタル官吏ニシテ被告人ニ對シ賠償ノ責ニ任スルモノトスレハ之等ノ官吏ハ其職務ヲ斷行スルニ躊躇シ、因循ニ流ル、ノ弊アルヤ必ヒリ之レ本條ノ定メアル所以ノ一ナリ。又官吏賠償ノ責ニ任スヘキモノトセハ被告人ヨリ要償ノ訴ヲ受クルコトヲ恐レテ罪無キモノニモ有罪ノ言渡ヲナスコトナキヲ保セス。若シ如斯クハ社會ノ公益ヲ害スル甚クシト云フヘシ之レ本條ノ定メアル所以ノ二ナリ。上陳二個ノ理由アルカ故ニ本條ニ於テ判事、檢事等其責ニ任セスト定メタルモノナリ。

二 故意ヲ以テ損害ヲ加ヘ又ハ刑法ニ定メタル罪ヲ犯シタル場

合ハ此限ニアラズト定メタル所以

○本條ニ掲載セル官吏被告人ニ對シ故意ヲ以テ損害ヲ加ヘ又ハ刑法ニ定メタル罪ヲ犯シタル場合ニ於テハ賠償ノ責アルモノト定メタル所以ハ如何曰ク職務ノ執行ニシテ自己ノ擅恣ニ出テタルモノニアラザルトキハ前陳ノ如ク賠償ノ責ナキハ當然ナレトモ苟クモ損害ヲ加ヘントシテ即チ故意ヲ以テ損害ヲ加ヘ又ハ刑法ニ定メタル罪ヲ犯シタル時ハ之レヲ賠償スルノ責アルハ民法ノ原則ノ然ラシムル所ナリ刑法ニ定メタル罪トハ全法第二百七十八條第二百八十二條第二百八十六條第二百八十七條等ノ犯罪ヲ謂フ

第十五條

此法律ニ於テ期間ヲ計算スルニ時ヲ以テスルモノハ即時ヨリ起算シ日ヲ以テスルモノハ初日ヲ算入セズ若シ最終ノ日休暇ニ當ルトキハ

期間ニ算入スヘカラス但時効ノ期間ハ此限ニ在ラス

一日ト稱スルハ二十四時間ヲ以テシ一月ト稱スルハ三十日ヲ以テシ一年ト稱スルハ曆ニ從フ

一 本條ノ要旨

○本條ハ期限計算法ヲ定メタルモノナリ

二 時ヲ以テスルモノハ即時ヨリ起算スル所以

○時ヲ以テスルモノハ即時ヨリ起算スト定メタルモノハ事ノ淹滞ヲ防カンカ爲ナリ

三 日ヲ以テスルモノハ初日ヲ算入セスト定メタル所以

○日ヲ以テスルモノハ初日ヲ算入セスト定メタル所以ハ全日ノ時間ヲ與ヘンカ爲メナリ若シ之レト反シテ初日ヲ算入スルモノトセバ三日若クハ五日ト云フモ其最始ノ一日ハ午前零時ヨリ始マルニアラス

レテ九時十時若クハ十二時ヨリ起算スルカ如キコトアルベク爲ニ吾人ノ權利ヲ縮少スルコトアルヘキカ故ナリ

四 最終ノ日休暇ニ當ルトキハ期間ニ算入スヘカラスト定メタル所以

○最終ノ日日曜若クハ大祭日等ニ當ルトキハ期間ニ算入スルコトヲ得ス斯ク定メタル所以ハ休暇ノ日ハ官民共ニ其業務ヲ休ムカ故ナリ而シテ此法則ハ時ヲ以テ算スルモノニモ適用スヘキナリ即チ時間ノ満ル日休暇ニ當ルトキハ其日ノ時間ヲ算入セサルモノトス
又此法則ハ官民共ニ利益便宜ヲ受クルト雖モ時トシテハ被告人ノ權利ヲ侵害スルコトアリ彼ノ密室監禁ハ十日ヲ超過スヘカラサルモノナリ然レトモ最終ノ日休暇ニ當ルトキハ本條ニヨリ期間ニ算入セサルカ故ニ十一日間密室ニ監禁セラル、コアルヘシ之レ即チ被告人ノ

權利ヲ侵害スルモノト云フヘシ故ニ改メテ密室監禁ノ如ク被告人ノ利益ヲ害スルモノニハ最終ノ日休暇ニ當ルト雖モ期間ニ算入スルコト、定メラレシコトヲ望ム

五 時効ノ期間ハ此限ニ在ラスト定メタル所以

○最終ノ日休暇ニ當ルトキハ期間ニ算入セスト雖モ然レトモ時効ノ期間ハ之カ例外ナリ其然ル所以ハ休暇ノ日ト雖モ犯罪遺忘証據湮滅等ノ点ニ付テハ何ノ關係ナキカ故ナリ

六 第二項ノ解

○一日ト稱スルハ二十四時間ヲ以テスルハ世間普通ニシテ別ニ解テ要セス三十日ヲ以テ一月トスルハ便宜ノ爲ナリ即チ曆ニ從ヘハ或ハ二十九日ヲ以テ或ハ二十八日ヲ以テ或ハ三十一日ヲ以テ一月トスルコトアリカク月ニ依リテ日數ニ異別アルハ實際不便ナリ之レコノ定メ

アル所以又一年ト稱スルハ曆ニ從フト定メタルハ之レ亦便宜ノ爲ナリ即チ年ニ依テ日ニ多少アルコトアルカ故ニ日ニ依テ計算スルトキハ錯雜ヲ來セバナリ

第十六條

此法律ニ定メタル期間ニハ海陸路八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ加フ八里ニ滿タサルモノト雖モ三里以上ナルトキハ亦同シ

島嶼又ハ外國ニ付テハ裁判所ニ於テ特ニ附加期間ヲ定ムルコトヲ得

一 第一項ノ解

○海陸路八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ加フルハ被告人居住地ノ遠近ヲ問ハス一定ノ期間ヲ與ヘンカ爲ナリ

三里以上ナルトキ亦同シトセルハ若シ八里ニ滿タサレハ一日ノ猶豫ヲ與ヘストセハ七里ノ地ニ在ルモノ、如キ大ナル不幸ヲ受クヘケレ

ハナリ

二 第二項ノ解

○島嶼又ハ外國ニ付テハ附加期間ヲ與フルコトヲ得ト定メタルモノハ海路ハ陸路ト異ナリ風浪ノ爲ニ妨ケラル、コアリ又即時ニ出帆セントスルモ能ハサルコトアルヘキカ故ナリ

第十七條

此法律ニ於テ訴訟ヲ爲スニ付キ定メタル期間ヲ經過シタルトキハ特別ノ場合ヲ除クノ外其訴訟ヲ爲ス權ヲ失フヘシ

一 期間經過ニヨリ權利ヲ失フ所以

○此法律ニ於テ訴訟ヲ爲スニ付キ定メタル期間トハ上訴、上告、抗告等ノ期間ヲ云フモノナリ之レ等ノ期間經過シタルトキハ訴訟ヲ爲ス權ヲ失フヘシト定メタルハ若シ如斯定メサレハ裁判確定ノ日ナク訴訟

底止セス爲ニ吾人其堵ニ安ンズルコト能ハサルニ至レハナリ

二 特別ノ場合トハ如何

○特別ノ場合トハ第二百七條第二項及ヒ第二百四十七條等ノ場合ヲ云フモノナリ第二百七條第二項ニ曰ク若シ其告知又ハ記載ナキトキハ更ニ其通知アルマテ上訴及ヒ故障期間ノ經過ヲ停止スト第二百四十七條ニ曰ク訴訟關係人天災其他避クヘカラサル事變ノ爲メ上訴期間ヲ經過シタル場合ニ於テ其旨ヲ疏明シタルトキハ期間ヲ經過シタルニ因リ失ヒタル權利ヲ回復スルコトヲ得但障礙ノ止ミタル日ヨリ通常ノ期間内ニ其疏明方法ヲ申立書ニ記載シ上訴ヲ爲ス可シト

第十八條

訴訟關係人ハ裁判所所在ノ地ニ住セサルトキハ其地ニ假住所ヲ定メ裁判所ニ届出ツ可シ否ラサルトキハ書類ノ送達ナシト雖モ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

立ツルコトヲ得ス

本條ノ解

○訴訟關係人トハ其訴訟ノ裁判ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル者ノ名稱ナレトモ本條ニ所謂訴訟關係人トハ重モニ民事原告人民事擔當人等ヲ指スモノトス

訴訟關係人裁判所所在ノ地ニ住セサルトキハ其地ニ假住所ヲ定メ裁判所ニ届出可キモノナリコノ制アル所以ハ無用ノ費用ト日子トヲ省カンガ爲メナリ若シ仮住所ヲ定メサルトキハ書類ノ送達ナシト雖モ異議ヲ申立ツルコトヲ得サルモノトス

第十九條

書類ノ送達ハ此法律ニ於テ別ニ規定アラサルトキハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

本條ノ解

○民事訴訟法ノ規定トハ同法第三百三十六條乃至第三百五十八條ノ規定ヲ云フモノナリ
 別ニ規定シタルモノトハ第六十九條ニヨリ召喚狀ヲ發スル場合及ヒ勾留狀收監狀等ヲ送達執行スル場合等ヲ云フ

第二十條

官吏、公吏ノ作ル可キ書類ハ其所屬官署、公署ノ印ヲ用ヒ年月日及ヒ場所ヲ記載シテ署名捺印シ每葉ニ契印ス可シ若シ官署、公署ノ印ヲ用井ルコト能ハサル場合ニ於テハ其事由ヲ記載ス可シ此規定ニ背キタルトキハ其書類ノ效ナカル可シ
 官吏、公吏ニ非サル者ノ作ル可キ書類ニハ本人自ラ署名捺印スヘシ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ官吏、公吏ノ面前ニ於テ作リタル

場合ヲ除ク外立會人代署シ其事由ヲ記載スヘシ

本條ノ解

○本條ハ一讀了解別ニ解釋ヲ要セサルカ如シ然レトモ左ニ一言セン
 官吏トハ判事檢事ハ勿論巡查憲兵卒ヲモ包含ス
 公吏トハ執達吏公証人等ヲ云フ
 官吏公吏ノ作ルヘキ書類ニハ其所屬官署、公署ノ印ヲ用ユベシ之レ職務上作リタルモノナルヲ証センカ爲ナリ
 年月日ヲ記載スルハ當時官吏公吏タルニ相違ナク且ツ其月日ニ作リタルコトヲ証センカ爲ナリ
 場所ヲ記載スルハ職務ノ管轄地内ナルコトヲ証センカ爲ナリ
 每葉ニ契印スルハ枚數ノ確實ヲ保タンカ爲ナリ
 署名捺印スルハ自己ノ作リタルニ相違ナキコトヲ証センカ爲ナリ

官署公署ノ印ヲ用井ルコト能ハサルトキトハ官署公署以外ニ於テ作
リタルトキヲ云フ
立會人代署シ其事由ヲ記載スルハ書類ノ確實ヲ証センカ爲ナリ

第二十一條

官吏其他何人ニ限ラス訴訟ニ關スル書類ノ原本正本又ハ謄本ヲ作ル
ニ付キ文字ヲ改竄ス可カラス若シ挿入削除及ヒ欄外ノ記入アルトキ
ハ之ニ認印ス可シ文字ヲ削除スルトキハ之ヲ讀得ヘキ爲メ字體ヲ存
シ其數ヲ記載ス可シ此規定ニ背キタルトキハ其變更増減ノ效ナカル
可シ

○本條ハ一目了然別ニ解スヘキナシ

第二十二條

此法律ハ頒布前ニ係ル犯罪ニモ亦之ヲ適用ス

頒布以前ニ爲シタル訴訟手續當時ノ法律ニ背カサルトキハ其效アリ
トス

一 本條ノ要旨

○本條ハ時ニ付テノ效力ヲ定メタルモノナリ

二 頒布前ニ係ル犯罪ニモ亦之ヲ適用スル所以

○此法律ハ頒布前ニ係ル犯罪ニモ亦之ヲ適用スルコトヲ得ルモノナ
リ蓋シ新法ヲ以テ舊法ヲ改正スルハ舊法ノ不完不備ナルニヨルカ故
ニ新法ヲ以テ完備ノモノト看做サマルヘカラス然ラハ新法ヲ適用ス
ルハ社會ノ公益ニ合スルモノト云フヘシ
夫レ然リ然レトモ新法ト雖モ之ヲ既往ニ溯ラシムルコトヲ得サルモ
ノアリ何ソヤ既得權ヲ害スルモノ之レナリ故ニ刑法ノ如キハ既往ニ
溯ラシムルコトヲ得スト雖モ刑事訴訟法ハ然ラス蓋シ之ヲ頒布前ニ

溯ラシムルモ既得權ヲ害セサレハナリ

一人或ハ云ハン舊法ニ於テ時効ノ期限ヲ五年ト定メタルニ新法之ヲ十年ト改メタルトキノ如キハ被告人ノ權利ヲ侵害スルモノニアラスヤト然レトモ然ラス時効成就セサル間ハ只タ被告人ノ希望ノミニシテ既得權アルニアラサルナリ但シ被告人舊法ノ下ニ在テ時効成就シタルトキハ新法ヲ以テ之ヲ無ニ屬セシムルコトヲ得サルハ事理ノ當然ナリ

三 第二項ノ解

○頒布以前ニ爲シタル訴訟手續當時ノ法律ニ背カサルトキハ其效アルモノトス若シ夫レ然ラスシテ頒布以前ニ爲シタル訴訟手續皆無効ナリト爲サハ社會并ニ被告人ノ不利益之レヨリ大ナルハナカルヘシ例令ハ新法頒布以前ニテセル證人訊問檢証調書等凡テ無効ナリトセ

ハ再ヒ證據ヲ得ルコト能ハス爲ニ有罪ヲ不問ニ附シ無罪ヲ刑スルコトナキヲ保セス之レ豈社會并ニ被告人ノ不利益ニアラスヤ之レ本條第二項ノ設ケアル所以ナリ

第二十三條

此法律ハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ處分スヘキモノニ適用スルコトヲ得ス

本條ノ解

○本條ハ犯罪ニ付テノ效力ヲ定メタルモノナリ即チ此法律ハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ處分スベキモノニ適用スルコトヲ得サルモノトス蓋シ陸海軍ニ關スル法律ハ陸海軍ノ秩序ヲ維持センカ爲ニ定メタルモノニシテ一ノ特別法ナレハナリ

第二十四條

此法律ニ於テ親屬ト稱スルハ刑法第一百四條第一百五條ノ規定ニ從
フ

○本條ハ此法律ニ於テ親屬ト稱スルハ刑法第一百四條第一百五條ノ
規定ニ從フ旨ヲ定メタルモノナリ

第二篇 裁判所

第一章 裁判所ノ管轄

第二十五條

犯罪ノ種類ニ關スル裁判所ノ管轄ハ裁判所構成法ノ規定ニ從フ
管轄ヲ異ニスル數箇ノ犯罪ニ付キ同時ニ同一ノ被告人ニ對シ訴アリ
タルトキハ上級ノ裁判所併セテ之ヲ管轄ス

○犯罪ノ種類ニ關スル管轄トハ管ニ重罪輕罪、逆襲罪若クハ國事犯、非
國事犯等ノ種類ヲノミ云フニアラス犯罪ノ性質ニ因ル管轄、被告人ノ

身分ニ因ル管轄及ヒ審級ニ因ル管轄ヲモ包含スルモノナリ此事ハ裁
判所構成法第十六條第二十七條第三十七條及ヒ第五十條ニ明カナリ
就テ見ルヘシ

舊治罪法ニ於テハ裁判管轄ノコトヲ凡テ第二編中ニ規定セリ然ルニ
新法之ヲ裁判所構成法ニ讓リタルモノハ何ソヤ他ナシ刑事訴訟法ハ
訴訟手續ニ關スルコトヲ規定スルモノニシテ裁判所ノ權限ニノミ關
スル問題ハ寧ロ之ヲ裁判所構成法ニ規定スルヲ可トスルカ故ナリ

○管轄ヲ異ニスル數箇ノ犯罪ニ付キ同時ニ同一ノ被告人ニ對シ訴ア
リタルキトハ例令ハ同一ノ被告人ニ對シ同時ニ違警罪、輕罪、重罪ノ公
訴起リタルカ如キ場合ヲ云フ此場合ニ於テハ上級ノ裁判所併セテ之
ヲ管轄スルモノナリ即チ各別ニ各裁判所ニ於テ管轄スルトキハ不便
ニシテ且ツ時日ヲ浪費スルノ弊ノルニヨル

同等ノ裁判所ニ於テハ犯罪ノ地又ハ被告人所在ノ地ノ裁判所ヲ以テ豫審及ヒ公判ノ管轄ナリトス

○同等ノ裁判所ニ於テハ犯罪ノ地又ハ被告人所在ノ地ノ裁判所ヲ以テ豫審及ヒ公判ノ管轄トセリ其斯ク定メタルハ全ク便宜ト實益トニ基ク

犯罪ノ地トハ如何一裁判所ノ管轄地内ニ於テ犯罪ニ着手シ而シテ之ヲ遂ケタルトキハ何ノ疑モナシト雖モ甲裁判所管轄地内ニ於テ犯罪ニ着手シ乙裁判所管轄地内ニ於テ之ヲ遂ケタルトキ例令ハ甲地ヨリ乙地ニアル人ヲ銃殺シタル時ノ如キハ何レノ地ヲ以テ犯罪ノ地トナスヘキヤ二説アリ一ハ犯罪ノ所爲ヲ行フタル地ヲ犯罪ノ地ト云ヒ一ハ犯罪ノ結果ヲ生シタル地ヲ犯罪ト云フ前例ノ場合ニ於テ一説ニヨレハ甲乙共ニ犯罪ノ地タルヘク二説ニヨレハ乙地獨リ犯罪ノ地タル

ヘシ

本條單ニ犯罪ノ地トアルノミニシテ右二説中其何レヲ可トスルヤ明瞭ナラス故ニ余ハ犯罪ニ着手セシ地モ其結果ヲ生セシ地モ共ニ本條犯罪ノ地ト云ハント欲スルナリ

第二十七條

數箇ノ裁判所ノ管轄ナル場合ニ於テハ其中ニテ最初豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

○數箇ノ裁判所ノ管轄ナル場合ニ於テハ其中ニテ最モ始メニ豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所ヲ以テ其管轄トスルナリ

前條ニヨレハ一犯罪事件ニ二箇ノ管轄アリ一ハ犯罪ノ地ニシテ一ハ被告人住所ノ地ナリ今犯罪ノ地ノ裁判所ニ於テ豫審又ハ公判ニ着手シ後ニ被告人住所ノ地ノ裁判所之ヲ知ラスレテ豫審又ハ公判ニ着手

シタリトセシカ此場合ニ於テ何レカ正當ノ管轄權アルヤヲ定メサルヘカラス之レ本條ノ設ケアル所以ニシテ即チ始メニ豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

第二十八條

從犯ハ正犯ヲ管轄スル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス
數箇ノ裁判所ノ管轄ニ屬スル正犯數名アルトキハ其中ニテ最初豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス
裁判所構成法第五十條第二號ニ記載シタル皇族ノ犯罪ニ於テハ其正犯從犯ハ身分ノ如何ヲ問ハス大審院ニ於テ之ヲ管轄ス
○從犯ハ正犯ヲ管轄スル裁判所ヲ以テ其管轄トスルナリ
正犯從犯ノコトハ刑法第四百四條以下及ヒ第四百九條以下ニ明カナリ尙ホ詳細ノコトハ本書下卷附録刑法撮要ニ就テ見ルヘシ

從犯ハ正犯ヲ管轄スル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトスルハ何ソヤ他ナシ正犯從犯各々其管轄ヲ同フスルトキハ犯罪ノ連脈ヲ詳悉スルニ容易ナルカ故ニ事實ヲ發見スルコト又難カラス之レ其管轄ヲ一ニスル所以ナリ而シテ從犯ハ正犯アリテ始メテ有ル所ノ犯罪ナルカ故ニ其管轄ヲ一ニセシニハ正犯ヲ管轄スル裁判所ニ於テ從犯ヲ管轄スルヲ至當トス

○殺人罪ヲ教唆シタル者甲地ニ在リ其教唆ヲ受ケテ之ヲ實行シタル者乙地ニ在リ而シテ犯罪ヲ行ヒタル場所ハ丙地ナリトス如斯場合ニ於テ此事件ノ管轄權ヲ有スル裁判所三アリ此裁判所中何レカ正當ノ管轄權アルヤヲ定メサルヘカラス然ラサレハ三裁判所各々判決ヲ與ヘ各々有効ナルヘキノ奇觀ヲ生セン之レ本條第二項ノ規定アル所以ナリ即チ數箇ノ裁判所ノ管轄ニ屬スル正犯數名アルハ其中ニテ最

初豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所ヲ以テ其管轄トスルモノトス
 ○裁判所構成法第五十條第二號ニ記載シタル皇族ノ犯罪ニ於テハ其
 正犯從犯ハ身分ノ如何ヲ問ハス大審院ニ於テ之ヲ管轄スルモノナリ
 故ニ正犯平民ニシテ皇族從犯ナルトキト雖モ大審院ノ管轄ナリトス
 蓋シ普通民ト皇族トハ其身分ニ大差アルニヨル

第二十九條

外國ニ在リテ犯シタル罪本邦ノ法律ニ依リ處斷スヘキモノニシテ内
 地ニ於テ被告人ヲ逮捕シタルトキハ逮捕ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄
 ナリトス又外國ヨリ送致シタルトキハ送致ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管
 轄ナリトス
 關席判決ヲナスヘキ場合ニ於テハ被告人最後ノ地ノ裁判所ヲ以テ其
 管轄ナリトス

○外國ニ在リテ犯シタル罪ハ犯罪地外國ナルカ故ニ犯罪ノ地ヲ以テ
 裁判所ノ管轄トスルコトヲ得ス故ニ逮捕シタル地送致シタル地若ク
 ハ最後ニ住居セシ地ヲ以テ裁判管轄トスルナリ
 外國ニ於テ日本ノ法律ニ違背シタルモノハ皆ナ之ヲ罰スヘキヤ曰ク
 然ラス其罰スヘキモノト罰スヘカラサルトノ二アリ然レトモ現時ノ
 刑法之ヲ明定セサルカ故ニ目下ハ凡テ之ヲ罰スヘキモノト解セサル
 ヘカラス何トナレハ法律ニ明記セサル限リハ日本人縱令外國ニアル
 モ日本法律ノ支配ヲ受クヘキモノナレハナリ但シ學理上外國ニ於テ
 ノ犯罪ハ本國法律ヲ以テ罰スヘキモノト然ラサルモノトノ二アルカ
 故ニ不日公布セラレヘキ改正刑法中ニ此規定アルヘキヲ信ス

第三十條

海船内ノ犯罪ニ付テハ定繫港又ハ犯罪後最初ニ着船シタル地ノ裁判

所ヲ以テ其管轄ナリトス

○海峽内ノ犯罪ニ付テハ定繫港又ハ犯罪後最初ニ着船シタル地ノ裁判所ヲ以テ其管轄トスルナリ故ニ神戸ヨリ函館ニ航行スル船舶内ニ犯罪者アリテ而シテ其船舶横濱ニ立寄りタルトキノ如キハ横濱ヲ管轄スル裁判所ニ於テ管轄スルモノトス

第三十一條

管轄裁判所ノ指定ニ付キ申請ヲ爲ス場合及ヒ其決定ヲ爲ス裁判所ハ裁判所構成法第十條ノ規定ニ從フ

○管轄裁判所ノ指定申請ハ數箇ノ裁判所ニ關係ヲ有スル犯罪ニシテ而シテ孰レノ裁判所ノ管轄ニ屬スヘキヤ明カナラサル場合ニ於テ訴訟關係人ヨリ之ヲ爲スモノナリ

指定ノ申請ヲ爲ス場合及ヒ其申請ヲ受ケテ決定ヲ爲ス裁判所ハ裁判

所構成法第十條ノ規定ニ從フヘキモノナリ裁判所構成法第十條ニ曰ク法律ヲ以テ特定シタルモノヲ除ク外適當ノ申請アルトキノ關係アル各裁判所ヲ併セテ之ヲ管轄スル直近上級ノ裁判所ハ何レノ裁判所ニ於テ本件ヲ裁判スルノ權アルヤヲ裁判スト故ニ數箇ノ地方裁判所ニ關係アルトキノ如キハ其各地方裁判所ヲ管轄スル控訴院ニ於テ申請ヲ決定スヘキナリ

第三十二條

管轄裁判所ノ指定ニ付テノ申請ハ檢事其他訴訟關係人ヨリ之ヲ爲スコトヲ得

大審院ニ於テ管轄裁判所ヲ指定スヘキ場合ニ於テハ檢事總長ハ司法大臣ノ命ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其申請ヲ爲スコトヲ得

○本條ハ管轄裁判所指定申請ノ權ヲ有スル者ノ何人ナルヤヲ定メタ

ルモノナリ

第三十三條

管轄裁判所ノ指定ニ付キ申請ヲ爲サントスル者ハ申請ニ付キ管轄權ヲ有スル裁判所ニ其趣意書ヲ差出スヘシ

裁判所ハ書類ニ依リ其申請ヲ決定スヘシ

○裁判所ハ管轄裁判所ノ指定ニ付キ申請ヲ爲ス者ヨリ差出シタル趣意書ニヨリテ之ヲ決定スヘキモノトス其口頭辯論ヲナサ、ル所以ハ只何レノ裁判所ノ管轄ナルヤヲ決定スルモノナルカ故ニ事簡單ニシテ別ニ口頭辯論ヲナスノ要ナケレハナリ

第三十四條

犯罪ノ性質被告人ノ身分員數地方ノ民心其他重大ノ事情ニ由リ裁判所ニ對シ紛擾又ハ危險ヲ生スル恐アルトキハ公安ノ爲メ其事件ヲ同

等ナル他ノ裁判所ニ移スコトヲ得

○本條ハ公安ヲ維持スルカ爲ニ其事件ヲ同等ノ他ノ裁判所ニ移スコトヲ得ル旨ヲ定メタルモノナリ其場合五アリ左ニ掲載スヘシ

○犯罪ノ性質ニヨリ裁判ニ對シ紛擾又ハ危險ヲ生スルノ恐レアルトキハ公安維持ノ爲ニ之ヲ他ノ同等ナル裁判所ニ移スコトヲ得ヘシ而シテ犯罪ノ性質トハ國事犯又ハ兇徒嘯集ノ如キ犯罪ヲ審判スル場合ヲ云フ如斯場合ニ於テハ同志者合同シテ被告人ヲ強奪シ或ハ裁判執行ヲ妨ケントスルコトナキヲ保セス之レ公安維持ノ手段ヲ要スル所以ナリ

○被告人其土地ニ聲望アリテ爲ニ處刑セラレ、ナ聞ク者紛擾又ハ危險ノ行爲アルノ恐レアルトキノ如キハ公安維持ノ爲ニ他ノ裁判所ニ移スヘキナリ

○被告人ノ員數夥多ナルトキハ又紛擾危険ナキヲ保セス之レ此規定アル所以

○被告人審判ニ際シ或ハ之ヲ輕減セシメントシ或ハ之ヲ加重セシメントシ物情恟然タル場合ニ於テハ又公安維持ノ手段ナカルヘカラス之レ此ノ規定アル所以

○其他重大ナル事情トハ被告人ノ黨類各所ニ出沒シテ不穩ナル模様アル場合ノ如キヲ謂フ

第三十五條

公安ノ爲メ裁判管轄ヲ移ス申請ハ司法大臣ノ命ニ因リ大審院檢事總長ヨリ其院ニ之ヲ爲ス可シ

大審院ニ於テハ訴訟關係人ノ申立ヲ聽クコトナク其申請ヲ決定スヘシ

○本條ハ公安ノ爲メ裁判管轄ヲ移ス申請ハ何人ヨリ之ヲ爲スモノナリヤヲ定メタルモノナリ

司法大臣之ヲ命スルハ重大ナル推定ナルカ故ニシテ檢事總長之ヲ爲スハ社會ノ公益ノ爲ニスルモノナルカ故ニ社會ノ代人之レヲ爲スハ當然ナレハナリ

訴訟關係人ノ申立ヲ聞クコトナクシテ其申請ヲ決定スルハ訴訟關係人ノ權利消長ニ關係ヲ有スルモノニアラサルニヨル

第三十六條

被告人ノ身分地方ノ民心又ハ訴訟ノ模様ニ因リ裁判ノ公平ヲ維持スルコト能ハサル恐アルトキハ嫌疑ノ爲メ其事件ヲ同等ナル他ノ裁判所ニ移スコトヲ得

○本條ハ裁判ノ公平ヲ維持センカ爲ニ定メタルモノナリ即チ公安ヲ

害スルノ恐レナキモ而モ裁判ノ公平ヲ維持スル能ハサルノ恐レアルトキニ本條ノ適用ヲ見ルモノナリ

被告人其地方ノ名望ヲ得ルモノナルカ又ハ民心最モ之ヲ惡ムカ又ハ裁判官檢察官等ト親密ノ關係ヲ有スルカ兎ニ角其裁判ノ公平ヲ維持シ裁判官ノ獨立心ヲ堅固ナラシムル能ハサルコト絶テナキヲ保セス故ニ本條ヲ設ケテ嫌疑ノ爲ニ其事件ヲ同等ナル他ノ裁判所ニ移スヲ許シタリ

第三十七條

嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移ス申請ハ管轄裁判所ノ檢察其他訴訟關係人ヨリ上級裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得

民事原告人嫌疑アル裁判所ニ私訴ヲ爲シ又被告人其裁判所ニ於テ異議ノ申立ナクシテ本案ニ付キ辨論ヲ爲シタルトキハ前項ノ申請ヲ爲

スコトヲ得ス

○公安ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ申請ハ檢察總長ニアラサレハ之ヲ爲スコトヲ得サルモ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ申請ハ管轄裁判所ノ檢察其他訴訟關係人ヨリ之ヲ爲スコトヲ得ルハ何ソヤ他ナシ彼レハ公安維持ノ爲ニシテ訴訟關係人ニ利害ノ關係ヲ有セサルモ此レハ公平維持ノ爲ニシテ訴訟關係人ニ大ナル利害ノ關係ヲ有スレハナリ

然レトモ民事原告人嫌疑アル裁判所ニ私訴ヲ爲シ又被告人其裁判所ニ於テ異議ノ申立ナクシテ本案ニ付キ辨論ヲ爲シタルトキハ裁判管轄ヲ移スノ申請ヲ爲スコトヲ得サルモノトス蓋シ此場合ニ於テハ其裁判所ノ裁判ヲ受クルヲ承認シタルモノト推定セサルヘガラサレハナリ然ラサレハ審判自己ニ不利益ノ傾アル毎ニ本條ノ申請ヲナシ徒ラニ時日ヲ費消シ裁判ノ進行ヲ妨クルニ至ルヘシ

第三十八條

嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移ス申請ヲ爲スニハ其趣意書二通ヲ原裁判所ニ差出ス可シ裁判所書記ハ速ニ一通ヲ相手方ニ送達シ相手方ハ其送達アリタル日ヨリ三日内ニ答辨書ヲ差出スコトヲ得

裁判所ニ於テ前項ノ申請ヲ受ケタルトキハ其訴訟手續ヲ停止スヘシ
○本條ハ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移ス申請ヲ爲スノ手續ヲ定メタルモノナリ

三日内ニ答辨書ヲ差出スコトヲ得トアリテ必スシモ答辨書ヲ差出スヘント命セサル所以ハ相手人ハ申請人ノ申請ニ對シテ異議アルトキハ答辨書ヲ差出スヘキモ然ラサルトキハ之ヲ差出スノ要ナキカ故ナリ

第三十九條

前項ノ申請ニ付キ管轄權ヲ有スル裁判所ニ於テハ書類ニ依リ其申請ヲ決定スヘシ

第二章 裁判所職員ノ除斥及ビ忌避、回避

第四十條

判事ハ左ノ場合ニ於テ法律ニ因リ其職務ノ執行ヨリ除斥セラル可シ

第一 判事被害者ナルトキ

第二 判事又ハ其配偶者ト被告人被害者又ハ是等ノ者ノ配偶者ト

親屬ナルレ但姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタルトキト雖モ亦同シ

第三 判事其事件ニ付キ証人鑑定人ト爲リタルトキ又ハ被告人若

クハ被害者ノ法律上代理人ナルトキ

第四 判事其事件ノ豫審終結ニ干與シ又ハ不服ヲ申立テラレタル

裁判ノ前審ニ干與シタルトキ

裁判所職員ノ除斥及ビ忌避、回避

○本條ハ判事法律ニヨリ其職務ノ執行ヨリ除斥セラル、場合ヲ定メタルモノナリ

本條第一ヨリ第四マテニ記載シタル項中其一ニ居ル判事ハ即チ除斥セラル、モノトス其斯ク定メタル所以ハ私利若クハ私情ノ爲ニ裁判ノ公平ヲ失スルコトアラシク恐レテナリ

判事其事件ノ豫審終結ニ干與シタルトハ先キニ豫審ニ干與シタル判事が轉シテ公判ヤ事トナリタル場合ヲ云ヒ不服ヲ申立テラレタル裁判ノ前審ニ干與シタルトキトハ例令ハ第一審ノ判決ニ干與シタル判事カ第二審ノ判決ヲ與フル裁判所ニ轉任シタルトキニ於テ被告人第一審ノ判決ニ服セス第二審ノ判決ヲ求メタル場合ノ如キチ云フ

第四十一條

判事法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラル、場合及ヒ偏頗ナル裁判

ヲ爲スコトヲ疑フニ足ル可キ情況アル場合ニ於テハ檢事其他訴訟關係人ヨリ之ヲ忌避スルコトヲ得

○忌避トハ裁判ニ干與スルヲ拒絕スルヲ云フ而シテ除斥ト異ナル点ニアリ一ハ除斥ハ法律ニ依ルモノニシテ忌避ハ申請ニ基クモノナルト一ハ除斥ハ前條ニ列記シタル四箇ノ原因アルトキニ限ルモ忌避ハ右ノ外偏頗ナル裁判ヲ爲スコトヲ疑フニ足ル可キ情況アル場合ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得ルトノ点之レナリ但シ裁判ニ干與セシメサル点ニ至テハ二者同一ナリトス

偏頗ナル裁判ヲ爲スコトヲ疑フニ足ル可キ情況アル場合トハ例令ハ被告人又ハ被害者又ハ之等ノ者ノ親屬ト最モ親密ノ關係アル時同居人ノ被告トナリタル場合等ヲ云フモノナレトモモト事實ノ問題ニ過キサレカ故ニコ、ニ一定ノ文例ヲ示スコト能ハズ

第四十二條

忌避ノ申請及ヒ其裁判ニ付テハ民事訴訟法第三十四條乃至第三十八條ノ規定ニ從フ

第四十三條

忌避ノ申請アリタルトキハ公判ニ付テハ其辨論ヲ中止ス可シ豫審ニ付テハ仍ホ其處分ヲ繼續ス可シ但急速ヲ要セサル事件ニ付テハ豫審手續ヲ中止スルコト得

○本條ニ公判ニ付テハ其辨論ヲ中止スヘシトアリ故ニ事實ノ審問ハ中止スル限ニアラサルモノトス豫審ニ付テハ其處分ヲ繼續スヘントアリ之レ證據湮滅ノ恐れアルカ故ナリ

第四十四條

判事自ラ第四十條ニ定メタル原因アルコトヲ認メ又ハ回避スヘキモ

ノト恩料シタルトキハ忌避申請ノ管轄裁判所ニ回避ノ申立ヲ爲スヘシ

其裁判所ニ於テハ回避ノ申立ヲ裁判スヘシ

○忌避ト回避トノ差異ハ判事自ラ其事件ニ干與スヘカラサルモノト認ムルト訴訟關係人ノ申請ニ基クトノ點ニ在リ

回避スヘキモノト恩料シタルトキトハ法律ニ依ル除斥ノ原因ノ外ニ於テ偏頗ナル裁判ヲ爲スモノト疑ハル、ノ恐れアルトキヲ云フ

第四十五條

本章ノ規定ハ裁判所書記ニモ之ヲ準用ス但其裁判ハ書記所屬ノ裁判所之ヲ爲ス可シ

第三篇 犯罪ノ捜査起訴及ヒ豫審

第一章 捜査

第四十六條

檢事ハ後ニ記載シタル告訴告發現行犯其他ノ原由ニ因リ犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタルトキハ其證憑及ヒ犯人ヲ捜査ス可シ

○捜査トハ公訴ヲ起スニ付テ必要ナル証憑ヲ蒐集スル手續ヲ云フ而シテ捜査ノ原由ハ犯罪ナルカ故ニ捜査權ハ犯罪ニ先ツテ發生スルモノニアラス又後レテ發生スルモノニアラス犯罪ト同時ニ發生スルモノナリ但シ之ヲ行フニハ犯罪アルコトヲ知ラサルヲ得サルカ故ニ發生ハ犯罪ト同時ナリト雖モ之ヲ行フハ犯罪アリト思料シタル時ニアリス

○檢事ハ捜査ヲ行フヲ以テ其職務トスレトモ濫リニ之ヲ行フヘキモノニアラス必スヤ其原因ナカルヘカラス本條ニ曰ク告訴告發現行犯

其他ノ原由ニ因リ云々ト故ニ告訴告發現行犯又ハ自首新聞紙ノ雜報世間ノ風評等荷モ犯罪アリト思料スルヲ得ヘキトキハ必ス捜査スヘキモノトス然レトモ告訴告發アリト雖モ必スシモ捜査セサルヘカラスアルモノニアラス即チ告訴告發ノ惡意ニ出テタルヲ知リタルトキノ如キ然リ之レ本條ニ犯罪アルヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタルトキトアル所以ナリ

○認知ト思料トノ別ハ只々推測ノ厚薄如何ニアリ告訴告發現行犯ノ場合ノ如キハ多クハ認知ト云フニ當ルヘク世間ノ風評ニヨリテ犯罪アルヘシトノ感想ヲ懷クルノ如キハ多クハ思料ト云フニ當ルヘシ

第四十七條

警視總監及ヒ地方長官ハ各共管轄地内ニ於テ司法警察官トシテ犯罪ヲ捜査スルニ付キ地方裁判所檢事ト同一ノ權ヲ有ス但東京府知事ハ

此限ニ在ラス

左ニ記載シタル官吏、公吏ハ檢事ノ補佐トシテ其指揮ヲ受ケ司法警察官トシテ犯罪ヲ捜査ス可シ

第一 警視、警部長、警部、警部補

第二 憲兵將校、下士

第三 島司

第四 郡長

第五 林務官

第六 市町村長

○本條ハ司法警察官トシテ犯罪ノ捜査ヲナスヘキモノヲ列舉シタルモノナリ

警視總監及ヒ地方長官ハ各其管轄地内ニ於テ犯罪ヲ捜査スルコトヲ得

ヘク而シテ此場合ニ於テハ地方裁判所檢事ト同一ノ權ヲ有スルモノナリ然レトモ東京府ハ警視總監ノ管内ナルカ故ニ東京府知事ニ限リ此權ナキモノトス

警視總監及ヒ地方長官ニ犯罪捜査ニ付テハ地方裁判所檢事ト同一ノ權アルモノト定メタル所以ハ獨リ檢事ニノミ一任スルトキハ重大ナル犯罪例ヘハ國事犯又ハ兇徒嘯集ノ場合ニ於テ之ヲ鎮定スルコト難ク且ツ證據ノ湮滅ヲ來スノ恐レアレハナリ實ニ警視總監又ハ地方長官ハ管内ノ治安ヲ維持スルノ責任アルモノニシテ又警視警部以下ヲ指揮スルノ權アルモノナリ然ルニ若シ其管内ニ發生セル犯罪事件ニ付キ之ヲ捜査スルノ權ナキモノトセバ何ヲ以テカ治安ヲ保維スルラエンヤ犯罪捜査ニ付テ警視警部ヲ指揮スルヲエストセハ何ヲ以テカ治安ヲ保維スルヲエンヤ即チ本條ノ定メアル所以トス

本條一ヨリ六マテニ記載シタル官吏公吏ハ司法警察官トシテ犯罪ヲ
 捜査スヘク其捜査ニ付テハ檢事ノ指揮ヲ受クヘキモノトス
 島司林務官及ヒ市町村長ノ司法警察官トシテ犯罪ヲ捜査スヘキモノ
 ト定メタルハ島司及ヒ市町村長ハ其管内ノ治安ヲ維持スルモノニシ
 テ林務官ハ官林ヲ監視スルモノナレハナリ

第四十八條

海艇内ノ犯罪ニ付テハ船長ニ於テ司法警察ノ職務ヲ行フ可シ
 ○海艇内ノ犯罪ニ付テハ即チ其犯罪ノ場所船中ナルカ故ニ檢事其他
 ノ司法警察官直ニ捜査權ヲ實行スルコト能ハス果シテ然ラハ證據湮
 滅ノ患ナシトヒンヤ且ツ夫レ艇中ノ秩序ヲ保持スルコト能ハスシテ良
 民爲ニ安心立命スルコト能ハス之レ本條ノ設ケアル所以ナリ

第一節 告訴及び告發

第四十九條

何人ニ限ラス犯罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ犯罪ノ地若クハ被告人
 所在ノ地ノ檢事又ハ司法警察官ニ告訴スルコトヲ得
 司法警察官告訴ヲ受ケタルトキハ違警罪ニ付キ即決ヲ爲ス場合ヲ除
 ク外速ニ其書類ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送致ス可シ
 ○告訴トハ犯罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ヨリ官ニ之ヲ申告スルヲ云
 フ而シテ苟クモ犯罪ニ因リ損害ヲ受ケタル以上ハ其受働者ノ幼者ト
 ルト否ト婦人タルト否ト本邦人タルト否ト又犯罪者ヲ知ルト否トヲ
 問ハス告訴スルコトヲ得ルモノナリ而シテ告訴ハ犯罪ノ地若クハ被
 告人所在ノ地ノ檢事又ハ司法警察官ニナスヘキモノトス其犯罪ノ地
 若クハ被告人所在ノ地ト定メタル所以ハ第二十六條ニ明定スルカ如
 ク此等ノ地ノ裁判所ハ即チ豫審公判ノ管轄ナレハナリ又檢事又ハ司

法警察官ニ告訴スヘキモノトセルハ檢事又ハ司法警察官ハ犯罪ノ搜查ヲ行フモノナレハナリ
 犯罪ノ受働者ハ必スシモ告訴スル義務アルモノニアラスシテ之ヲナスト否トハ其權内ニ在リ之レ本條ニ告訴スルヲ得ト定メタル所以
 司法警察官告訴ヲ受ケタルトキハ違警罪ニ付キ即決ヲ爲ス場合ヲ除ク外速ニ其書類ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送致スヘキモノナリ之レ司法警察官ニ自ラ公訴ヲ起スノ權ナキニヨル

第五十條

告訴人ハ成ル可ク其證據及ヒ事實參考ト爲ル可キコトヲ申立ツ可シ
 ○告訴人ハ成ルベキ丈其證據及ヒ事實參考ト爲ル可キコトヲ申立ツヘキナリ然ラサレハ搜查權ヲ行フニ付テ困難ナルカ故ナリ

第五十一條

告訴ハ告訴人ノ署名捺印シタル書面ヲ以テ之ヲ爲ス可シ
 又告訴ハ口述ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得其告訴ヲ受ケタル官吏ハ調書ヲ作り告訴人ニ之ヲ讀聞カセ共ニ署名捺印ス可シ若シ告訴人署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記スヘシ
 ○書面ヲ以テスル場合ト口述ヲ以テスル場合トヲ問ハス署名捺印スヘキモノト定メタルハ若シ署名捺印セサルトキハ果シテ何人ノ告訴ニ出ルヤヲ証明スルコト能ハス從テ第十三條ニヨリ損害ノ償ヲ負擔スルモノ、果シテ何人ナルヤヲ知ルコト能ハサレハナリ然レトモ文字ヲ知ラサルカ爲ニ署名スルコト能ハサルモノナキニアラス又兩手共ニ使用スルコト能ハサルモノナキニアラス若シ夫レ署名捺印スルコト能ハサルモノハ告訴スルヲ得ストセハ權利ヲ實行スルコト能ハスレテ又社會ノ公益ヲ害スルニ至ラン之レ本條署名捺印スルコト能ハサルト

キハ其旨ヲ附記スヘシト定メテ敢テ告訴ヲ無效トセサル所以ナリ

第五十二條

官吏公吏其職務ヲ行フニ因リ犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト
思料シタルトキハ速ニ其職務ヲ行フ地ノ檢事ニ告發ス可シ

告發ハ官吏公吏ノ署名捺印シタル書面ヲ以テ之ヲ爲シ成ル可ク証憑
及ヒ其事實參考ト爲ル可キ事物ヲ添フ可シ

○告發トハ犯罪ノ受働者ニアラサルモノヨリ犯罪アルコトヲ官ニ申
告スルヲ云フモノニシテ私ノ告發ト公ノ告發トノ二アリ私ノ告發ト
ハ一私人ヨリスルモノヲ云ヒ公ノ告發トハ官吏若クハ公吏其職務上
ヨリスルモノヲ云フ本條ハ即チ公ノ告發ヲ定メタルモノニシテ私ノ
告發ハ之ヲ次條ニ定メタリ

官吏公吏其職務ヲ行フニ因リ犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト

思料シタルトキハ警察官吏其職務ヲ行フニ當リ犯罪アルコトヲ知り
タルトキ又ハ林務官カ官林巡閱ノ際ニ盜伐人アルコトヲ知りタルト
キノ如キヲ云フ

職務ヲ行フニ因リ云々トアルカ故ニ左ノ場合ニ於テハ本條指定以外
ナリトス

現ニ職務ヲ行フニアラサル時

例令ハ警察官非番當日ニシテ職務ヲ行フニアラサル時犯罪アルコトヲ
認知シタルカ如キ林務官カ官林ヲ巡閱スルニアラサル時犯罪アルコ
トヲ認知シタル如キハ本條ノ指定以外ナリトス何トナレハ警察官又ハ
林務官ト雖モ職務ヲ行ハサル時ニ於テハ一私人ト毫モ異ナル所ナケ
レハナリ

然ラハ職務ヲ行フトキニ自己ノ職務權限外ノ件ニ付犯罪アルコトヲ認

知シタルトキハ如何例令ハ林務官カ酒造稅規則ニ違犯シタルモノアルヲ知リ收稅官カ官林盜伐人アルヲ知リタルトキノ如キハ本條ニ所謂職務ヲ行フニ因リ犯罪アルヲ認知シタルトキト云フ得ヘキヤ曰ク否縱令職務ヲ行ヒツ、アル間ニ犯罪アルコトヲ知ルト雖モ自己ノ職權以外ノ事件ナルトキハ其事件ニ對シテハ官吏又ハ公吏タルノ資格アルニアラスンテ一私人ト同一ナルカ故ニ本條告發ノ義務アルモノニアラス

本條必スシモ告發スヘント定メタル所以如何曰ク職務上其責任アルカ故ナリ今夫レ警察官ハ治安維持ノ責任アルモノナリ林務官ハ官林監督ノ責任アルモノナリ而モ之カ犯罪者ヲ不問ニ附センカ豈其職務ヲ全フスルモノト云フベケンヤ之レ本條告發ノ義務ヲ負ハシメタル所以ニシテ憲兵將校下士島司郡長市町村長等ニ對スルノ理由皆同シ

又官吏公吏ノ告發ハ書面ヲ以テスヘント定メタルモノハ通常ノ文字ヲ知ラサルニアラサレハナリ

第五十二條

何人ニ限ラス犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタルトキハ第五十條第五十一條ノ規定ニ從ヒ其所在ノ地若クハ犯罪ノ地ノ檢事又ハ司法警察官ニ告發スルコトヲ得

告發ヲ受ケタル司法警察官ハ第四十九條ノ規定ニ從ヒ其處分ヲ爲ス可シ

○本條ハ公ノ告發ニ對スル私ノ告發即チ一私人ヨリスル告發ヲ定メタルモノナリ

他人ノ惡事ヲ摘發スルハ倫理上咎ムヘキコトニアラサルカ淺見ヲ以テスレハ然ルカ如シト雖モ然ラス即チ他人ノ惡事ヲ摘發シ罪アルモ

ノ必ス刑ヲ受クルニ至ラシムルハ社會ノ治安ヲ維持スルニ付テ必要ナレハナリ之レ本條ニ於テ何人ト雖モ告發スルコトヲ得ル旨ヲ定メタル所以ナリ

第五十四條

告訴告發ハ代人ニ委任シテ之ヲ爲スコトヲ得但第五十二條ノ場合ハ此限ニ在ラス

無能力者ノ告訴ハ法律上代理人之ヲ爲スモ其效アリトス

○本條ハ第五十二條ノ場合ノ外ハ告訴告發ハ代人ニ委任シテ之ヲ爲スコトヲ得ル旨ヲ定メタルモノナリ

代人ニ委任シテ之ヲ爲スコトヲ得ト定メタル所以ハ本人自ラスルモ代人ニ委任スルモ官ニ申告スルノ点ニ付テハ同一ナルカ故ニ代人ナシテ之ヲナサシムルモ何ノ妨ケナケレハナリ且ツ夫レ代人ニ委任シ

テ之ヲ爲スコトヲ得ストセハ加害者ノ爲ニ重傷ヲ受ケ自ラ官署ニ申告スル能ハサルトキノ如キ遂ニ告訴スル能ハズレテ止ムトナキニアラス即チ代人ニ委任シテ爲サシムルヲ許シタル所以トス
無能者即チ未丁年者禁治者等ノ如キハ法律上自ラ告訴ヲ爲スコトヲ得サルカ故ニ本條第二項ニ於テ法律上ノ代理人之ヲ爲スモ其效アリト定メタリ

第五十五條

告訴告發ハ其取下ヲ爲シ又ハ其申立ヲ變更スルコトヲ得此場合ト雖モ第十三條ノ規定ニ從ヒ被告人ヨリ要償ノ訴ヲ受クルコトアル可シ
○告訴告發ハ其取下ヲ爲シ又ハ其申立ヲ變更スルコトヲ得ルモノナリ其カク定メタル所以ハ犯罪アリト思ヒシモ全ク錯誤ニ出ツルコトナキヲ保セス又一旦訴フルモ和解スルコトナキニアラス又既ニ申立

タル事實中後ニ其誤リアルヲ發見スルコトナキニアラサレハナリ然レトモ取下又ハ變更ニ付テ第十三條ノ定ムル所ニヨリ要償ノ訴ヲ受クルコトアルヘシ即チ惡意若クハ重過失ニヨリ過實ノ申立ヲ爲シ爲ニ被告人ニ損害ヲ加ヘタルトキノ如キハ賠償ノ責アルモノトス

第二節 現行犯

第五十六條

現行犯罪トハ現ニ行ヒ又ハ現ニ行ヒ終リタル際ニ發覺シタル罪ヲ謂フ

○本條ハ現行犯ノ定義ヲ定メタルモノナリ

現行犯ニ對スルモノヲ非現行犯ト云フ此二者ノ區別ハ犯罪ノ性質ニ基クニアラス又種類ニ基クニアラス只犯罪發覺ノ時期如何ニ依リテ異ナリ即チ犯罪ノ當時ニ發覺スルモノハ現行犯ニシテ犯罪成立後幾

多ノ時間ヲ經過シテ發覺スルモノハ非現行犯ナリ

前陳ノ如クナルカ故ニ如何ナル犯罪ト雖モ一度ヒハ現行犯ニシテ一度ヒハ非現行犯ナリ他語以テ之ヲ云ヘハ犯罪ヲ爲スノ當時ハ現行犯ニシテ之ヲ過クレハ非現行犯ナリ如斯其犯罪ノ性質上何等ノ異ナル所アルニアラス而モ之ヲ區別スル所以ノモノハ何ツヤ他ナシ治罪ノ手續上大ニ異ナルモノアルカ故ナリ即チ通常許サマルコニテモ現行犯ノ場合ニ於テハ之ヲ許スコトアリ其詳細ハ條ヲ逐フテ之ヲ知ルベシ但現行犯ト非現行犯トハ手續上異ナルノミナラス犯罪成立ノ如何ニ關スルモノアリ彼ノ賭博犯ノ如キハ現行犯ニアラサレハ之ヲ罰セサルモノトス

本條現ニ行ヒトハ犯罪ニ着手シ未タ實行ヲ終ラサルマテノ間ヲ云ヒ現ニ行ヒ終リタル際トハ犯罪ノ實行ヲ終リタル當時ヲ云フ例令ハ現

ニ人ヲ毆打シテ、アルキニ發覺シタルモノハ本條ノ所謂現ニ行ヒト云フニ當リ既ニ毆打シ終リテ將ニ逃走セントスルトキニ發覺シタルモノハ現ニ行ヒ終リタル際ト云フニ當ルナリ

發覺トハ何人ニ發覺スルヲ云フモノナルヤ本條之ヲ明定セス然レモ理論上敢テ司法警察官又ハ檢事ニ發覺スルトキノミニ限ルニアラス何人ニテモ其處分ヲ爲サントスル人ノ目撃シタルキヲ云フモノナリ

第五十七條

重罪、輕罪ニ付キ左ノ場合ハ現行犯ニ准ス

- 第一 犯人トシテ一人又ハ數人ニ追呼セラレタルトキ
- 第二 兇器、贓物其他ノ物件ヲ携帯シ又ハ身體、被服ニ顯著ナル犯罪ノ痕跡アリテ犯人ト思料スヘキトキ
- 第三 家宅内ニ於テ犯シタル罪ヲ檢證スル爲メ又ハ其犯人ト思料

ス可キ者ヲ逮捕スル爲メ戸主ヨリ官吏ニ其處分ヲ求メタルトキ

○本條ハ重罪、輕罪ニ付キ現行犯ニ准スヘキモノヲ定メタリ

本條第一ヨリ第三マテノモノハ現ニ行ヒ又現ニ行ヒ終リタル際ニアラサルカ故ニ現行犯ト云フヲエスト雖モ然レトモ充分犯人ト思料スルニ足ルヘキ事情アルモノナルカ故ニ現行犯ニ准スルコト、セリ

第一ヨリ第三マテ法文明瞭別ニ解釋ヲ要セスト雖モ只一ノ注意スヘキモノナリ戸主ノ二字即チ之レナリ本條第三ニ所謂戸主トハ一家ノ主人トノミ解スヘカラス之ヲ廣義ニ解シテ戸主ニ代ルヘキ者又ハ一家内ニ住居スル雇人ノ如キモノヲ包含スルコトアルベシトスヘシ例令ハ強盜ノ爲ニ家族悉ク縛セラレ雇人獨リ逃レテ官吏ニ救助ヲ請フカ如キコト世間絶テ之レナキニアラサレハナリ

第五十八條

司法警察官及ヒ巡查憲兵卒其職務ヲ行フニ當リ重罪又ハ禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタルトキハ令狀ヲ待タスシテ被告人ヲ逮捕ス可シ

罰金ノ刑ニ該ル可キ輕罪又ハ違警罪ノ現行犯アルコトヲ知リタルトキハ被告人ノ氏名住所ヲ問ヒ輕罪ニ付テハ檢事違警罪ニ付テハ即決ヲ爲ス可キ官署ニ告發ス可シ其氏名住所分明ナラス又ハ逃亡ノ恐アル者ハ檢事若クハ官署ニ引致スルコトヲ得

○本條ノ法文明瞭別ニ解釋ヲ要セサルモ左ノ二點ニ注意スヘシ

一現行犯トハ准現行犯ヲモ併セ云フモノナリ

一現行犯ノ場合ニ於テ令狀ヲ待タスシテ被告人ヲ逮捕スルコトヲ許セシハ罪跡顯然トシテ無辜ノ良民ヲ苦ムルカ如キヲ無之且急速ニ逮捕セサレハ逃走ノ恐アルカ故ナリ

第五十九條

巡查憲兵卒被告人ヲ逮捕シタルトキハ速ニ之ヲ司法警察官ニ引致ス可シ
其被告人ヲ受取りタル司法警察官ハ逮捕及ヒ告發ニ付テノ調書ヲ作ル可シ

第六十條

何人ニ限ラス重罪又ハ禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪ノ現行犯アル場合ニ於テハ直チニ被告人ヲ逮捕スルコトヲ得

○何人ニ限ラス重罪又ハ禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪ノ現行犯アル場合ニ於テハ直チニ被告人ヲ逮捕スルコトヲ得ルナリ其カク定メタル所以ハ然ラサレハ證據湮滅及ヒ逃走ノ恐レアルカ故ナリ加之之ヲ逮捕スルヲ得ストセハ加害者愈々加害ノ行爲アルヘク被害者益々被害セ

ラル、ニ至ラン故ニ何人モ逮捕スルコトヲ得ト定メタリ
 第五十八條ニハ逮捕スヘシトアルモ本條ニハ逮捕スルヲ得トアリ其
 所以ハ第五十八條ノ場合ニ於テハ職務上逮捕ノ責任アルモノナレト
 モ本條ハ之ト異ナリ敢テ職務ヲ有スルモノニアラサレハナリ故ニ本
 條ノ場合ニ於テハ逮捕スルト否トハ各人ノ自由ナリトス

第六十一條

前條ノ場合ニ於テ被告人ヲ逮捕シタル者ハ之ヲ司法警察官ニ引致ス
 可シ若シ引致スルコトヲ得サルトキハ自己ノ氏名職業住所及ヒ其逮
 捕ノ事由ヲ陳述シ假ニ之ヲ巡查憲兵卒ニ引渡スコトヲ得
 被告人ヲ巡查憲兵卒ニ引渡シタルトキハ速ニ告訴又ハ告發ヲ爲ス可
 シ
 被告人又ハ巡查憲兵卒ハ逮捕ヲ爲シタル者ニ對シ共ニ官署ニ至ルコ

トヲ求ムルヲ得但逮捕ヲ爲シタル者ハ正當ノ事由アルニ非サレハ其
 求ヲ拒ムコトヲ得ス

○普通人ニシテ前條ノ規定ニヨリ被告人ヲ逮捕シタルトキハ之ヲ司法
 警察官ニ引致スヘキモノトス然レトモ加害者ノ爲ニ負傷シテ自ラ官
 署ニ引致スルコト能ハサルカ又ハ家ニ急病人アルカ爲ニ自ラ官署ニ
 引致スルノ暇ナキコトナキヲ保セス此場合ニ於テハ自己ノ姓名職業
 住所及ヒ其逮捕ノ事由ヲ陳述シテ仮ニ之ヲ巡查憲兵卒ニ引渡スコト
 ヲ得レモノナリ
 被告人ヲ巡查憲兵卒ニ引致シタルトキハ速ニ告訴又ハ告發ヲ爲スヘ
 キモノトス蓋シ此場合ニ於テ必ス告訴又ハ告發ヲ爲スヘシト云ヒ一
 ノ義務ヲ負ハシメタルモノハ然ラサレハ故ナク良民ヲ逮捕シテ之ヲ
 引渡スカ如キ弊ナキヲ保セサレハナリ

被告人又ハ巡查憲兵卒ハ逮捕ヲ爲シタルモノニ對シ共ニ官署ニ至ルコトヲ求ムルヲ得ヘク而シテ其求ヲ受ケタル逮捕者ハ正當ノ事由例ヘハ負傷、急病等ノ爲止ムナキ場合ノ外ハ必ス之ニ應シヘキモノトス之レ又猥リニ人ヲ逮捕スルカ如キコトナカラシカ爲メノ規定ナリ

第二章 起訴

第六十二條

地方裁判所檢事犯罪ノ搜查ヲ終リタルトキハ左ノ手續ヲ爲ス可シ

- 第一 重罪ト思料シタル事件ニ付テハ豫審判事ニ豫審ヲ求ム可シ
- 第二 輕罪ト思料シタル事件ニ付テハ其輕重難易ニ從ヒ豫審ヲ求メ又ハ直ニ其裁判所ニ訴ヲ爲ス可シ
- 第三 裁判所構成法第十六條第二號第三號ニ記載シタル輕罪又ハ違警罪ト思料シタル事件ニ付テハ證據書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ

區裁判所檢事送致ス可シ

○本條ハ地方裁判所檢事犯罪ノ搜查ヲ終リタルトキニナスヘキ手續ヲ定メタルモノナリ

重罪ト思料シタル事件ニ付テハ豫審判事ニ豫審ヲ求ムヘシ蓋シ重罪ハ其刑重ク從テ被告人ニ重大ノ罰ヲ加フルモノナルカ故ニ周到鄭重ノ取調ヲナササルヘカラス況ンヤ一度決行スレハ回復スルコト能ハサル死刑ニ該當スルモノ、如キニ於テヲヤ且夫レ重罪ハ其情狀ノ連ナル所錯綜一目斷スヘカラサルモノ多シ即チ檢事重罪ト思料シタルトキハ豫審判事ニ豫審ヲ求ムヘシト定メタル所以ナリ
輕罪ト思料シタル事件ニ付テハ其輕重難易ニ從ヒ豫審ヲ求メ又ハ直ニ其裁判所ニ訴ヲ爲スヘキモノナリ若シ明白簡單ナル事件ト雖モ豫審ヲ求ムヘシトナサバ徒ラニ無用ノ手續ト日時トヲ費スモノト云フ

ヘシ之レ輕罪ト思料シタル事件ニ付テハ必スシモ豫審ヲ求ムヘシト
 定メサル所以ナリ
 輕重難易トハ如何難易ハ即チ其事件ノ錯綜繁雜ナルト否トヲ云フモ
 ノナルヘキモ輕重トハ如何輕罪中最モ重キモノト輕キモノトノ云ヒ
 カ果シテ然ラハ輕罪ノ刑期最モ長キモノハ常ニ豫審ヲ求メ短キ者ハ
 常ニ豫審ヲ求メサルノ意カ又果シテ然ラハ刑期長キモノハ其事件簡
 單明白ナルトキト雖モ豫審ヲ求メサルヲ得サルヘク之レト反シテ刑
 期短キトキハ縱令錯綜繁雜ノ事件ト雖モ豫審ヲ求ムルコトヲ得サル
 ベシ之豈宜キヲ得タルモノナランヤ然ラハ輕重トハ何ノ輕重ヲ云フ
 ヤ余思フニ社會治安ニ關スル輕重又ハ情狀ノ輕重ヲ云フモノナルベ
 シ然レトモ余ハ學理上難易ニ依テ豫審ヲ求ムルモノト然ラサルモノ
 トナ區別スルノ外輕重ニヨリテ差等ヲ設クルノ要ナカラシテ信ス尙

ホ云ハ、本條第二輕重ノ文字ヲ刪除シテ可ナリ
 裁判所構成法第十六條第二號第三號ニ記載シタル輕罪又ハ違警罪ト
 思料シタルトキニ豫審ヲ求メサルハ其刑輕キカ故ニ丁寧ナル手續ヲ
 用ユルノ要ナキカ故ニシテ之ヲ區裁判所檢事ニ送致スルハ區裁判所
 ノ管轄ニ屬スル事件ナルカ故ナリ

裁判所構成法第十六條ノ法文ハ左ノ如シ

區裁判所ハ刑事ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一 違警罪

第二 本刑五十圓以下ノ罰金ヲ附加シ若クハ附加セサル二月以

下ノ禁錮又ハ單ニ百圓以下ノ罰金ニ該ル輕罪

第三 刑法第二篇第一章ヲ除キ其他ノ輕罪ニシテ本刑二百圓以

下ノ罰金ヲ附加シ若クハ附加セサル二年以下ノ禁錮又ハ

單ニ三百圓以下ノ罰金ニ懲リ其ノ情第二ニ掲ケタル刑ヨリ更ニ重キ刑ニ處スルコトヲ要セスト認メ地方裁判所若ハ其ノ支部ノ檢事局ヨリ區裁判ニ移付シタルモノ(以下畧ス)

第六十三條

區裁判所檢事犯罪ノ捜査ヲ終リタル上裁判所構成法第十六條第一號第二號ニ記載シタル事件ト思料シタルトキハ其裁判所ニ訴ヲ爲スコシ

第六十四條

檢事ハ被告事件其裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノト思料シタルトキハ之ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送致ス可シ
被告事件罪ト爲ラス又ハ公訴受理スヘカラサルモノト思料シタルト

キハ起訴ノ手續ヲ爲スヘカラス

○犯罪ノ種類場所等ニヨリ裁判管轄ニ區別アルモノナルカ故ニ被告事件其裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノト思料シタルトキハ之ヲ管轄スヘキ正當ノ裁判所ノ檢事ニ送致スヘキモノナリ

公訴ハ刑ノ適用ヲ要求スル訴ナルカ故ニ法律上刑罰ヲ科スルコトヲ得サルモノニ向テ起訴ノ手續ヲ爲スヘキノ理ナシ之レ本條第二項ノ設ケアル所以ナリ

被告事件罪ト爲ラストハ犯罪構成ノ元素具備セサルモノ、謂ニシテ例令ハ正當防衛ノ爲ニ人ヲ殺傷シタルモノ無責任ノ幼者ノ竊盜ノ如キ即チ然リ

公訴受理スヘカラサルモノトハ例令ハ被告人ノ死去公效ノ時効等ノ爲ニ刑罰ヲ科スルコト能ハサルカ如キ場合ヲ云フ

被告事件罪ト爲ラス又ハ公訴受理スヘカラサルモノト思料シタルト
 キハ云々トアリ以テ檢事ノ獨立不羈ナルヲ知ルベシ即チ刑罰ヲ當行
 スヘキモノト思料シタルトキハ公訴ヲ起シ然ラサルトキハ公訴ヲ起
 サス之チナスモノサミルモ檢事ノ思料如何ニ在テ他ノ抑制ヲ受クル
 モノニアラサルナリ

第六十五條

前數條ノ場合ニ於テ被告事件告訴ニ係ルトキハ檢事ヨリ其處分ヲ被
 害者ニ通知ス可シ

○前數條ノ場合ニ於テ被告事件告訴ニ係ルトキハ檢事ヨリ其處分ヲ
 被害者ニ通知スヘキモノトス被害者ハ之ニ依テ起訴ノ手續アリタル
 カ或ハ第六十四條第二項ニヨリ起訴ノ手續ヲ爲サミルカチ知ルチ得
 ヘク從テ或ハ公訴ニ附帶シテ私訴ヲ起スコトモアルヘク或ハ民事裁

判所ニ要償ノ訴ヲ起スコトモアルヘシ然ルニ若シ之ヲ通知セザルト
 キハ告訴ノ如何ニ成行シヤチ知ラスシテ爲コ自己ノ權利ヲ擴張セス
 シテ止ムコトナキニアラス之レ本條ヲ設ケ所以アルナリ

第六十六條

檢事豫審ヲ求ムルトキハ證據及ヒ事實參考トナル可キ事物ヲ送致シ
 且臨檢ス可キ場所、逮捕ス可キ人名及ビ證人ト爲ル可キ者ヲ指示ス可
 シ

○檢事重罪又ハ困難ナル輕罪ト思料シ豫審ヲ求ムルニハ豫審ヲ求ム
 ルニ足ル証憑ノ存スルカ故ナリ然ラサレハ豈重罪又ハ輕罪ニ該當ス
 ルモノト思料スルコトヲ得シヤ故ニ豫審ヲ求ムルトキハ檢事カ知リ
 得タル丈ケノ有罪無罪ノ証憑及ヒ事實參考トナルヘキ事物ヲ送致シ
 且臨檢ス可キ場所、逮捕ス可キ人名及ビ証人ト爲ル可キ者ヲ指示スヘ

キナリ

第三章 豫審

○豫審ハ犯罪ノ証憑ヲ審査シテ其事件ノ公判ニ付スヘキモノナルヤ否ヲ判決スルモノナリ

公判ニ付スル前ニ豫審ヲ經ルハ如何ナル理由ニ基クヤ豫審ハ如何ナル必要アルヤ曰ク重モナルモノニアリ

一事ノ重大困難ナルモノハ周到鄭重ノ手續ヲ要ス重罪又ハ錯綜セル輕罪事件ニ付テハ丁寧深切ナル取調ヲナサシメハ其情狀ヲ審カニシ遠因近因ヲ知レコト能ハス爲メニ兇漢法網ヲ免レ良民獄裏ニ呻吟スルコトナギヲ保セス之レ豫審ヲ設ケテ充分ノ取調ヲナサシムル所以ナリ

二被告人ノ名譽ヲ毀損スルノ患ナカラシム豫審ヲ經ス直ニ公判ニ附

スルトキハ被告人ノ名譽ヲ害スルコトアリ即チ公判ハ公開スヘキモノナルカ故ニ審理ノ末縱令無罪ノ言渡ヲ受クルト雖モ重大ナル刑事ノ被告人トシテ衆人ノ面前ニ於テ審理セラル、カ故ニ被告人ノ名譽ヲ害スルコト甚々シ之レト反シテ豫審ニ於テノ審理ハ秘密ナルカ故ニ免訴ノ言渡ヲ受クルトキハ公判ニ於テ無罪ノ言渡ヲ受クル場合ト異ニシテ名譽上大ナル毀損ヲ受クルモノニアラス

三檢事ハ有罪無罪ノ証憑ヲ併セ蒐集スルモノナリト雖モ有罪ノ証憑ノミヲ擧ケテ常ニ被告人ヲ有罪視スルノ傾キアリ即チ豫審ニ附シ果シテ檢事ノ蒐集セル証憑ノ有罪ヲ証スルニ足ルカヲ審査シ以テ被告人ノ權利ヲ保護スルヲ要スル所以ナリ

右豫審ヲ設ケタル重モナル理由トス

第六十七條

豫審

現行ノ重罪輕罪ヲ除ク外豫審判事ハ檢事ノ請求アルニ非サレハ豫審ニ取掛ルコトヲ得ス此規定ニ背キタルトキハ其請求ヨリ以前ニ係ル手續ノ效ナカル可シ

○豫審判事ハ裁判官ナルカ故ニ請求ヲ受ケサル事件ニ付テハ審理スルコトヲ得サルモノトス然レトモ現行ノ重罪輕罪アルニ當テハ社會公益上不問ニ附スルコトヲ得ス即チ証憑湮滅ノ恐レアレハナリ之レ本條現行ノ重罪輕罪ヲ除クノ外ト定メタル所以ナリ

第六十八條

檢事ハ豫審中何時ニテモ豫審判事ニ請求シテ訴訟記録ヲ檢閱スルコトヲ得但二十四時内ニ之ヲ還付ス可シ
又必要ナリトスル處分ニ付キ臨時其請求ヲ爲スコトヲ得

第一節 令狀

第六十九條

豫審判事ハ檢事ノ起訴ニ因リ重罪輕罪ノ事件ヲ受理シタルトキハ被告ニ對シ先ツ召喚狀ヲ發ス可シ但召喚狀ノ送達ト被告人出頭トノ間少クトモ二十四時ノ猶豫アル可シ
召喚狀ニ因リ出頭シタル被告人ハ即時ニ之ヲ訊問ス可シ又遅クトモ出頭ノ日ヲ過クルコトヲ得ス

○令狀トハ相當官吏ヨリ出庭又ハ拘束ヲ命スル所ノ書面ニシテ之ニ三種アリ召喚狀勾引狀及ヒ勾留狀之レナリ本條ハ令狀ノ其一ニ居ル召喚狀ノコトヲ定メタルモノナリ

豫審判事ハ檢事ノ起訴ニ因リ重罪輕罪ノ事件ヲ受理シタルトキハ被告ニ對シ先ツ召喚狀ヲ發スヘキモノナリ召喚狀トハ單ニ出庭ヲ命スルモノニシテ敢テ身体ヲ拘束スルノ力ナキモノヲ云フ其始メニ召

喚狀ヲ發スル所以ハ先ツ被告人ヲ訊問スルハ事ノ順序ナルカ故ニシテ身体ヲ拘束スルノ力アル令狀ヲ發セサルハ罪ノ有無未タ不明ニシテ且ツ禁錮以上ノ刑ニ當ルヤ否ヤ判然セサルニモ拘ハラス直チニ身体ヲ拘束スルハ理ノ決シテ許サミル所ナレハナリ

召喚狀ノ送達ト被告人出頭トノ間少クトモ二十四時ノ猶豫アラシムヘキナリ此猶豫ヲ與フルハ敢テ辨護ノ準備ヲナサシメンカ爲ニアラスシテ直チニ出頭スヘシト云フモ直チニ出頭スルコト能ハサルコトアルヘキカ故ナリ

送達トハ召喚狀ヲ發シタル時ヲ云フモノナルヤ又ハ本人ニ於テ受取リタルトキナ云フヘキモノナルヤ二説アリ甲ハ曰ク發シタル時ヲ以テ起算点トスヘシト乙ハ曰ク本人ニ達シタル時ヲ以テ起算点トスヘシト余ハ乙説ヲ可トス若シ裁判所ニ於テ召喚狀ヲ發シタルトキヨリ

起算スヘキモノトナサバ執達吏ノ退出其他ノ事情ニヨリ實際本人ニ達セシ時ト出頭ノ時ト其間二十四時ニ滿タサルコト絶テ之レナキヲ保セス從テ本條二十四時ノ猶豫ヲ與フル法文ニ背反スルコトアルヘシ甲説ノ誤レルヤ明ラカナリ

召喚狀ニ因リ出頭シタル被告人ハ即時ニ之ヲ訊問スヘク遅クトモ出頭ノ日ヲ過クルコトヲ得サルモノトス

第七十條

豫審判事ハ召喚狀ヲ受ク可キ被告人其管轄地内ニ住セサルトキハ訊問ス可キ條件ヲ明示シテ被告人所在ノ地ノ豫審判事又ハ區裁判所判事ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

○豫審判事ハ召喚狀ヲ受クヘキ被告人其管轄地内ニ住セサルトキハ訊問スヘキ條件ヲ明示シテ被告人所在ノ地ノ豫審判事又ハ區裁判所

判事ニ其所分チ囑託スルコトヲ得ルモノトス若シ然ラスシテ必スシ
モ召喚スヘキモノトナサバ被告人ノ不便蓋シ少カラザラン然レトモ
有罪ノ推測ヤ、確實ナルモノニ至テハ之ヲ召喚スル固ヨリ可ナリ即
チ囑託スルヲ得ト定メテ囑託スヘシト定メサル所以

第七十一條

豫審判事又ハ受託判事ハ召喚狀ヲ受ケタル被告人其日時ニ出頭セサ
ルトキハ勾引狀ヲ發スルコトヲ得

○勾引狀トハ公力ヲ以テ強テ出庭ヲ命スルモノヲ云フ豫審判事又ハ
受託判事ハ召喚狀ヲ受ケタル被告人其日時ニ出頭セサルトキハ勾引
狀ヲ發シ強テ出庭セシムルコトヲ得ルモノトス召喚狀ヲ受ケ之ニ應
セサル者ニ對シテハ罪ノ有無未ダ明カナラストモ強テ公力ヲ以テ之
ヲ引致セサレハ事務擧ラスシテ徒ラニ時日ヲ費消スルノミ勾引狀ヲ

發スル又止ムナキコトハ云フヘシ但シ本條ノ場合ニ於テ必スシモ勾
引狀ヲ發スヘシト命スルニハアラス

第七十二條

豫審判事又ハ受託判事ハ左ノ場合ニ於テ直チニ勾引狀ヲ發スルコト
ヲ得

- 第一 被告人定リタル住所アラサルトキ
- 第二 被告人罪證ヲ湮滅シ又ハ逃亡スル恐アルトキ
- 第三 被告人未遂罪又ハ脅迫罪ヲ犯シ仍ホ其目的ヲ遂ケントスル
恐アルトキ

○本條ハ豫審判事又ハ受託判事召喚狀ヲ發セスシテ直チニ勾引狀ヲ
發スルコトヲ得ル場合ヲ定メタルモノナリ其場合三アリ
一被告人定リタル住所アラサルトキ

被告人定リタル住所アラサルトキハ召喚狀ヲ送達スヘキ一定ノ場所
ナク又逃走ノ恐レアルカ故ニ直チニ勾引狀ヲ發スルコトヲ得セシメ
タリ

二、被告人罪證ヲ湮滅シ又ハ逃亡スル恐アルトキ

罪證ヲ湮滅シ又ハ逃亡セントスルモノニ對シテ強テ引致スルノ力ナ
キ召喚狀ヲ發スルモ何ノ效ナクシテ却テ罪證湮滅又ハ逃亡ノ機會ヲ
與フルモノナリ之レ直ニ勾引狀ヲ發スルコトヲ得ル所以ナリ

三、被告人未遂罪又ハ脅迫罪ヲ犯シ仍ホ其目的ヲ遂ケントスル恐アル
トキ

被告人罪ヲ犯シ未タ其目的ヲ遂ケサルニヨリ仍ホ進シテ其目的ヲ遂
ケントスル未遂罪又ハ脅迫罪犯者ニ對シテハ身体ヲ拘束スルニアラ
サレハ益其惡ヲ逞フスルニ至ルヘシ果シテ然ラハ社會ノ危險如何ソ

ヤ之レ直チニ勾引狀ヲ發スル所以

本條法文ニ勾引狀ヲ發スルコトヲ得トアリテ必スシモ發スヘト命
セス故ニ本條ノ場合ニ於テ勾引狀ヲ發スルト否トハ豫審判事ノ意思
如何ニアルモノト云フヘシ然レトモ余ノ信スル所ヲ以テセハ苟モ本
條三个ノ場合ニ相當スルモノハ刑事訴訟ノ目的ヲ達スルニ付テ社會
ノ公益ヲ保護スルニ付テ必ス勾引狀ヲ發スヘキモノナリ而モ發スル
ト否トヲ判事ニ一任セタル所以ハ如何余解スル能ハス

第七十三條

勾引狀執行ノ命ヲ受ケタル者ハ其令狀ヲ發シタル判事ニ被告人ヲ引
致ス可シ

勾引狀ヲ以テ引致シタル被告人ハ四十八時内ニ之ヲ訊問ス可シ若シ
其時間ヲ經過スルトキハ勾留狀ヲ發スルニ非サレハ當然之ヲ釋放ス

可シ

○勾引狀執行ノ命ヲ受ケタル者ハ其令狀ヲ發シタル判事ニ其被告人ヲ引致スヘキモノナリ
勾引狀ヲ以テ引致シタル被告人ハ四十八時内ニ之ヲ訊問ス可ク若レ其時間ヲ經過スルトキハ勾留狀ヲ發スルニ非レハ當然之ヲ釋放スヘキモノナリ

四十八時内ト定メタル所以如何曰ク事務ノ都合ニヨリ直チニ訊問スルコト能ハサルコトアラシク慮ハカリテナリ然レトモ余ハ異論アリ
勾引狀ハ被告人ヲ豫審判事ノ面前ニ引致スルノ效アルノミニシテ之ヲ勾留スルノ力アルモノニアラス今夫レ四十八時間ト定メンニハ勾引狀ハ一日勾留ノ力アルモノト云ハサルヘカラス之レ豈勾引狀ノ性質ナラシヤ故ニ余ハ四十八時ヲ改メテ二十四時間トナサンコトヲ望ム

ナリ

本條訊問ス可シ若シ其時間ノ經過スルトキハ云々トアリ一見スレハ時間内ニ何等ノ訊問ヲモナサスシテ單ニ時間經過ノ爲ニ勾留狀ヲ發スルヲ得ルカ如ク解セラルレト第七十五條ニ定メタル如ク訊問レテ禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキモノト思料シタル時ニアラサレハ勾留狀ヲ發スルコトヲ得サルモノトス

第七十四條

豫審判事又ハ受託判事ハ召喚狀又ハ勾引狀ヲ受ケタル被告人疾病其他正當ノ事由アリテ令狀ニ應スル能ハサルコトヲ疎明シタルトキハ被告人ノ所在ニ就テ之ヲ訊問スルコトヲ得

○被告人疾病ノ爲又ハ看護其他正當ノ事由アル爲令狀ニ應スル能ハサルトキハ其旨ヲ証明スヘク此場合ニ於テハ豫審判事又ハ受託判事

ハ被告人ノ所在ニ就テ之ヲ訊問スルコトヲ得ルモノナリ

第七十五條

拘留狀ハ被告人ヲ訊問シタル後禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノト思料スルニ非サレハ之ヲ發スルコトヲ得ス但被告人逃亡シタル場合ニ於テハ其訊問ヲ爲サスレテ之ヲ發スルコトヲ得

○拘留狀ハ被告人ヲ未決拘留ニ付シ身体ヲ束縛スルモノナルカ故ニ未ダ有罪ノ推測充分ナラサルモノニ向テ拘留狀ヲ發スヘントナサハ吾人ノ不幸之レヨリ大ナルハナカルヘシ又ヨシ有罪ノ推測既ニ充分ナルトキト雖モ禁錮以下ノ刑ニ該當スルモノニマテ拘留狀ヲ發スヘントナサバ本刑ヨリモ一層苦痛ヲ與フルノ感アリ之レ本條拘留狀ハ被告人ヲ訊問シタル後禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキモノト思料スルニ非サレハ之ヲ發スルコトヲ得スト定メタル所以ナリ然レトモ被告人逃

亡シタル場合ニ於テハ其訊問ヲ爲サスレテ之ヲ發スルコトヲ得ルナリ何トナレハ一旦逃亡シタル者ハ逃亡ノ一事ヲ以テ有罪ノ推測ヲ下スコトヲ得ヘテ又拘留スルニアラサレハ常ニ逃亡ノ患ヲ免カルヘカラサレハナリ

第七十六條

總テ令狀ニハ被告事件及ヒ被告人ノ氏名職業住所ヲ記載ス可シ但召喚狀ヲ除ク外其氏名分明ナラサルトキハ容貌體格等ヲ明示ス可シ又令狀ニハ之ヲ發スル年月日時ヲ記載シ判事及ヒ裁判所書記署名捺印ス可シ

召喚狀ハ執達吏ヲシテ被告人ニ送達セシメ勾引狀拘留狀ハ巡查憲兵卒ヲシテ之ヲ執行セシム

○令狀トハ召喚狀勾引狀拘留狀ノ三種ヲ包含シタル名稱ナリ

令狀ニ被告事件ヲ記載スルハ被告人ヲシテ何故ニ令狀ヲ發セラレタルカヲ知ラシメンカ爲ナリ
 氏名職業住所ヲ記載スルハ然ラサレハ送達又ハ執行スルニ付テ困難ニシテ且ツ人違ヲ生スルコトアレバナリ
 召喚狀ヲ除クノ外氏名分明ナラサルトキニ容貌体格年齢特徴等既ニ知リ得タル事實ニシテ而シテ被告本人ナルコトヲ知ルニ必要ナルヘキ凡テノ事ヲ記スルハ之ニ依テ執行セシメンカ爲ナリ
 令狀ニ之ヲ發シタル年月日ヲ記載スルハ種々ノ利益アルヘシト雖モ重モナルモノハ裁判管轄ヲ知ルノ點ニ在リテ存ス第二十七條ニ曰ク數箇ノ裁判所ノ管轄ナル場合ニ於テハ其中ニテ最初豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス故ニ令狀ニ年月日ヲ記載スルトキハ二箇以上ノ管轄裁判所ニ於テ共ニ豫審ニ着手シタル場合ニ

於テ何レカ前キニ着手シタルヤヲ知ルコトヲ得ルノ利益アリ
 判事及ヒ裁判所書記署名捺印スルハ職權ヲ以テ發シタル正當ノ令狀ナルコト及ヒ掛リ判事ノ誰レタルコトヲ明カニセンカ爲ナリ
 召喚狀ハ執達吏ヲシテ被告人ニ送達セシムルモノト定メタルハ召喚狀ハ只送達スルノミニシテ別ニ公力ヲ要セサルモノナレハナリ
 勾引狀勾留狀ハ巡查憲兵卒ヲシテ之ヲ執行セシムト定メタルハ公力ヲ以テ強テ執行スルヲ要スルモノナレハナリ

第七十七條

勾引狀勾留狀ハ時宜ニ因リ正本數通ヲ作り巡查憲兵卒數人ニ分付スルコトアル可シ
 前項ノ令狀ヲ執行スルニハ被告人ニ正本ヲ示シ其謄本ヲ下付ス可シ此場合ニ於テハ其正本謄本ニ執行ノ場所日時ヲ記載シ被告人ヲシテ

署名捺印せしむ若し署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記ス可レ

○本條第一項ハ勾引狀勾留狀ハ時宜ニ因リ正本敷通ヲ作り巡査憲兵卒數人ニ分付スルコトアルヘキ旨ヲ定メタルモノナリ若し被告人ノ住所分明ナルトキハ固ヨリ一通ノ令狀ヲ發スルヲ以テ充分ナリト雖モ住所分明ナラサルモノニ在テハ一通ノ令狀ノモテ其效ヲ奏スルコト能ハサルヘシ例令ハ被告人甲地ニアルヲ聞キ令狀ヲ携帯シテ甲地ニ至ルモ既ニ早ク逃走シテ乙地ニ在ルトキノ如キ乙地ノ巡査憲兵卒共地ニ令狀執行ヲ受クヘキ被告人アルコトヲ知ルモ令狀ナキカ爲ニ之ヲ執行スルコト能ハサルノ不都合アルヘシ果シテ然ラハ其弊如何之レ本條公益ノ爲ニ他ノ管轄權ニマテ侵入スルコトアルベキヲ定メタルモノニシテ止ムナキ次第ト云フヘシ

第二項ハ令狀執行ノ手續ヲ定メタルモノニシテ認明明白解釋ノ要ナレ

第七十八條

令狀執行ノ命ヲ受ケタル巡査憲兵卒ハ被告人共家宅若シハ他人ノ家宅ニ潛匿シタリト思料シタルトキハ其地ノ市町村長又其差支アルトキハ隣佑二名以上ノ立會ヲ求メ之ヲ搜索ス可レ
前項ノ場合ニ於テハ被告人ヲ發見シタルト否トニ拘ハラヌ搜索調査ヲ作り立會人ト共ニ署名捺印ス可レ
家宅搜索ハ日出前日没後之ヲ爲スコトヲ得ス但旅店割烹店其他夜間ト雖モ乘人ノ出入スル場所ニ付テハ其公開時間内ニ限リ何時ニテモ搜索ヲ爲スコトヲ得

○令狀執行ノ命ヲ受ケタル巡査憲兵卒ハ被告人共家宅若シハ他人ノ

家宅ニ潜匿シタリト思料シタルトキハ其地ノ市町村長又其差支アルトキハ隣佑二名以上ノ立會ヲ求メ之ヲ搜索スヘキモノナリ人ノ家宅ニ侵入スヘカラサルハ我憲法ニ於テモ之ヲ認メタル所ナレトモ然レトモ公益ノ爲ニハ之ヲ爲ササルヘカラス若シ夫レ如何ナル場合ト雖モ人ノ家宅ニ侵入スルコトヲ得ストセハ罪ヲ犯スモ家宅内ニ在ルトキハ之ヲ如何トモスル能ハサルニ至ラン果シテ然ラハ社會ノ公益如何之レ本條ニ於テ家宅ヲ搜索スルコトヲ得セシムル所以ナリ然レトモ家宅搜索ハ家宅不侵ノ權利ヲ紊亂スルモノニシテ其事ヤ大ナリ決シテ猥リニスヘカラス市町村長又ハ隣佑二名以上ノ立會ヲ要スルコト被告人ヲ發見シタルト否トニ拘ハラス搜查調書ヲ作り立會人ト共ニ署名捺印スルヲ要スルコト、セルハ之カ爲ナリ

被告人共家宅若クハ他人ノ家宅ニ潜匿シタリト思料シタルトキハ家

宅ヲ搜索スヘキモノナリト雖モ然レトモ日出前日没後ニ之ヲ爲スコトヲ許サス即チ夜間ノ秩序ヲ紊亂シ安眠ヲ妨ケ權利ヲ侵害スルコト最モ甚シキカ故ナリ但シ旅店割烹店其他夜間ト雖モ衆人ノ出入スル場所ニ付テハ其公開時間内ニ限リ何時ニモ搜索ヲ爲スコトヲ得ルナリ之レ普通ノ家宅ト異ニシテ夜間ニ搜索スルモ別ニ安眠ヲ害スルカ如キコト無之又有之トスルモ其害甚シキニアラサレハナリ

本條ニヨレハ或ル家宅ハ格別通常ノ家宅ニ付テハ夜間ニ搜索スルコトヲ許サス故ニ被告人共家宅ニ潜匿シタルコト明確ナルトキト雖モ之ヲ搜索スルコト能ハス只此場合ニ於テノ巡查憲兵卒ハ終夜家屋ノ周圍ヲ監守シテ被告人ヲ逃走セシメサラシムル様注意スルヲ要ス

第七十九條

豫審判事ハ被告人他ノ管轄地内ニ潜匿シタルコトヲ知り又ハ潜匿シ

マロト思料シタル場合ニ於テ被告事件急速ヲ要スルトキハ巡查憲兵卒ニ令狀ヲ帶行セシムルコトヲ得
 巡查憲兵卒ハ被告人所在ノ地ノ豫審判事検事又ハ司法警察官ニ令狀ヲ示シテ即時ニ執行ヲ求ム可シ

第八十條

豫審判事ハ被告人所在ノ地ヲ覺知スルコト能ハサルトキハ各検事長ニ被告人ノ人相書ヲ送致シ捜査及ヒ逮捕ヲ爲ス可キコトヲ請求スルヲ得
 請求ヲ受ケタル検事長ハ其管轄地内ノ検事ヲシテ搜索及ヒ逮捕ノ處分ヲ爲サシム可シ此場合ニ於テ検事ノ發シタル逮捕狀ハ勾留狀ト同一ノ效ヲ有ス

第八十一條

豫備後備ノ軍籍ニ在ラサル下士以下ノ軍人軍屬ニ對シ令狀ヲ發シタルトキハ其所屬ノ長官又ハ隊長ニ令狀ヲ示ス可シ其長官又ハ隊長ハ己ムコトヲ得サル差支アルニ非サレハ本人ヲシテ速ニ令狀ニ應ヒシム可シ

○本條ノ定メアルハ軍紀ヲ維持センカ爲ナリ

第八十二條

勾留狀ヲ受ケタル被告人ハ速ニ其令狀ニ記載シタル監獄署ニ引致ス可シ若シ其監獄署ニ引致スルコト能ハサルトキハ假ニ最近ノ監獄署ニ引致スルコトヲ得

何レノ場合ニ於テモ監獄署長ハ令狀ヲ檢閲シテ被告人ヲ受取り其證書ヲ渡ス可シ

○巡查憲兵卒勾留狀ヲ執行シタルトキハ其令狀ニ記載シタル監獄署

ニ被告人ヲ引致スヘキモノナリ然レトモ發病夜間其他ノ事由ノ爲令
 狀ニ記載シアル監獄署ニ引致スルコト能ハサルトキハ仮ニ最近ノ監
 獄署ニ引致スルコトヲ得ルモノトス
 何レノ場合ニ於テモ監獄署長ハ令狀ヲ檢閲シテ被告人ヲ受取り其証
 書ヲ交付スヘキナリ令狀ヲ檢閲スルハ果シテ勾留スヘキ被告人ナル
 ヤ否其令狀ハ正當ノ法式ヲ備ハタルヤ否ヤヲ知ランカ爲ニシテ証書
 ヲ交付スルハ執行者ニ責任ヲ免カレシメンカ爲ナリ

第八十二條

令狀執行ノ命ヲ受ケタル巡查憲兵卒ハ之ヲ執行シタルコト又執行ス
 ルコト能ハサルトキハ其事由ヲ令狀ノ正本ニ記載ス可シ
 巡查憲兵卒ハ令狀執行ニ關スル書類ヲ檢事ニ差出ス可シ

第八十四條

勾留狀ヲ受ク可キ被告人既ニ監獄署ニ在ルトキハ執達吏ヲシテ之ヲ
 本人ニ送達セシム可シ

第八十五條

密室監禁ノ場合ヲ除ク外被告人ハ監獄則ニ從ヒ官吏ノ立會ニ依リ其
 親屬故舊又ハ辯護士ニ接見スルコトヲ得
 書翰書籍其他ノ書類ハ豫審判事又ハ檢事ノ檢閲ヲ經タル後ニ非サレ
 ハ被告人ト外人ト之ヲ授受スルコトヲ許サス但豫審判事又ハ檢事ハ
 其書類ヲ留置クコトヲ得

第八十六條

豫審判事ハ被告事件禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノニ非スト思料シタ
 ルトキハ豫審中何時ニテモ勾留狀ヲ取消ス可シ

第二節 密室監禁

密室監禁

第八十七條

豫審判事ハ豫審中事實發見ノ爲メ必要ナリト思料シタルトキハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ勾留狀ヲ受ケタル被告人ヲ密室ニ監禁スル言渡ヲ爲スコトヲ得

○豫審判事ハ豫審中事實發見ノ爲メ必要ナリト思料シタルトキハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ勾留狀ヲ受ケタル被告人ヲ密室ニ監禁スル言渡ヲ爲スコトヲ得ルナリ

密室監禁ハ條文ノ明示スルカ如ク事實發見ノ爲メ必要ナル場合ニ言渡スモノニシテ全ク證據ノ湮滅ヲ防クヲ以テ其目的トスルモノナリ

第八十八條

密室監禁ノ言渡ヲ受ケタル被告人ハ一名毎ニ之ヲ別室ニ置キ豫審判事ノ允許ヲ得ルニ非サレハ他人ト接見シ又ハ書類其他ノ物品ヲ授受

スルコトヲ許サス

第八十九條

密室監禁ハ十日ヲ超過ス可カラズ但十日毎ニ其言渡ヲ更改スルコトヲ得

言渡ヲ更改スルトキハ其事由ヲ裁判所長ニ報告ス可シ豫審判事ハ十日間ニ少クトモ二度被告人ヲ訊問ス可シ

○本條ノ制限アルハ密室監禁ハ被告人ニ甚シキ苦痛ヲ感セシムルモノナルカ故ナリ

第三節 證據

第九十條

被告人ノ自白官吏ノ檢證調書證據物件證人及ヒ鑑定人ノ供述其他諸般ノ徵憑ハ判事ノ判斷ニ任ス